

もくじ

もくじ	1
はじめに	6

1章 セットアップ 9

1 Windows のセットアップ	10
1 セットアップをするときの注意	10
2 電源コードと AC アダプタを接続する	11
3 電源を入れる	12
4 セットアップをする	13
2 ユーザ登録をする	23
1 東芝へのユーザ登録	23
2 その他のユーザ登録	23

2章 電源を入れる／切る 25

1 電源を入れる	26
2 電源を切る	28
3 再起動する	30

3章 Libretto の機能 31

- 1 各部の名称 32
- 2 システムインジケータ 37
- 3 ディスプレイ 38
- 4 ハードディスクドライブ 40
- 5 音量の調節 42
 - 1 スピーカの音量を調節する 42
 - 2 音楽／音声の録音レベルを調節する 45
 - 3 システムスピーカについて 46
- 6 内蔵モデム 47
- 7 アクュポイントⅡとコントロールボタン 52
- 8 キーボード 56
 - 1 キーボードについて 56
 - 2 日本語を入力するには 62
- 9 日常の取り扱いとお手入れ 63

4章 モバイルしよう 69

- 1 モバイルする前に 70
- 2 バッテリーを充電する 72
 - 1 バッテリー充電量を確認する 74
 - 2 バッテリーを充電する 77
 - 3 バッテリーパックを交換する 79
- 3 省電力ユーティリティを使う 80

4	パスワードセキュリティ機能を使う	87
1	パスワードセキュリティ機能について	87
2	ユーザパスワードの設定	88
3	ユーザパスワードの入力	92
4	スクリーンセーバーのパスワードによる保護	93
5	パソコンの使用を中断する／簡単に電源を切る	95
1	スタンバイ／休止状態	95
2	簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断するとき	99
6	外出先でインターネットをする	101

5章 Libretto を拡張する 105

1	周辺機器を接続する前に	106
1	本製品に接続できる周辺機器	106
2	周辺機器を使う前に	108
3	取り付け／取りはずしのご注意	109
2	PC カードを接続する	110
3	USB 対応機器を接続する	114
4	マイクロホンを接続する	116
5	ヘッドホンを接続する	117
6	CRT ディスプレイを接続する	118
7	LAN へ接続する	122
8	メモリを増設する	125

6章 困ったときは 131

- 1 Q&A 集を見る前に 132
 - 1 トラブルを解消するまで 132
 - 2 トラブル解消に役立つ操作 136
- 2 Q&A 集 137

7章 再セットアップ 171

- 1 再セットアップとは 172
 - 1 再セットアップが必要なとき 172
 - 2 再セットアップする前に 172
- 2 リカバリ CD とは 173
- 3 標準システムを復元する 174
 - 1 はじめる前に 174
 - 2 操作手順 175
- 4 標準システムインストール起動ディスクを使う .. 178

付録 181

- 1 本製品の仕様 182
 - 1 外形寸法図 182
 - 2 サポートしているビデオモード 183
 - 3 メモリマップ 185
 - 4 I/O ポートマップ 186
 - 5 DMA 使用リソース 187
 - 6 IRQ 使用リソース 188







2	各インタフェースの仕様.....	189
1	RGB インタフェース (ミニRGB ケーブル)	189
2	USB インタフェース	190
3	モデムインタフェース.....	190
4	LAN インタフェース.....	191
3	技術基準適合について	192
4	アフターケアについて	205
5	廃棄について	206
6	アプリケーションのお問い合わせ先	207
7	トラブルチェックシート.....	209
	さくいん	213

はじめに

本製品を安心してお使いいただくために重要な事項が添付の冊子『安心して
お使いいただくために』に記載されています。よくお読みください。

本書は、次のきまりに従って書かれています。

記号の意味

 警告	誤った取り扱いをすると、人が死亡する、あるいは重傷 ^{じゅうしょう} を負う 可能性が想定される内容を示します。
 注意	誤った取り扱いをすると、人が傷害 ^{しょうがい} *1を負ったり、物的損害*2 の発生が想定される内容を示します。
 お願い	データの消失や、故障、性能低下をおこさないために守ってほ しい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示し ます。
 メモ	知っておくと便利な内容を示します。
 用語	覚えておくと役に立つ用語を示します。
 参照	このマニュアルや他のマニュアルへの参照先を示します。 このマニュアルへの参照の場合… 「 」 他のマニュアルへの参照の場合… 『 』 オンラインマニュアルへの参照の場合… 〈 〉

*1 傷害^{しょうがい}とは、治療^{ちりょう}に入院や長期の通院を要しない、けが・やけど・感電などを
さします。

*2 物的損害とは、家屋・家財にかかわる拡大損害を示します。

用語について

本書では、次のように定義します。

システム 特に説明がない場合は、ご使用になるオペレーティングシステム (OS) を示します。

本製品のシステムは、Windows 2000 です。

アプリケーションまたはアプリケーションソフト

..... アプリケーションソフトウェアを示します。

Windows 2000 Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system 日本語版を示します。

MS-IME Microsoft® IME2000 を示します。

記載について

- ・インターネット接続については、内蔵モデムを使用した接続を前提に説明しています。
- ・本書に記載している画面は、実際に表示される画面と異なる場合があります。

Trademarks

- ・Microsoft、MS-DOS、Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- ・Crusoe、Transmeta は、米国およびその他の国における Transmeta 社の商標または登録商標です。
- ・Intel は、Intel Corporation の登録商標です。
- ・Ethernet、Fast Ethernet は富士ゼロックス株式会社の登録商標または商標です。
- ・Adobe Acrobat は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の商標です。
- ・Symantec、Symantec ロゴ、Norton AntiVirus、Live Update は、Symantec Corporation の登録商標です。
(c) 2001 Symantec Corporation, All Rights Reserved.
- ・駅すばあととは、株式会社ヴァル研究所の登録商標です。

本書に掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

リリース情報について

「リリース情報」には、本製品を使用するうえでの注意事項などが記述されています。必ずお読みください。

本製品の電源を入れた状態で、[スタート] → [はじめに] → [リリース情報] をクリックするとご覧になれます。

お願い

- ・本製品の内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）以外をインストールした場合の動作保証はいたしかねます。
- ・内蔵ハードディスクにインストールされているシステム（OS）は、本製品でのみご利用いただけます。
- ・ご購入時に決められた条件以外での、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。お取り扱いにはご注意願います。
- ・パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを削除できなくなった場合は、お使いの機種を確認後、お近くの保守サービスにご依頼ください。パスワードの解除を保守サービスにご依頼される場合は、有償です。またそのとき、身分証明書（お客様ご自身を確認できる物）の提示が必要となります。

お使いになる前に本体同梱のお客様登録カードに必要事項をご記入のうえ、返送してください。

保証書は記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

1 章 セットアップ

- 1 Windows のセットアップ 10
- 2 ユーザ登録をする 23

1

Windows のセットアップ

ここでは、パソコンを使えるようにするための Windows のセットアップを行います。

セットアップには約 10 分かかります（作業時間は人によって多少異なります）。1 度 Windows のセットアップをすれば、次からは電源を入れてすぐにパソコンを使うことができます。

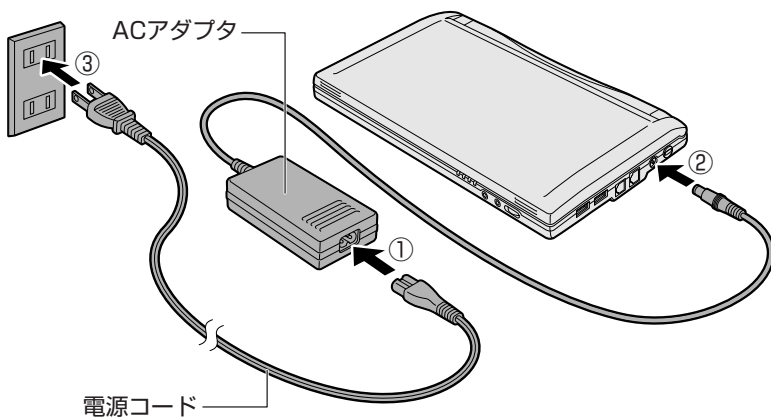
セットアップを始める前に、『安心してお使いいただくために』を必ずお読みください。特に電源コードや AC アダプタの取り扱いについて、よくお読みになり、注意事項をお守りください。

1 セットアップをするときの注意

- 周辺機器は接続しないでください
セットアップは AC アダプタと電源コードのみを接続した状態で行なってください。セットアップが完了するまでプリンタ、マウスなどの周辺機器は接続しないでください。
- 途中で電源を切らないでください
セットアップの途中で電源スイッチを押したり電源コードを抜くと、故障の原因になります。
- 操作は時間をあけないでください
セットアップ中にキー操作が必要な画面があります。時間をあけないで操作を続けてください。30 分以上アキュポイント II やキーを押さなかった場合、画面に表示される内容が見えなくなりますが、故障ではありません。もう 1 度表示するには、(Shift)キーを押すか、アキュポイント II を動かしてください。

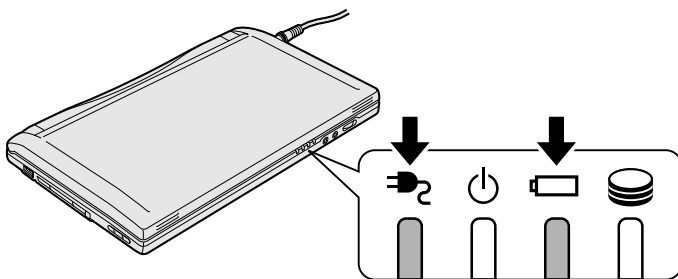
2 電源コードとACアダプタを接続する

電源コードとACアダプタの接続は、次の図の①→②→③の順に行います。はずすときは、逆の③→②→①の順で行います。



■ 接続すると

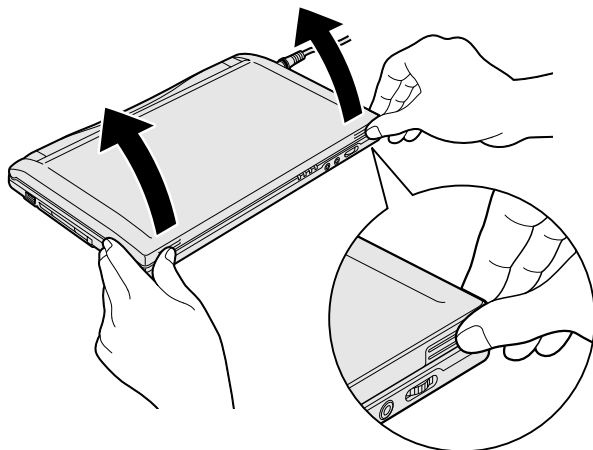
DC IN へのLEDが緑色に点灯します。また、Battery へのLEDがオレンジ色に点灯し、バッテリーへの充電が自動的に始まります。



3 電源を入れる

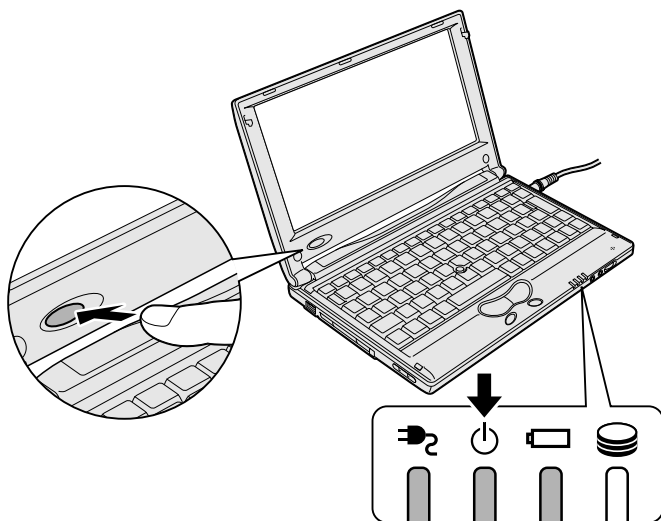
1 パソコンの液晶ディスプレイを開ける

ディスプレイの両端にある「2本線」に指をかけると、楽に開けることができます。



2 電源スイッチを押す

Power 電源 LED が緑色に点灯するまで、電源スイッチを押してください。

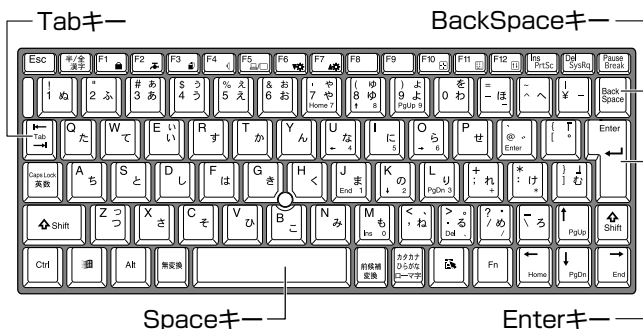


4 セットアップをする


セットアップには、キーボード、アキュポイントII、コントロールボタンの操作が必要です。

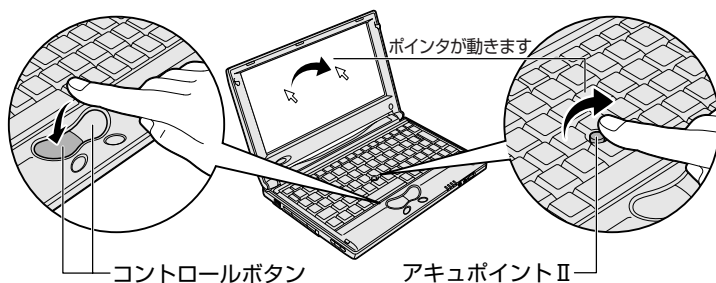
■ 使用するキー




セットアップ手順で使用するキーは、次のキーと文字キーです。

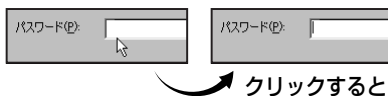


■ アキュポイントIIとコントロールボタンの使いかた

アキュポイントIIに指を置き、押さえながら前後左右に動かします。手の動きに合わせてディスプレイ上の「」（ポインタ）が動きます。コントロールボタンの左ボタンを1回押す操作を「クリック」といいます。



 を文字入力欄に合わせて「クリック」すると、「」（カーソル）が表示され点滅します。「」の位置から入力できます。



セットアップの操作手順

次の手順に従ってセットアップを行なってください。

初めて電源を入れると、[Windows 2000 セットアップウィザードの開始] 画面が表示されます。

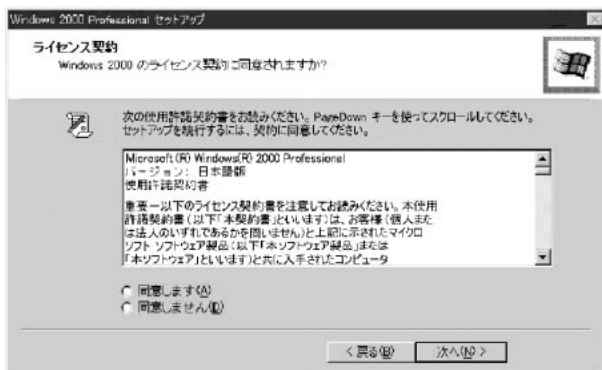


1 [次へ] ボタンをクリックする


[ライセンス契約] 画面が表示されます。

契約の内容を必ずお読みください。

表示されていない部分を見るには、▲▼ボタンをクリックして、画面をスクロールさせてください。なお、契約に同意しなければ、セットアップを続行することはできません。



2 画面下部の【同意します】をチェックして【次へ】ボタンをクリックする


-  ● 【同意しません】を選択した場合は、次にパソコンを起動したとき、最初からセットアップをやり直す必要があります。

[ソフトウェアの個人用設定] 画面が表示されます。



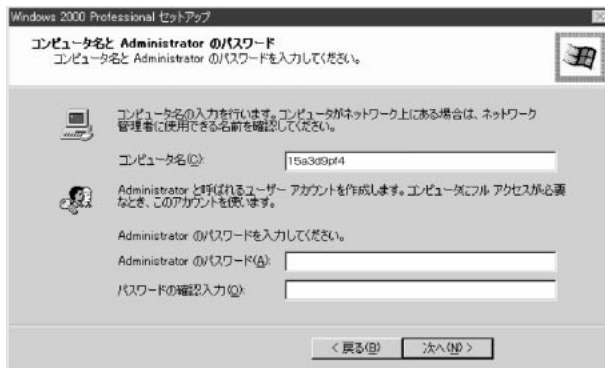
3 名前と組織名を入力する

名前は必ず入力してください。組織名は省略できます。組織名を入力するには、名前の入力後(Tab)キーを押します。

-  ● 日本語入力システムが起動しています。
ひらがなや漢字の入力のしかた
標準状態での入力方法は、ローマ字入力です。
例：“なかた”または“中田”と入力する場合
- 1 **(N)(A)(K)(A)(T)(A)**とキーを押す
“なかた”と表示されます。入力ミスをした場合は、**(BackSpace)**キーを押して入力ミスした文字を削除します。
 - 2 ひらがなのままでよい場合は、**(Enter)**キーを押す
“なかた”で確定されます。
漢字に変換する場合は**(Space)**キーを押し、目的の漢字が表示されたら、**(Enter)**キーを押す
(Space)キーを押すたびに、漢字の候補が表示されます。
(Enter)キーを押すと、選択した漢字で確定します。

4 [次へ] ボタンをクリックする

[コンピュータ名と Administrator のパスワード] 画面が表示されます。



5 コンピュータ名と Administrator のパスワードを入力する

コンピュータ名は自動で作成されます。変更する場合は、半角英数字で 15 字以内の名前を入力してください。

Administrator と呼ばれるユーザ名を作成します。コンピュータにフルアクセスする場合に使用します。パスワードには、半角の英数文字および記号を使用することができます。



- パスワードは大文字と小文字が区別されますので注意してください。例えば、「PASSWORD」と「password」は別のパスワードとして識別されます。

6 [次へ] ボタンをクリックする

[日付と時刻の設定] 画面が表示されます。



7 [日付と時刻] の設定をする

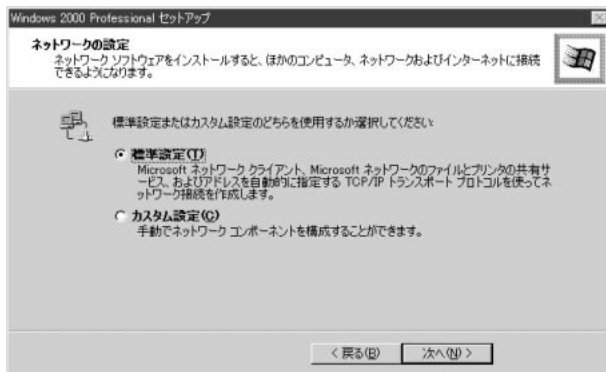
日付と時刻を確認します。

タイムゾーンで「(GMT+09:00) 大阪、札幌、東京」が選択されていることを確認します。

「(GMT+09:00) 大阪、札幌、東京」が選択されていない場合は▼ボタンをクリックし、一覧から選択してください。

8 [次へ] ボタンをクリックする

[ネットワークの設定] 画面が表示されます。



9 ネットワークの設定をする

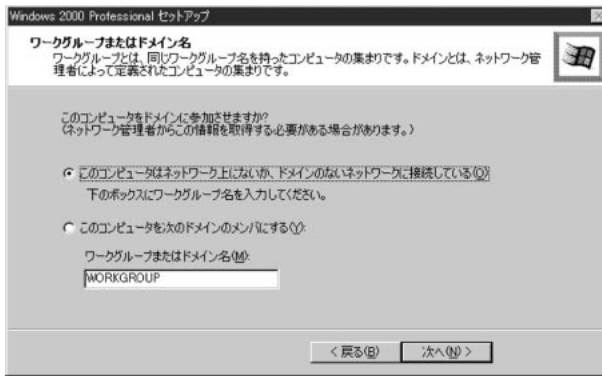
標準設定またはカスタム設定のどちらかを選択してください。



- 標準設定：Microsoft ネットワーククライアント、Microsoft ネットワークのファイルとプリンタの共有サービス、アドレスを自動的に指定する TCP/IP トランスポートプロトコルを使ってネットワーク接続を作成します。
- カスタム設定：手でネットワークコンポーネントを構成することができます。

10 [次へ] ボタンをクリックする

[ワークグループまたはドメイン名] 画面が表示されます。



11 ワークグループまたはドメイン名の設定をする

ワークグループまたはドメインのどちらかを選択してください。選択後、[ワークグループまたはドメイン名] にワークグループ(ドメイン)名を入力してください。

12 [次へ] ボタンをクリックする

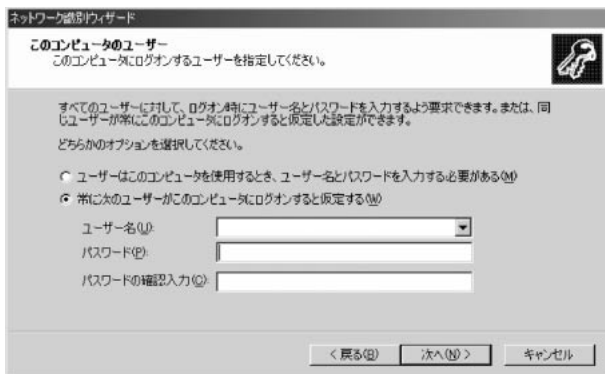
設定の保存後、再起動します。再起動後に [ネットワーク識別ウィザードの開始] 画面が表示されます。

ここで、コンピュータをネットワークに接続する手続きをします。



13 [次へ] ボタンをクリックする

[このコンピュータのユーザー] 画面が表示されます。



14 ユーザの設定をする

このコンピュータで使用するユーザを指定します。

- [ユーザーはこのコンピュータを使用するとき、ユーザー名とパスワードを入力する必要がある]
…指定したユーザでパスワードを入力してからログオンします。
- [常に次のユーザーがこのコンピュータにログオンすると仮定する]
…指定したユーザで自動的にログオンします。
ここで指定できるユーザは手順3で入力した名前、あるいは Administrator です。
▼ボタンをクリックして選択してください。

15 [次へ] ボタンをクリックする

[ネットワーク識別ウィザードの終了] 画面が表示されます。



16 [完了] ボタンをクリックする

Windows 2000のセットアップを完了しました。

手順14で「ユーザーはこのコンピュータを使用するとき…」を選択した場合、「Windowsへのログオン」画面が表示されます。Administratorパスワードを入力して、「OK」ボタンをクリックすると、Administratorでログオンし、「Windows 2000の紹介」画面が表示されます。

手順14で「常に次のユーザーがこのコンピュータに…」を選択した場合、指定されたユーザー（Administratorまたは例：中田）で自動的にログオンし、「Windows 2000の紹介」画面が表示されます。



(表示例)

- [Windows 2000 の紹介] の下部にあるチェックボックス（スタートアップ時にこの画面を表示）をクリックしてチェックを解除すると、次に Windows 2000 が起動したときは [Windows 2000 の紹介] は表示されません。
[Windows 2000 の紹介] 画面を再表示するには、[スタート] → [プログラム] → [アクセサリ] → [システムツール] → [はじめに] をクリックしてください。
- 次のようなパーティションがハードディスクに作成されています。
C ドライブ：NTFS システム
- 東芝とマイクロソフト社へのユーザー登録を行なってください。

参照 ユーザ登録について → 「本章 2 ユーザ登録をする」



- 再セットアップを行うときには、CD-ROM ドライブ（別売り）が必要です。本製品では次のCD-ROM ドライブを使用できます。
 - ・CD-ROM ドライブ（型番：PA2671UJ、PA2673UJ）
 - ・CD-R/RW ドライブ（型番：PACDR002）上記以外のCD-ROM ドライブをお使いになる場合には、「標準システムインストール起動ディスク」が必要です。あらかじめ作成しておくことをおすすめします。



詳細について ⇨ 「7章 4 標準システムインストール起動ディスクを使う」

■ Windows の使いかた

Windows の使いかたについては、『クイックスタートガイド』、または [スタート] → [ヘルプ] をクリックして、『Windows のヘルプ』をご覧ください。

2

ユーザ登録をする

1 東芝へのユーザ登録

Libretto をお使いになるにあたって、お客様へのサービス・サポートを充実させるために東芝へのお客様登録をおすすめしています。

東芝パソコンをさらに便利に使っていただくためのノウハウやホットな情報を提供する会員専用 Web ページの閲覧や、新商品やイベント情報のご案内などの特典があります。

登録は、インターネットまたは同梱されている「登録はがき」で行います。

インターネットで登録する場合、インターネットに接続するための設定を行った後、次のアドレスを入力して、表示された画面から登録してください。

http://www3.toshiba.co.jp/tpmc/userj/index_j.htm

2 その他のユーザ登録

マイクロソフト社へのユーザ登録

登録すると、Windows 2000 など、Libretto に用意されているマイクロソフト社製品の今後のサービス・サポートを受けることができます。

登録は、インターネットまたは同梱されている「登録はがき」で行います。

インターネットで登録する場合、インターネットに接続するための設定を行った後、次の手順で行なってください。

- 1 [スタート] → [プログラム] → [アクセサリ] → [システムツール] → [はじめに] をクリックする
- 2 [今すぐ登録] をクリックする
- 3 表示される画面に従って登録を行う

その他のアプリケーションのユーザ登録

Librettoにはさまざまなアプリケーションが用意されています。
各アプリケーションのユーザ登録については、各アプリケーションのヘルプをご覧ください。

また、各アプリケーションのお問い合わせ先については、「付録 6 アプリケーションのお問い合わせ先」をご覧ください。


2章 電源を入れる／切る

- 1 電源を入れる 26
- 2 電源を切る 28
- 3 再起動する 30

1

電源を入れる

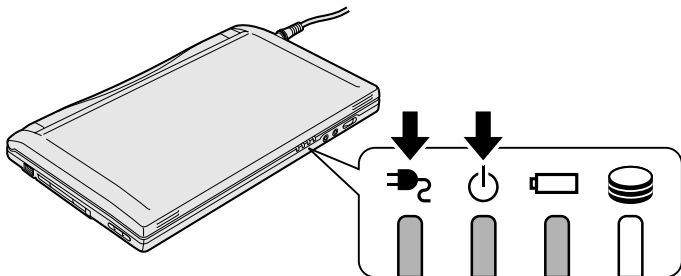
ここでは、Windows セットアップを終えた後の、電源の入れかたについて説明します。


 参考 初めて電源を入れるとき ➡ 「1 章 セットアップ」

電源に関する表示

電源の状態は次のシステムインジケータの点灯状態で確認することができます。

電源に関係のあるインジケータとそれぞれの意味は次のとおりです。



	状態	パソコン本体の状態
DC IN  LED	緑の点灯	ACアダプタを接続している
	オレンジの点滅	異常警告 ACアダプタ、バッテリー、またはパソコン本体の異常
	消灯	ACアダプタを接続していない
Power  LED	緑の点灯	電源ON
	オレンジの点滅	スタンバイ中
	消灯	電源OFF




● LED (エルイーディー) ● 発光ダイオードのこと。電流を流すと、種類によって赤、オレンジ、緑、黄、青などの光を発光する。消費電力が小さいため ON / OFF などの表示ランプによく使われる。

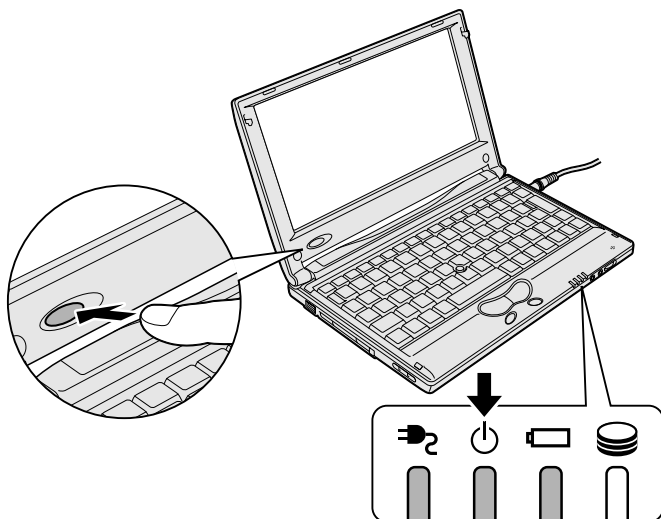
電源を入れる前に

- フロッピーディスクドライブ（別売り）を接続している場合は、フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクが入ったままになっていないか確認してください。入っていれば取り出してください。
- プリンタなどの周辺機器を接続している場合は、周辺機器の電源を入れてください。

操作手順

1 電源スイッチを押す

Power  LEDが緑色に点灯するまで、電源スイッチを押してください。




Windows が起動します。
パソコンの設定によっては、メッセージが表示されます。

2

電源を切る

パソコンには電源を切る手順があります。
正しい手順で電源を切らないとパソコンが故障したりデータが壊れる原因になりますので、必ず正しい手順で操作してください。
また、パソコンの使用を一時的に中断したいときには、スタンバイまたは休止状態にする方法もあります。

 参照 スタンバイ、休止状態
➔ 「4章 5 パソコンの使用を中断する／簡単に電源を切る」

電源を切る前に

- 必要なデータは保存してください。
- 起動中のアプリケーションは終了してください。
- Disk LED が点灯中は、電源を切らないでください。データが消失するおそれがあります。

操作手順

- 1 [スタート] ボタンをクリックし①、[シャットダウン] をクリックする②



2 ▼ ボタンをクリックし①、[シャットダウン] を選択する②

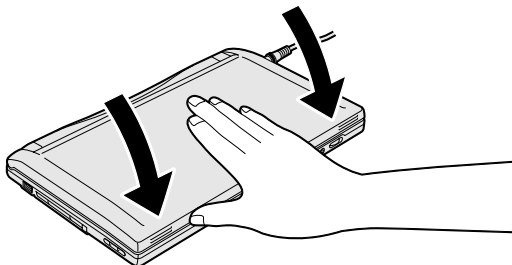


3 [OK] ボタンをクリックする

Windows が終了し、電源が切れます。

電源を切った後は

- 周辺機器の電源はパソコン本体の電源を切った後に切ってください。
- ディスプレイは、中央部に手を置いて静かに閉じてください。左端に手を置いて閉じた場合、ディスプレイが正しく閉まらない場合があります。また、強く閉じると衝撃でパソコン本体が故障する場合があります。



- パソコン本体や周辺機器の電源は、切った後、すぐに入れないでください。故障の原因となります。

- メモ** ● 周辺機器の電源は、電源を入れるときに「パソコンより先」、電源を切るときは「パソコンより後」と覚えておきましょう。

3

再起動する

いったんWindowsを終了した後、すぐにもう1度起動することを再起動といいます。パソコンの設定を変えたときや、パソコンがスムーズに動かなくなってしまったときなどに行います。

- 1 [スタート] ボタンをクリックし①、[シャットダウン] をクリックする②



- 2 ▼ ボタンをクリックし①、[再起動] を選択する②



- 3 [OK] ボタンをクリックする

3章 Librettoの機能

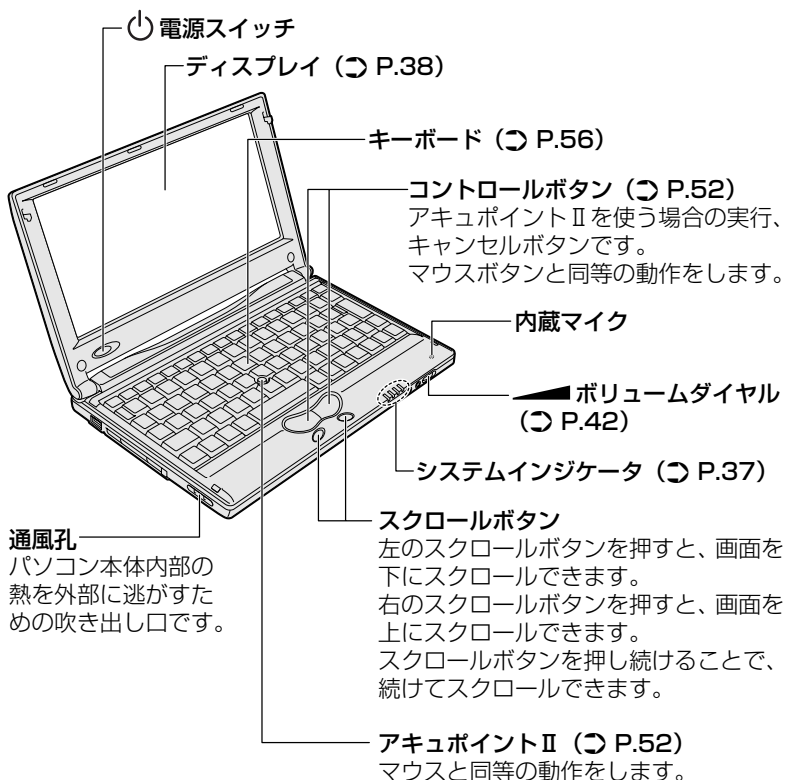
1	各部の名称.....	32
2	システムインジケータ	37
3	ディスプレイ	38
4	ハードディスクドライブ.....	40
5	音量の調節.....	42
6	内蔵モデム	47
7	アキュポイントIIとコントロールボタン.....	52
8	キーボード.....	56
9	日常の取り扱いとお手入れ.....	63

1


各部の名称


ここでは、各部の名称と機能を簡単に説明します。
それぞれについての詳しい説明は、それぞれに関連する節で行います。

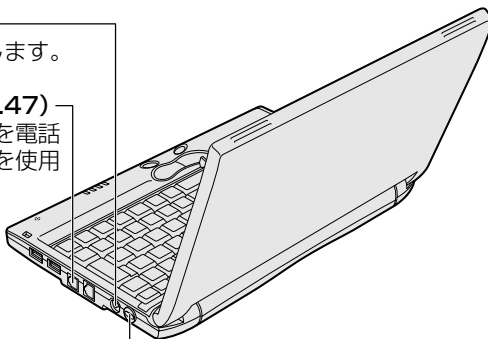
■ 前面図





■ 背面図

 **電源コネクタ**
付属のACアダプタを接続します。

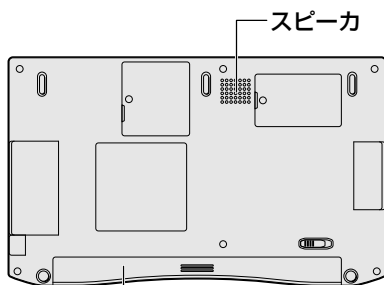
 **モジュージャック (☞ P.47)**
モジュラーケーブルで本体を電話回線に接続し、モデム機能を使用します。



 **セキュリティロック・スロット**
盗難防止用にチェーンなどを接続します。

 ●セキュリティロック用の機器については、本パソコンに対応のものかどうかを販売店にご確認ください。

■ 裏面図

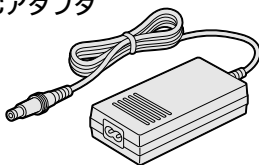


スピーカ

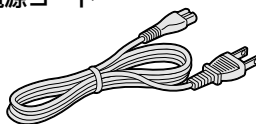
バッテリーパック (☞ P.72)
バッテリーパックを充電すると、バッテリー駆動 (ACアダプタを接続しない状態) で使用できます。

■ 付属品

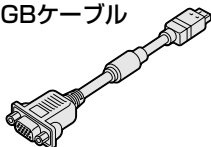
ACアダプタ



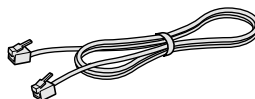
電源コード



ミニRGBケーブル



モジュラーケーブル

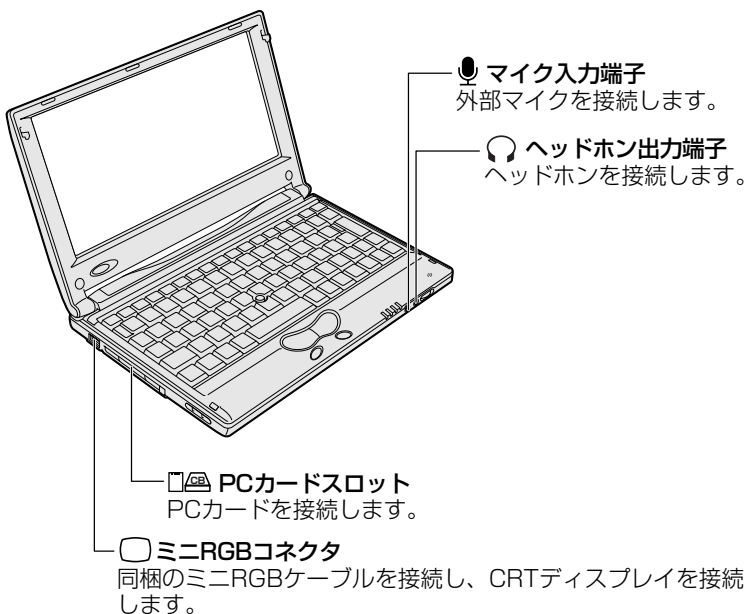


周辺機器の接続場所

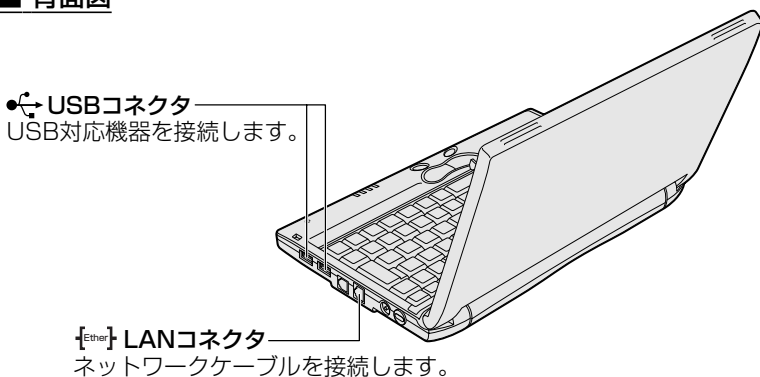
次の場所には、周辺機器が接続できます。

参照 詳細について 「5章 Libretto を拡張する」

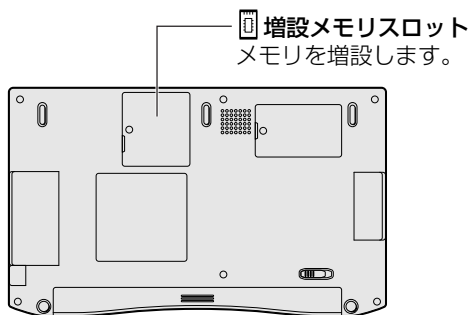
■ 前面図



■ 背面図



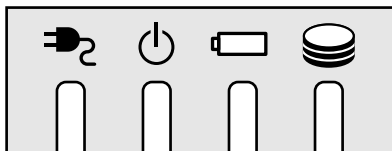
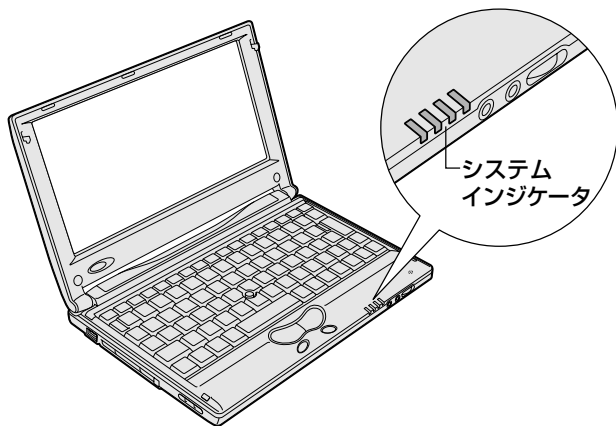
■ 裏面図







2

システムインジケータ

システムインジケータは、パソコン本体の動作状態を示します。インジケータの点灯状態によって、パソコン本体がどのような動作をしているか知ることができます。



	DC IN LED	電源コードの接続 ☞ 「2章 1 電源を入れる」
	Power LED	電源の状態 ☞ 「2章 1 電源を入れる」
	Battery LED	バッテリーの状態 ☞ 「4章 2 バッテリーを充電する」
	Disk LED	ハードディスクドライブにアクセスしている ☞ 「本章 4 ハードディスクドライブ」

3

ディスプレイ

ディスプレイは、パソコンの内部で行う作業を、目に見えるように表示する装置です。ディスプレイを見ながらパソコンに指示を出すことができます。本製品では表示装置として TFT 方式カラー液晶ディスプレイ（1280 × 600 ドット）が内蔵されています。液晶ディスプレイは、画面をごく小さな点に分けて、点ごとに電圧を変化させて画像を表示します。ドットは点の数を表します。表示装置には、液晶ディスプレイの他に、テレビと同じようにブラウン管を発光させて表示する CRT ディスプレイもあります。

 参照  CRT ディスプレイの接続  「5章 6 CRT ディスプレイを接続する」

■ 表示について


TFT 方式のカラー液晶ディスプレイは非常に高精度な技術を駆使して作られていますが、一部に表示不良画素（欠け・常時点灯など）が存在することがあります。これらの表示不良画素は、少量に抑えるように管理していますが、現在の最先端の技術でも表示不良画素をなくすことは困難ですので、ご了承ください。


■ 表示可能色数

設定した解像度によって、次にあげる色数まで表示できます。


1600 × 1200 ドット	65,536 色
1280 × 1024 ドット	1,677 万色
1280 × 600 ドット	1,677 万色
1024 × 768 ドット	1,677 万色
800 × 600 ドット	1,677 万色
640 × 480 ドット	1,677 万色

1600 × 1200、1280 × 1024、1024 × 768 ドットの解像度は仮想スクリーン表示になります。

 ● 1,677 万色はディザリング表示です。


 ● **ディザリング** ● 1 ピクセル（画像表示の単位）では表現できない色（輝度）の階調を、数ピクセルの組み合わせによって表現する方法。

解像度を変える

- 1 [コントロールパネル] を開き、[画面] アイコン () をダブルクリックする
または、
デスクトップ上の何もないところで右クリックし、[プロパティ] をクリックする
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。
- 2 [設定] タブで、[画面の領域] を変更する
パソコンの絵の中に、プレビューが表示されます。



- 3 [OK] ボタンをクリックする

-  ●それぞれのパソコンには、ディスプレイの大きさに応じて、適した表示サイズがあります。かえって見づらくなる場合は、元の設定に戻してください。

4


ハードディスクドライブ

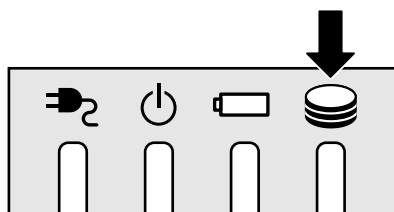
ハードディスクドライブとは、データを磁気で記憶する装置です。電源を切っても、データが消えることはありません。フロッピーディスクや CD-R と比べて容量が大きいためたくさんのデータを記憶できます。


本製品にはハードディスクドライブが内蔵されています。取りはずしはできません。

必要があれば、PC カードタイプ (TYPE II) のハードディスクなどを使用して記憶容量を増やすこともできます。

ハードディスクドライブに関する表示

ハードディスクとデータをやり取りしているときは、Disk  LED が点灯します。



- Disk  LED が点灯中は、パソコン本体を動かしたりしないでください。ハードディスクドライブが故障したり、データが消失するおそれがあります。

ハードディスクに記憶された内容は故障や損害の原因にかかわらず保証いたしかねますので、ご了承ください。

万一故障した場合に備え、バックアップを取ることをおすすめします。



- ハードディスクに保存しているデータや重要な文書などは、万一故障が起こったり、変化／消失した場合に備えて、定期的に外部メディアなどに保存しておいてください。記憶内容の変化／消失など、ハードディスク、外部メディアなどに保存した内容の損害については、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご承知ください。
- 磁石、スピーカなど磁気を発するものの近くに置かないでください。記憶内容が変化／消失するおそれがあります。
- パソコン本体を落とす、ぶつけるなど強い衝撃を与えないでください。ハードディスクの磁性面に傷がついて、使えなくなることがあります。磁性面についた傷の修理はできません。

5

音量の調節

1 スピーカの音量を調節する

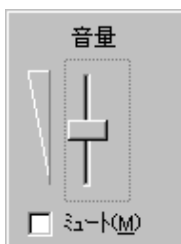
スピーカの音量調節は、ボリュームダイヤル、または Windows の「マスタ音量」を使用します。

ボリュームダイヤルで調節する

音量を大きくしたいときには右に、小さくしたいときには左に回します。

【音量】アイコンから調節する

- 1 タスクバー上の【音量】アイコン (🔊) をクリックする
次の画面が表示されます。



- 2 つまみを上下にドラッグして調節する


つまみを上にするとスピーカの音量が上がります。[ミュート]をチェックすると、消音になります。

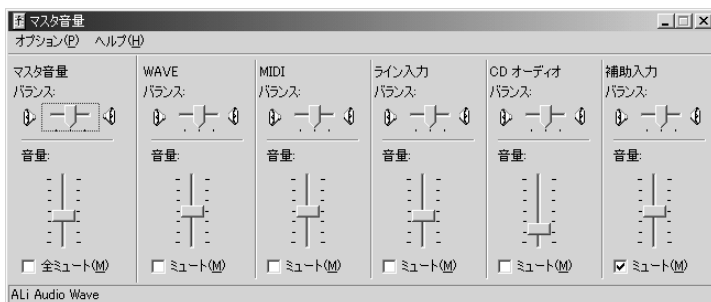
使用するアプリケーションによっては、外部マイクとスピーカでハウリングを起こし、高く大きな音が発生することがあります。この場合は、次のようにしてください。

- 本製品のボリュームダイヤルで音量を調節する
- 使用しているアプリケーションの設定を変える
- 外部マイクをスピーカから離す

「マスタ音量」で調節する

再生したいファイルごとに音量を調節したい場合、次の方法で調節できます。

- 1 タスクバー上の「音量」アイコン () をダブルクリックする
または、
[スタート] → [プログラム] → [アクセサリ] → [エンターテイメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする



- 2 それぞれのつまみを上下にドラッグして調節する
つまみを上にするるとスピーカの音量が上がります。[ミュート]をチェックすると、消音になります。

■ 音楽／音声を再生するとき

「マスタ音量」の各項目では次の音量が調節できます。


- マスタ音量 : 全体の音量を調節する
WAVE : MP3 ファイル、Wave ファイル、
音楽 CD、DVD-ROM、DVD-Video など
MIDI : MIDI ファイル
CD オーディオ : 音楽 CD (Windows Media Player 以外の場合)

また、お使いのアプリケーションにより異なる場合があります。詳しくは『アプリケーションに付属の説明書』または『マスタ音量のヘルプ』をご覧ください。

【音楽 CD を再生するとき】

外付け CD-ROM ドライブ (別売り) を接続して、音楽 CD を再生できます。


パソコン本体のスピーカから音楽を聴く場合は、次の手順で設定をしてください。

- ① パソコン本体に CD-ROM ドライブを接続する
- ② [コントロールパネル] を開き、[システム] をダブルクリックする
- ③ [ハードウェア] タブで [デバイスマネージャ] ボタンをクリックする
- ④ [DVD/CD-ROM ドライブ] の左側の  をクリックする
- ⑤ CD-ROM ドライブを選択してダブルクリックする
- ⑥ [プロパティ] タブで [この CD-ROM デバイスでデジタル音楽 CD を使用可能にする] をチェックし、[OK] ボタンをクリックする

2 音楽／音声の録音レベルを調節する

録音レベルの調節は、次のように行います。

パソコン上で録音するとき


- 1 タスクバーの [音量] アイコン () をダブルクリックする
または、[スタート] → [プログラム] → [アクセサリ] → [エンターテイメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする
- 2 メニューバーの [オプション] → [プロパティ] をクリックする
- 3 [音量の調整] で [録音] をチェックする
- 4 [表示するコントロール] をチェックする
[マイク] がチェックされていることを確認します。
- 5 [OK] ボタンをクリックする
- 6 [録音コントロール] 画面で、使用するデバイスの [選択] をチェックする
[マイク] : 外部マイクから録音するとき
- 7 選択したデバイスのつまみで音量を調節する



- 同時に2つのデバイスを選択することはできません。
- 録音したい音楽／音声は「マスタ音量」の [WAVE] 対応の場合、録音するときも [WAVE] の音量により影響を受けます。

3 システムスピーカについて

システムスピーカを設定すると、パソコンのハードウェアの状態を知ることができます。ご購入時は「鳴らす」に設定されています。

1 [コントロールパネル] を開き、[東芝HWセットアップ] アイコン () をダブルクリックする

2 [アラーム] タブで設定する

鳴らす場合は [システムビープ音を鳴らす] をチェックします ()。音量は [アラーム音量] のスライダーバーをドラッグして調整します。

6

内蔵モデム

内蔵モデムを使用する場合、モジュラーケーブルを2線式の電話回線に接続します。内蔵モデムは、ITU-T V.90に準拠しています。通信先のプロバイダがV.90以外の場合は、最大33.6Kbpsで接続されます。

■ 使用上のお願い

- 雷雲が近づいてきたときは、モジュラープラグを電話回線用モジュラージャックから抜いてください。電話回線に落雷した場合、モデムやパソコン本体が破壊されるおそれがあります。
- モジュラーケーブルをパソコン本体のモジュラージャックに接続した状態で、モジュラーケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。モジュラージャックが破損するおそれがあります。
- 市販の分岐アダプタを使用して他の機器と並列接続した場合、本モデムのデータ通信や他の機器の動作に悪影響を与えることがあります。
- 回線切換器を使用する場合は、両切り式のもの（未使用機器から回線を完全に切り離す構造のもの）を使用してください。



- **分岐アダプタ** ● 1つの電話回線に電話とパソコンなど複数の機器を接続できるよう、モジュラージャックのコネクタを複数に分ける機器。
- **回線切換器** ● 1つの電話回線に複数の機器を接続できるよう、モジュラージャックのコネクタを複数に分け、自動的に接続を切り替える機器。

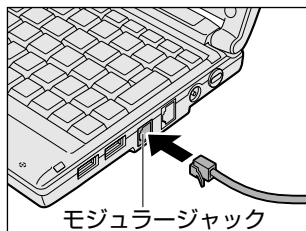


- PCカード接続のハードディスクドライブやCD-ROMドライブなどの動作中に、通信を行なった場合、次の現象が発生することがあります。
 - ・ 通信回線の速度が遅くなる
 - ・ 通信回線が切断される
 - ・ ダイヤルに失敗する

モジュラーケーブルの取り付け

モジュラーケーブルを取り付けて、内蔵モデムを使用する前に、あらかじめ『安心してお使いいただくために』を必ずお読みになり、注意事項をお守りください。

- 1 モジュラーケーブルのプラグの一方をパソコン本体のモジュラージャックに差し込む
「カチッ」と音がするまで確実に押し込んでください。

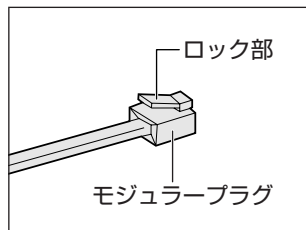


- 2 もう一方のモジュラープラグを電話機用モジュラープラグに差し込む

ISDN回線に接続する場合は、ご使用のターミナルアダプタ (TA) またはダイヤルアップルータのアナログポートなどに接続してください。

■ モジュラーケーブルを取りはずすとき

モジュラーケーブルを取りはずすときは、モジュラージャックに差し込んであるモジュラープラグのロック部分を押さえながら抜きます。



海外でインターネットに接続する

本製品の内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア


(2001年11月現在)

海外でモデムを使用する場合、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」による地域設定を行います。

本製品を日本で使用する場合は、必ず日本モードでご使用ください。他地域のモードでご使用になると電気通信事業法（技術基準）に違反する行為となります。

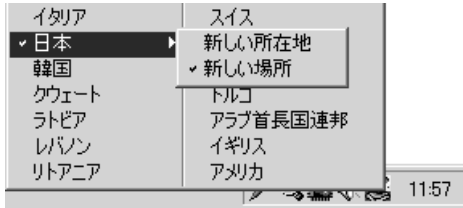


- 「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」は、Administratorsグループのユーザアカウントで起動してください。それ以外のユーザが起動しようとする、エラーメッセージが表示され、起動できないことがあります。

1 [スタート] → [プログラム] → [TOSHIBA Internal Modem] → [Region Select Utility] をクリックする
[Internal Modem Region Select Utility] アイコン () がタスクバーに表示されます。

2 タスクバーの [Internal Modem Region Select Utility] アイコン () をクリックする

内蔵モデムがサポートする地域の一覧が表示されます。
現在設定されている地域設定と、サブメニューの所在地情報名に
チェックマークがつきます。




3 使用する地域名または所在地情報名を選択し、クリックする

地域名を選択した場合、[新しい場所設定作成] 画面が表示されます。[OK] ボタンをクリックしてください。表示される [電話とモデムのオプション] 画面で新しく所在地情報を作成します。この場合、新しく作成した所在地情報が現在の所在地情報になります。

所在地情報名を選択した場合、その所在地情報に設定されている地域でモデムの地域設定を行います。選択された所在地情報が現在の所在地情報になります。

■ その他の設定

- 1 タスクバーの [Internal Modem Region Select Utility] アイコン () を右クリックし、表示されたメニューから項目を選択する

【設定】

チェックボックスをクリックすると、次の設定を変更することができます。

自動起動モード	システム起動時に、自動的に「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」が起動し、モデムの地域設定が行われます。
地域選択後に自動的にダイアルのプロパティを表示する	地域選択後、「電話とモデムのオプション」画面が表示されます。
場所設定による地域選択	「電話とモデムのオプション」の所在地情報が地域名のサブメニューに表示され、所在地情報から地域選択ができるようになります。
モデムとテレフォニーの現在の場所設定の地域コードとが違っている場合にダイアログを表示	モデムの地域設定と、「電話とモデムのオプション」の現在の場所設定の地域コードが違っている場合に、メッセージ画面を表示します。

【モデム選択】


COMポート番号を選択する画面が表示されます。内蔵モデムを使用する場合、通常は自動的に設定されますので、変更の必要はありません。

【ダイアルのプロパティ】

「電話とモデムのオプション」画面を表示します。

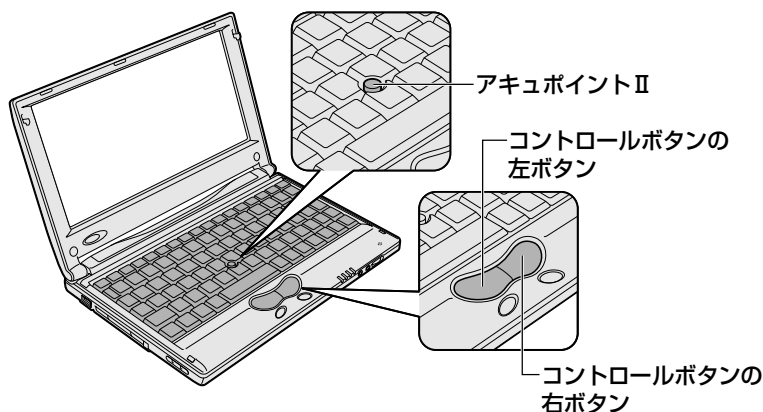
7

アキュポイントⅡと コントロールボタン

電源を入れてWindowsを起動すると画面上に  が表示されます。これを「ポインタ」といいます。

パソコンは、主にこの「ポインタ」を動かしてパソコンを操作していきます。「ポインタ」を動かす装置として、本製品にはアキュポイントⅡとコントロールボタン（右、左）が用意されています。

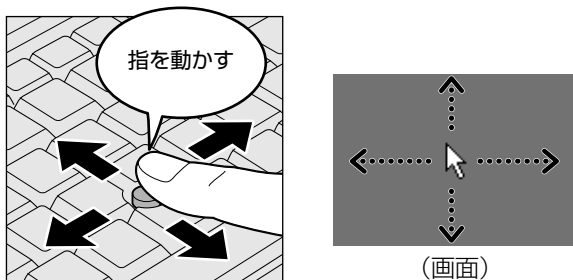
アキュポイントⅡとコントロールボタンでポインタを動かし、パソコンを操作してみましょう。



- 次の場合、アキュポイントⅡを操作しなくても、画面上のポインタが移動することがあります。
 - ・ 電源を入れたとき
 - ・ 一定の力で一定方向にポインタを移動し続け、指を離したとき
 - ・ 温度が急激に変化したときこの場合は、10秒以上待つてから、アキュポイントⅡを使用してください。

ポインタを動かす

アキュポイントⅡに指を置き、押さえながら指を前後左右に動かすと、ポインタが指の方向にあわせて動きます。



クリックする

ポインタを目的の位置にあわせて、左ボタンを1回押すことです。



アイコン、文字などを選択するときに使います。アイコンなどを選択すると、色が変わります。これを「反転表示」といいます。

<クリックする前>



<クリックした後>



ダブルクリックする

ポインタを目的の位置にあわせて、左ボタンをすばやく2回押すことです。

ファイルを開いたり、アプリケーションを起動できます。



右クリックする

ポインタを目的の位置にあわせて、右ボタンを1回押すことです。

メニューが表示されるので、行いたいことを選択します。



<右クリックする前>



<右クリックした後>



ドラッグアンドドロップする

ポインタを目的の位置にあわせて、左ボタンを押したまま①、アキュポイントⅡでポインタを動かします②（ドラッグ）。ポインタが目的の位置に移動したら、左ボタンから指をはなします③（ドロップ）。



8

キーボード

1 キーボードについて

ここでは基本的な使いかたと、それぞれのキーの意味や呼びかたについて簡単に説明します。





■ 文字キー

文字キーは、文字や記号を入力するときに使います。

文字キーに印刷されている2～6種類の文字や記号は、制御キーで使い分けます。

■ 左上

(Shift)キーを押しながら押すと、記号やアルファベットの大文字が入力できます。

■ 右上

かな入力ができる状態で (Shift)キーを押しながら押すと、記号、ひらがなのそくおん促音(小さい「っ」)、ようおん拗音(小さい「ゃ、ゅ、ょ」)が入力できます。

■ 左中

他のキーは使わず、そのまま押すと、数字やアルファベットの小文字が入力できます。

大文字ロック状態にすると、大文字も入力できます。

■ 右中

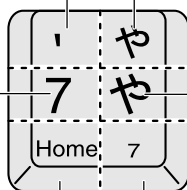
かな入力ができる状態で押すと、ひらがなや記号が入力できます。


■ 左下

アロー状態のときに押すと、カーソル制御キーとして使えます。


■ 右下


数字ロック状態のときに押すと、テンキーとして使えます。



参照  アロー状態、数字ロック状態 ⇨ 「本節 (Fn)キーを使った特殊機能キー」

Fn キーを使った特殊機能キー

キー	内容
<p>Fn + F1 <インスタントセキュリティ機能></p>	<p>「模様なし」のスクリーンセーバーが実行され、画面が暗くなります。</p> <p>解除するには、次の操作を行なってください。</p> <p>[画面のプロパティ] の [スクリーンセーバー] タブで、[パスワードによる保護] をチェックしていない場合：</p> <p style="padding-left: 20px;">(Shift)キーや(Ctrl)キーを押す、またはアキュポイントⅡを操作する</p> <p>[画面のプロパティ] の [スクリーンセーバー] タブで、[パスワードによる保護] をチェックしている場合：</p> <p>[パスワードによる保護] は、スクリーンセーバーを選択すると有効になります。</p> <p>①(Shift)キーや(Ctrl)キーを押す、またはアキュポイントⅡを操作する</p> <p>②パスワード入力画面に Windows のログオンパスワードを入力し、(Enter)キーを押す</p> <p> 詳細について</p> <p style="padding-left: 20px;">▷「4章 4-4 スクリーンセーバーのパスワードによる保護」</p>
<p>Fn + F2 <省電力モードの設定></p>	<p>(Fn) + (F2) キーを押すと、設定されている「東芝省電力ユーティリティ」の省電力モードが表示されます。</p> <p>(Fn) キーを押したまま、(F2) キーを押すたびに、省電力モードが切り替わります。</p>
<p>Fn + F3 <使用する機能の選択></p>	<p>(Fn) + (F3) キーを押すと、電源を切る状態（スタンバイ、休止状態、電源オフ）のメニューが表示されます。</p> <p>(Fn) キーを押したまま、(F3) キーを押すたびに、表示が切り替わり、電源スイッチを押したときに実行する機能が設定されます。</p>
<p>Fn + F4 <アラーム音量の調節></p>	<p>アラーム音量を調節します。ピープ音で音量を知らせます。</p> <p>(Fn) キーを押したまま、(F4) キーを押すたびに音量が変わります。</p> <p>└OFF→小→中→大┘</p>

<p>(Fn) + (F5) <表示装置の切り替え></p>	<p>表示装置を切り替えます。</p> <p> 詳細について ⇨ 「5章 6 CRT ディスプレイを接続する」</p>
<p>(Fn) + (F6) (Fn) + (F7) <輝度の調節></p>	<p>(Fn) + (F6)または(Fn) + (F7)キーを押すと、画面の輝度を変更できます。</p> <p>(Fn)キーを押したまま、(F6)キーを押すたびに画面の輝度が下がり、暗くなります。</p> <p>(Fn)キーを押したまま、(F7)キーを押すたびに画面の輝度が上がり、明るくなります。</p>
<p>(Fn) + (F10) <アロー状態></p>	<p>キートップ左下に灰色で印刷された、カーソル制御キーとして使用できます。</p> <p>アロー状態を解除するには、もう1度(Fn) + (F10)キーを押します。</p>
<p>(Fn) + (F11) <数字ロック状態></p>	<p>キートップ右下に灰色で印刷された、数字などの文字を入力できます。</p> <p>数字ロック状態を解除するには、もう1度(Fn) + (F11)キーを押します。</p> <p>アプリケーション (Microsoft Excel など) によっては異なる場合があります。</p>
<p>(Fn) + (F12) <スクロールロック状態></p>	<p>一部のアプリケーションで(↑)(↓)(←)(→)キーを画面スクロールとして使用できます。</p> <p>ロック状態を解除するには、もう1度(Fn) + (F12)キーを押します。</p>
<p>(Fn) + (↑) <ページアップ> (Fn) + (↓) <ページダウン></p>	<p>ページを上下に移動できます。</p>
<p>(Fn) + (←) <ホーム> (Fn) + (→) <エンド></p>	<p>カーソルの位置を移動できます。</p> <p>(Fn)キーを押したまま、(←)キーを押すと、カーソルが行または文書の最初に移動します。</p> <p>(Fn)キーを押したまま、(→)キーを押すと、カーソルが行または文書の最後に移動します。</p>

⌘ キーを使ったショートカットキー


⌘ (ウイン) キーと他のキーとの組み合わせを、次のようにショートカットとして使用できます。

キー	操作
⌘ + (R)	[ファイル名を指定して実行] 画面を表示する
⌘ + (M)	すべてをアイコン化する
(Shift) + ⌘ + (M)	すべてのアイコン化を元に戻す
⌘ + (F1)	『Windows のヘルプ』を起動する
⌘ + (E)	[マイコンピュータ] 画面を表示する
⌘ + (F)	ファイルまたはフォルダを検索する
(Ctrl) + ⌘ + (F)	他のコンピュータを検索する
⌘ + (Tab)	タスクバーのボタンを順番に切り替える
⌘ + (Break)	[システムのプロパティ] 画面を表示する

特殊機能キー

複数キーの組み合わせで、特殊機能を実行することができます。

特殊機能	キー	操作
Windows セキュリティ画面の起動	(Ctrl) + (Alt) + (Del)	[Windows のセキュリティ] 画面が表示されます。
画面コピー	(Fn) + (Ins)	現在表示中の画面をクリップボードにコピーします。
	(Fn) + (Alt) + (Del)	現在表示中のアクティブな画面をクリップボードにコピーします。

 (Ctrl) + (Alt) + (Del) キーについて

- [6章 2 アプリケーション-Q. アプリケーションが操作できなくなった]
- [6章 2 その他-Q. パソコンが応答しない]

2 日本語を入力するには

本製品には、日本語入力システム MS-IME が用意されています。
日本語入力システムとは、日本語を入力するためのソフトウェアです。

起動したときは、英数字の入力ができるようになっています。次の方法で日本語を入力できるようになります。

■ **半/全**キーを押す

日本語入力に切り替わると、IME ツールバーは次のように表示されます。
IME ツールバーは、デスクトップの右端に表示されています。



パソコンで入力できる文字には、「半角」「全角」2種類の大きさがあります。
「半角」は漢字モードではないときに普通に表示される文字で、少し縦長です。
「全角」は半角を2つあわせたくらいの大きさになります。
英数字やカタカナは半角・全角どちらでも入力できます。ひらがなと漢字は全角でのみ入力できます。

例

A ア
(半角)

A ア
(全角)

9

日常の取り扱いとお手入れ

⚠ 注意

- ・お手入れの前には、必ずパソコンやパソコンの周辺機器の電源を切り、電源コードをAC電源から抜いてください。電源を切らずにお手入れをはじめると、感電するおそれがあります。
- ・機器に強い衝撃や外圧を与えないように注意してください。製品には精密部品を使用しておりますので、強い衝撃や外圧を加えると部品が故障するおそれがあります。

日常の取り扱いでは、次のことを守ってください。

パソコン本体

- 機器の汚れは、柔らかい乾いた布で拭いてください。
汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼってから拭きます。
ベンジン、シンナーなどは使用しないでください。
- 薬品や殺虫剤などをかけないでください。
- ディスプレイは静かに閉じてください。
- 使用できる環境は次のとおりです。
温度 5～35℃、湿度 20～80%
- 次のような場所で使用や保管をしないでください。
直射日光の当たる場所
非常に高温または低温になる場所
急激な温度変化のある場所（結露を防ぐため）
強い磁気を帯びた場所（スピーカなどの近く）
ホコリの多い場所
振動の激しい場所
薬品の充満している場所
薬品に触れる場所
- 使用中に本体の底面やACアダプタが熱くなることがあります。本体の動作状況により発熱しているだけで、故障ではありません。

電源コード

電源コードのプラグを長期間にわたってACコンセントに接続したままにしていると、プラグにホコリがたまることがあります。定期的にホコリを拭き取ってください。

キーボード

乾いた柔らかい素材のきれいな布で拭いてください。

汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼって拭きます。

キーのすきまにゴミが入ったときは、掃除機などで吸い出します。ゴミが取れないときは、お使いの機種をご確認後、お買い求めの販売店、または保守サービスにご相談ください。

飲み物など液体をこぼしたときは電源を切り、ACアダプタとバッテリーパックを取りはずして、ただちにお買い求めの販売店、または保守サービスに点検を依頼してください。

液晶ディスプレイ

■ 画面のお手入れ

- 画面の表面には偏向フィルムが貼られています。このフィルムは傷つきやすいので、むやみに触れないでください。

表面が汚れた場合は、柔らかい素材のきれいな布で拭き取ってください。水や中性洗剤、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんなどは使用しないでください。

- 無理な力の加わる扱いかた、使いかたをしないでください。

液晶表示素子は、ガラス板間に液晶を配向処理して注入してあります。そのため、圧力がかかると配向が乱れ、元に戻らなくなる場合があります。

■ サイドライト用FL管について

液晶ディスプレイに表示されている内容を見るためにサイドライト用FL管（冷陰極管）が内蔵されています。サイドライト用FL管（冷陰極管）は、ご使用になるにつれて発光量が徐々に減少し、表示画面が暗くなります。表示画面が見づらくなったときは、お使いの機種をご確認後、お買い求めの販売店、または保守サービスにご相談ください。有償にて交換いたします。

アキュポイントⅡ（ポインティング装置）

アキュポイントⅡは、ハンドクリームや油などのついた手で操作したり、油性の液体をつけたりしないでください。操作時にすべりやすくなったり、アキュポイントキャップが劣化する（溶ける）おそれがあります。アキュポイントキャップがすり切れたら取り換えてください。携帯電話、無線機など電波を発生する機器が近くにあるときにポイントが移動する場合があります。その場合は、電波を発生する機器を離してください。

■ キャップの取り換え

予備として2個のアキュポイントキャップが同梱されています。長期間使用し、すり切れたら取り換えてください。取り換え方法は次のとおりです。

スペアのアキュポイントキャップをお買い求めになる場合は、お近くの保守サービスにご相談ください。

- 1** アキュポイントキャップをしっかりとつまみ、垂直に引き上げて取りはずす
- 2** 新しいアキュポイントキャップを切り込みにあわせてアキュポイントⅡにはめる

データのバックアップについて


重要な内容は必ず、定期的にバックアップをとって保存してください。バックアップとはハードディスクやソフトウェアの故障などでファイルが使用できなくなったときのために、あらかじめファイルをフロッピーディスクやCD-R、CD-RWなどにコピーしておくことです。本製品は次のような場合、スタンバイ機能または休止状態が無効になり、本体内の記憶装置が変化し、消失するおそれがあります。

- 誤った使いかたをしたとき
- 静電気や電氣的ノイズの影響を受けたとき
- 長期間使っていなかったために、バッテリー（バッテリーパック、時計用バッテリー）の充電量がなくなったとき
- 故障、修理、バッテリー交換のとき
- バッテリー駆動で使用しているときにバッテリーパックを取りはずしたとき
- 増設メモリの取り付け／取りはずしをしたとき

記憶内容の変化／消失については、ハードディスクやフロッピーディスクなどに保存した内容の損害については当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご承知ください。

持ち運ぶとき

持ち運ぶときは、誤動作や故障を起こさないために、次のことを守ってください。

- 電源は必ず切ってください。電源を入れた状態、またはスタンバイ状態で持ち運ばないでください。
電源を切った後も、Disk  LEDが点灯中は動かさないでください。
- かばんなどにパソコンを収納するときは、必ず電源が切れていることをご確認ください。
- 急激な温度変化（寒い屋外から暖かい屋内への持ち込みなど）を与えないでください。
やむなく急な温度変化を与えてしまった場合は、数時間たってから電源を入れるようにしてください。
- 外付けの装置やケーブルは取りはずしてください。
- 落としたり、強いショックを与えないでください。また、日の当たる自動車内に置かないでください。
故障の原因になります。
- 持ち運ぶときはディスプレイを閉じてください。

仕様について

本製品の仕様は国内向けです。
国外で製品を使用する場合は、電源に合った電源コードをお買い求めください。

■ ACアダプタの仕様

入力	AC100V~240V、0.7~0.4A、50/60Hz
出力	15V、2A

4章 モバイルしよう

- 1 モバイルする前に 70
- 2 バッテリーを充電する 72
- 3 省電力ユーティリティを使う 80
- 4 パスワードセキュリティ機能を使う 87
- 5 パソコンの使用を中断する
／簡単に電源を切る 95
- 6 外出先でインターネットをする 101

1


モバイルする前に

Librettoでモバイルするためには、あらかじめ準備しておくことや知っておいたほうがよいことがあります。

この章では、より快適にモバイルするための方法を紹介します。

■バッテリーを充電する

モバイルで使用するためには、あらかじめバッテリーの充電を完了しておく必要があります。

 詳細について ⇨ 「本章 2 バッテリーを充電する」


■省電力ユーティリティを使う

バッテリーで使用しているときに、消費電力を減らす設定を行うことで、より長い時間モバイルすることができます。設定は、「省電力ユーティリティ」で行います。

 詳細について ⇨ 「本章 3 省電力ユーティリティを使う」


■パスワードセキュリティ機能を使う

モバイルで使用しているときは、特に、第三者にパソコンを操作されないように注意する必要があります。本製品では、「パスワードセキュリティ機能」を設定することができます。

 詳細について ⇨ 「本章 4 パスワードセキュリティ機能を使う」


■パソコンの使用を中断する／簡単に電源を切る

モバイルで使用しているときは、作業を一時的に中断することがよくあります。そのたびに電源を切ったり、入れたりするのではなく、「スタンバイ」や「休止状態」を使うと、中断時の作業がすばやく再現されるので便利です。

 詳細について ⇨ 「本章 5 パソコンの使用を中断する／簡単に電源を切る」

■外出先でインターネットをする

モバイルでインターネットや電子メールを使用することができます。
ここでは、モバイルでインターネットに接続する方法や、外出先の環境に合わせて設定を変更する方法を紹介します。

 詳細について ⇨ 「本章 6 外出先でインターネットをする」

2

バッテリーを充電する

パソコン本体には、バッテリーパックが取り付けられています。

バッテリーを充電して、バッテリー駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使うことができます。

バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめACアダプタを接続してバッテリーの充電を完了（フル充電）させます。または、フル充電したバッテリーパックを取り付けます。

ご購入時は、バッテリーはフル充電されていませんので、本製品を初めてお使いになるときは、バッテリーを充電してからお使いください。

本製品のマニュアル『安心してお使いいただくために』に、バッテリーパックをお使いになるときに守っていただきたい重要事項が記述されています。バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよくお読みになり、必ず指示をお守りください。



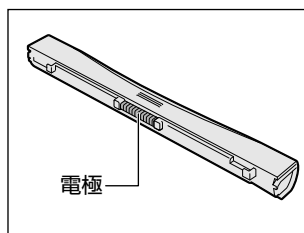
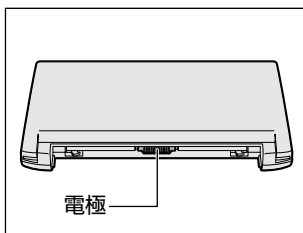
『安心してお使いいただくために バッテリーパックの取り扱いについて』

⚠ 警告

- ・バッテリーパックは、必ず本製品に付属の製品を使用してください。また、寿命などで交換する場合は、東芝純正バッテリー（TOSHIBA バッテリーパック：PABAS009、大容量バッテリーパック：PABAL005）をお買い求めください。指定以外の製品は、電圧や端子の極性が異なっていることがあるため発煙、火災のおそれがあります。

⚠ 注意


- ・バッテリーパックの充電温度範囲内（10～30℃）で充電してください。充電温度範囲内で充電しないと、液もれや発熱、性能や寿命が低下するおそれがあります。
- ・別売りのバッテリーパックをお買い上げ後、初めて使用する場合にサビ、異臭、発熱などの異常があると思われるときは使用しないでください。お買い求めの販売店または、お近くの保守サービスに点検を依頼してください。
- ・バッテリー駆動で使用しているときは、バッテリーの残量に十分注意してください。
バッテリー（バッテリーパック、時計用バッテリー）を使いきってしまうと、スタンバイが効かなくなり、電源が切れて、メモリに記憶されていた内容はすべて消えます。また、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、全バッテリーを充電してください。
- ・バッテリーパックの取り付け／取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行なってください。スタンバイを実行している場合は、バッテリーパックの取りはずしをしないでください。データが消失します。
- ・本体側の電極に手を触れないでください。故障の原因になります。

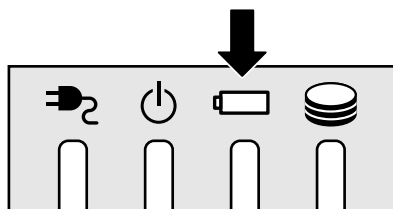



1 バッテリー充電量を確認する

バッテリー駆動で使う場合、バッテリーの充電量が減って途中で作業を中断したりしないよう、バッテリーの充電量を確認しておく必要があります。バッテリー充電量を確認するには、次の方法があります。

Battery LEDで確認する


ACアダプタを使用している場合、Battery  LED が緑色に点灯すれば充電完了です。



バッテリー駆動で使用しているときにオレンジ色に点滅した場合は、バッテリーの充電が必要です。Battery  LED は次の状態を示しています。

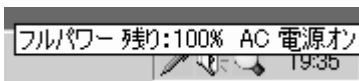
緑	充電完了
オレンジ	充電中
オレンジの点滅	充電が必要
消灯	・ バッテリーが接続されていない ・ ACアダプタが接続されていない ・ バッテリー異常

タスクバーの [省電力] アイコンで確認する

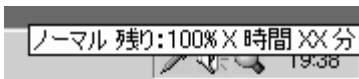
タスクバーの [省電力] アイコン () の上にポインタを置くと、バッテリー充電量が表示されます。


このときバッテリー充電量以外にも、現在使用している省電力モード名や、使用している電源の種類が表示されます。バッテリー駆動で使用している場合には、バッテリー動作予想時間も表示されます。

- AC アダプタを接続している場合




- バッテリ駆動の場合



- メモ**
- タスクバーに表示される [省電力] アイコン () の色は現在使用されている省電力モードにより変わります。
 - 東芝省電力キューティリティ ([コントロールパネル] → [東芝省電力]) の [電源設定] タブの設定内容によっては、タスクバーに [省電力] アイコンが表示されません。表示させたいときは、[電源設定] タブで [タスクバーに省電力モードの状態を表示する] をチェックしてください。

バッテリー充電量が減少したとき


電源が入っている状態でバッテリーの充電量の減少が進むと、次のように警告します。

- Battery  LED がオレンジ色に点滅する (バッテリーの減少を示しています)
- 警告音 (ビーブ音) が鳴る

上記のような警告が起こった場合はただちに次のいずれかの方法で対処してください。

- パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源を供給する
- 電源を切ってから、フル充電のバッテリーパックと取り換える

ご購入時の設定では、対処しなかった場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切ります。

- お願い**
- 長時間使用しないでバッテリーが自然に放電しきってしまったときは、警告音でも Battery  LED でも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

時計用バッテリー

本製品には、取りはずしができるバッテリーパックの他に、内蔵時計を動かすための時計用バッテリーが内蔵されています。

時計用バッテリーの充電は、パソコン本体の電源が入っているときに行われますので、普通に使用しているときは、あまり意識して行う必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。充電完了までの時間は次のとおりですが、実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることはできません。

■ 充電完了までの時間

状態	時計用バッテリー
電源ON	8時間以上



- 時計用バッテリーが切れていると、時間の再設定をうながす Warning（警告）メッセージが出ます。

2 バッテリーを充電する

ここでは、充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

充電方法

1 パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源コードをコンセントにつなぐ

DC IN LED が緑色に点灯して Battery LED がオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。

パソコン本体に AC アダプタを接続すると、電源の ON/OFFにかかわらず、フル充電になるまで充電されます。

2 Battery LED が緑色になるまで充電する

バッテリーの充電中は Battery LED がオレンジ色に点灯します。

DC IN LED が消灯している場合は、電源が供給されていません。AC アダプタ、電源コードの接続を確認してください。



- バッテリーパックが極端に熱いか冷えていると、正常に充電されないことがあります。バッテリーを充電するには、10～30℃の室温で充電してください。



- パソコン本体を長時間で使用にならないときは、電源コードの電源プラグをコンセントから抜いてください。

■ 充電時間

フル充電になるまでの充電時間の目安は次のとおりです。
(標準バッテリーパックの場合)

状態	充電時間
電源ON	約3時間以上
電源OFF	約3時間

(注) 周囲の温度が低いとき、バッテリーの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けている場合は、この時間よりも長くなる場合があります。

■ 使用できる時間

バッテリー駆動での使用時間は、パソコン本体の使用環境によって異なります。

次の時間は目安にしてください。

【充電完了の状態で使用した場合】

省電力モード	動作時間
ロングライフ	約3時間30分


(注) 当社使用のプログラムで計測

■ 使っていないときの充電保持時間

パソコン本体を使わないで放置していても、バッテリー充電量は少しずつ減っていきます。この場合も放置環境などに左右されますので、保持時間は、目安にしてください。

【フル充電した状態で電源を切った場合】


パソコン本体の状態	保持時間
電源切断または休止状態	約2週間

-  ● スタンバイを実行した場合、放電しきるまでの時間が非常に短い
ため、バッテリー駆動時は休止状態にすることをおすすめします。


バッテリーを節約する

バッテリーを節約して、本製品をバッテリー駆動で長時間使用するには、次の方法があります。


- こまめに休止状態にする

 参照 休止状態 ⇨ 「本章 5 パソコンの使用を中断する／簡単に電源を切る」

- 入力しないときは、ディスプレイを閉じておく

 参照 参照 ディスプレイを閉じる
⇨ 「本章 5 パソコンの使用を中断する／簡単に電源を切る」

- 省電力モードに設定する

 参照 参照 省電力設定 ⇨ 「本章 3 省電力ユーティリティを使う」

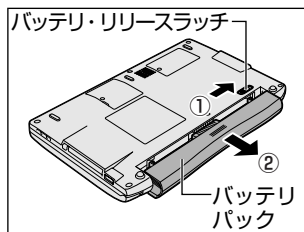
3 バッテリーパックを交換する



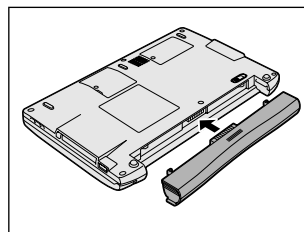
- バッテリーパックの取り付け／取りはずしの際には、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行なってください。

取り付け／取りはずし

- 1 データを保存し、アプリケーションを終了する
- 2 [スタート] → [シャットダウン] をクリックする
- 3 [シャットダウン] を選択し、[OK] ボタンをクリックする
Windows を終了して電源が切れます。
- 4 パソコン本体から AC アダプタと周辺機器のケーブル類をはずす
- 5 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返す
- 6 バッテリー・リリースラッチをスライドしながら①、バッテリーパックを取りはずす②



- 7 交換するバッテリーパックを、「カチッ」という音がするまで、静かに差し込む




3

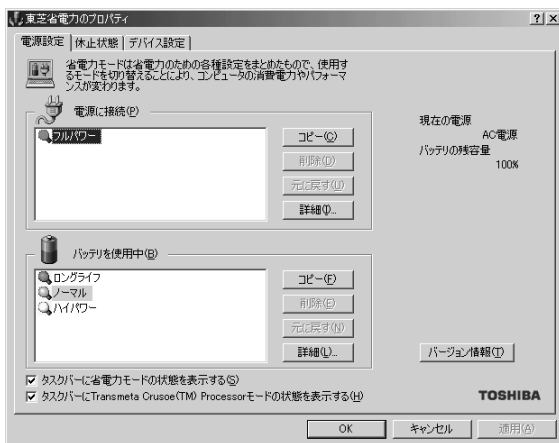
省電力ユーティリティを使う

バッテリー駆動でパソコンを使用しているときに、消費電力を減らすこと（ディスプレイの明るさを抑えるなど）で、より長い時間お使いいただけます。ACアダプタを接続して使う場合には、特に設定する必要はありません。

起動方法

- 1 [コントロールパネル] を開き、[東芝省電力] アイコン（) をダブルクリックする

[電源設定] タブ



使用目的や使用環境（モバイル、会社、家など）に合わせて、省電力モードを設定したり、複数の省電力モードを作成できます。環境が変化したときに省電力モードを切り替えるだけで、簡単にパソコンの電源設定を変更することができ、快適にご使用いただけます。また、現在の電源やバッテリー残量などの詳細情報も表示します。

■ [電源に接続] [バッテリーを使用中]

設定可能な省電力モードの一覧が表示されますので、ご使用になる省電力モードに設定します。[電源に接続] [バッテリーを使用中] は AC アダプタ接続/バッテリー駆動での使用によって、自動的に切り替わります。

ご購入時にはあらかじめ次の省電力モードが用意されています。これらの省電力モードは、電源の供給状態によって、設定できるモードがあらかじめ決められています。

また、すべての省電力モードを、使用環境や状態に合わせて詳細設定したり、コピー、名前の変更などが行えます。また、新しい省電力モードを作成することもできます。

省電力モードの詳細設定は、その省電力モードのプロパティ画面で行います。「本項 省電力モードの詳細設定」をご覧ください。

● フルパワー

最高性能で動作します。消費電力が一番大きいモードです。ご購入時の初期状態では、[電源に接続] (AC アダプタを使用するとき) がこのモードに設定されています。

● ロングライフ

消費電力を優先して省電力制御を行います。

● ノーマル


性能と消費電力を両立して省電力制御を行います。ご購入時の初期状態では、[バッテリーを使用中] (バッテリー駆動で使用するとき) がこのモードに設定されています。

● ハイパワー

性能を優先して省電力制御を行います。

【省電力モードの作成】

- ① 新しく作成する省電力モードのもとになる省電力モードをクリックする
- ② [コピー] ボタンをクリックする
[~のコピー] という省電力モードができます。
- ③ その省電力モードの名前を変更する
- ④ 必要に応じて省電力の設定を変更する

 省電力モードの詳細設定 ⇨ 「本項 省電力モードの詳細設定」

【省電力モードの削除】

① 削除する省電力モードをクリックする

② [削除] ボタンをクリックする

[元に戻す] ボタンをクリックすると直前に行なった削除をキャンセルすることができますが、[閉じる] ボタンをクリックした後は元に戻すことはできません。また、ご購入時に用意されている4つの省電力モードを削除することはできません。

【タスクバーに省電力モードの状態を表示する】

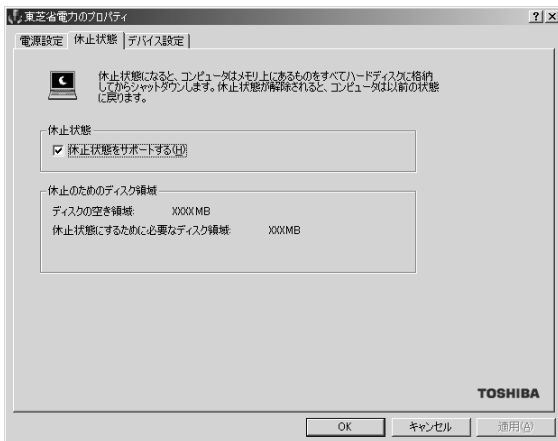
[タスクバーに省電力モードの状態を表示する] をチェックする () と現在の省電力モードを示す省電力アイコンがタスクバーに表示されます。チェックをはずすとアイコンは表示されません。省電力アイコンを表示させておくと、そのアイコンをダブルクリックすることにより、東芝省電力ユーティリティを開くことができます。

【タスクバーにTransmeta Crusoe (TM) Processorモードの状態を表示する】

ここをチェックする () と現在のCPU周波数 (Transmeta Crusoe™ Processor) の状態を示すアイコンがタスクバーに表示されます。ここのチェックをはずすとアイコンは表示されません。CPU周波数アイコンを表示させておくと、そのアイコンをクリックすることにより、CPU周波数を変更することができます。

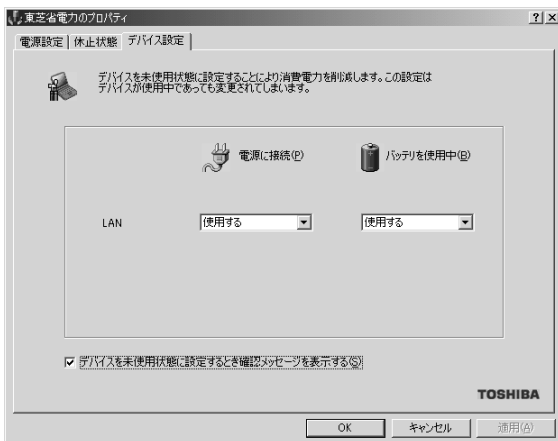
[休止状態] タブ

休止状態を使用するかしないかの設定を行います。



[デバイス設定] タブ

LAN を使用するかしないか、を設定します。AC アダプタを使用しているときとバッテリーを使用しているときで、それぞれ設定ができます。また、未使用状態に切り替えられたときに確認のメッセージが表示されるようにできます。



省電力モードの詳細設定

省電力モードに関する詳細設定を行います。

■ 起動方法

- ① [電源設定] タブで利用したい省電力モード（フルパワー、ロングライフ、ノーマル、ハイパワー）を選択し、[詳細] ボタンをクリックする
次の画面が表示されます。



(表示例)

■ [全般] タブ

省電力モードのアイコンを変更したり、その省電力モードを作成した目的や使用環境などを記述できます。また、ここで設定したプログラムがアクティブになったとき、自動的にこの省電力モードに切り替わるように設定できます。

■ [省電力] タブ

省電力に関する設定を自由に編集することができます。ここでは、ディスプレイやハードディスクの電源を切る時間、ディスプレイの輝度、CPUの処理速度などを設定します。また、CPUが高温になったとき、熱を冷ます方式を選択できます。

■ [動作] タブ

ここでは、電源スイッチを押したときやパソコンのディスプレイを閉じたときの動作を設定します。

【スタンバイ】

スタンバイとは、作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、状態を再現することができます。スタンバイを実行するとすばやく状態が再現されますが、休止状態にしたときよりバッテリーを消耗します。バッテリーを使いきってしまうとデータは消失しますので、スタンバイを実行する場合は、ACアダプタを取り付けてお使いになることをおすすめします。

次のような場合はスタンバイが無効になり、本体内の記憶内容が変化し、消失するおそれがあります。

- ・ 誤った使いかたをしたとき
- ・ 静電気や電氣的ノイズの影響を受けたとき
- ・ バッテリーが消耗したとき
- ・ 故障、修理、バッテリー交換のとき
- ・ バッテリー駆動で使用中にバッテリーパックを取りはずしたとき
- ・ 増設メモリの取り付け／取りはずしをしたとき

【休止状態】

休止状態とは、パソコン本体の電源を切るときに、メモリの内容をハードディスクに保存する機能です。次に電源を入れると、以前の状態を再現します。この機能はパソコン本体に対しての機能です。周辺機器には働きません。

休止状態が有効（[東芝省電力] → [休止状態] タブの [休止状態をサポートする] がチェックされている）の場合は、動作中にバッテリー充電量が減少すると、休止状態にして電源を切ります。休止状態が無効の場合、何もしないで電源が切れますので、休止状態を有効にしておくことをおすすめします。

【電源オフ】

Windows を終了して電源を切ります。

- [スタンバイおよび休止状態から復帰するときにパスワードの入力を求める]

ここをチェックする () と、Windows のパスワードを設定している場合には、スタンバイや休止状態から復活するときに Windows パスワードが要求されます。



- ここに表示している動作設定を他の省電力モードにも設定する場合には、[現在の設定をすべてのモードで使用する] ボタンをクリックします。





- 休止状態中は、メモリの内容をハードディスクに保存します。Disk LED が点灯中は、バッテリーパックをはずしたり、ACアダプタを抜いたりしないでください。データが消失します。
- 増設メモリの取り付け／取りはずしをすると、休止状態が無効になり、本体内の記憶内容が変化し、消失するおそれがあります。

■ [アラーム] タブ

バッテリー残量が少なくなったことをユーザに通知する方法および実行する動作を設定します。

[アラーム] タブは、[電源設定] タブで [バッテリーを使用中] に登録された省電力モードを選択した場合のみ表示されます。

詳しい操作方法を知りたいとき (ヘルプの起動)

- 1 [東芝省電力ユーティリティ] を起動後、[東芝省電力のプロパティ] 画面右上の  をクリックする
ポインタが  に変わります。
- 2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

4

パスワードセキュリティ機能を使う

1 パスワードセキュリティ機能について

本製品では、「パスワードセキュリティ機能」を設定できます。

● ユーザパスワード

電源を入れたときや休止状態から復帰するとき



ユーザパスワードについて

- ☞ 「本節 2 ユーザパスワードの設定」
- ☞ 「本節 3 ユーザパスワードの入力」

● Windows のログオンパスワード

Windows にログオンするとき

インスタントセキュリティ状態やパスワード保護の設定をしたスクリーンセーバを解除するとき

コンピュータのロックを解除するとき

スタンバイ状態、休止状態から復帰するとき



インスタントセキュリティ機能について

- ☞ 「3章 8-1 (Fn)キーを使った特殊機能キー」



スクリーンセーバーのパスワードによる保護

- ☞ 「本節 -4 スクリーンセーバーのパスワードによる保護」



スタンバイ状態、休止状態から復帰するとき

- ☞ 「4章 3- 省電力モードの詳細設定」

Windows のログオンパスワード、コンピュータのロックについては、Windows 2000 のヘルプをご覧ください。

2 ユーザパスワードの設定

ユーザパスワードを設定すると、電源を入れたときや休止状態から復帰するときにパスワード入力が必要されます。



ユーザパスワードの登録/削除は、「東芝 HW セットアップ」で行います。

ユーザパスワードとして使用できる文字


パスワードに使用できる文字は次のとおりです。

パスワードは「**** (アスタリスク)」で表示されますので画面で確認できません。

よく確認してから入力してください。

使用できる文字	アルファベット (半角)	A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z
	数字 (半角)	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
	記号 (単独のキーで入力できる文字の一部)	- ^ @ [] ; : , . / (スペース)
使用できない文字	<ul style="list-style-type: none">・ 全角文字 (2バイト文字)・ 日本語入力システムの起動が必要な文字 【例】 漢字、カタカナ、ひらがな、日本語入力システムが供給する記号 など・ 単独のキーで入力できない (入力するときに Shift キーなどを使用する) 文字 【例】 (バーチカルライン)、& (アンド)、 ~ (チルダ) など・ ¥ (エン)  キーや  キーを押すと ¥ が入力されます。	

東芝 HW セットアップの起動方法

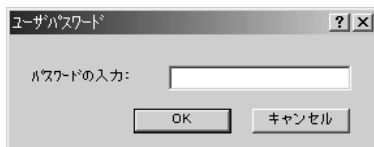
- 1 [コントロールパネル] を開き、[東芝 HW セットアップ] アイコン () をダブルクリックする

ユーザパスワードの登録

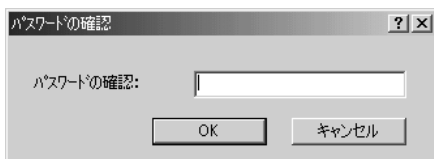
- 1 [パスワード] タブで [ユーザパスワード] の [登録] をチェックする



- 2 [ユーザパスワード] 画面の [パスワードの入力] にパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする
パスワードは大文字、小文字を区別しません。



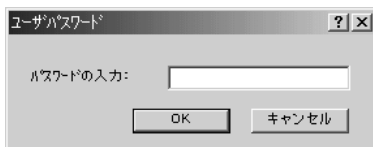
- 3 [パスワードの確認] 画面の [パスワードの確認] に同じパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする




- 4 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

ユーザパスワードの削除

- 1 [パスワード] タブで [ユーザパスワード] の [未登録] をチェックする
- 2 [ユーザパスワード] 画面の [パスワードの入力] にパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする



- 3 表示されるメッセージを確認し、[OK] ボタンをクリックする

-  ● パスワードの入力エラーが3回続いた場合は、パスワード削除の操作ができなくなります。
この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、もう1度設定を行なってください。

キーフロッピーディスクの作成

ユーザパスワードの設定後、キーフロッピーディスクを作成できます。キーフロッピーディスクを使用して、登録したパスワードの解除ができます。

1 電源を切る

2 別売りのフロッピーディスクドライブを接続し、書き込み可能状態のフロッピーディスクをセットする

3 電源を入れる

画面に「Password =」と表示されます。

4 設定したとおりにパスワードを入力する

5 **[Tab]**キーを押す

画面に「Insert password service disk if necessary. Are you sure? (Y/N)」と表示されます。

6 **[Y]**キーを押す

画面に「Password Service Disk Type? (1:2HD, 2:2DD)」と表示されます。

7 **[1]**または**[2]**キーを押す

お使いのフロッピーディスクのタイプをご確認のうえ、キーを押してください。

画面に「Remove the password service disk, then press any key.」と表示されます。

8 何かキーを押す

Windows が起動します。




- キーフロッピーディスクを作成すると、そのフロッピーディスクに保存されていた内容はすべて消去されます。フロッピーディスクの内容をよくご確認のうえ、ご使用ください。

3 ユーザパスワードの入力

ユーザパスワードが設定されている場合、電源を入れると、画面に「Password=」と表示されます。

この場合は、次のようにするとパソコン本体が起動します。


- 1 設定したとおりにパスワードを入力し、**(Enter)**キーを押す
パスワードは大文字、小文字を区別しません。

 ● パスワードの入力ミスが3回繰り返した場合は、自動的に電源が切れます。電源を入れ直してください。

ユーザパスワードを忘れてしまった場合

キーフロッピーディスクを使用して、登録したパスワードの解除ができます。

- 1 電源を入れる
画面に「Password =」と表示されます。
- 2 別売りのフロッピーディスクドライブを接続し、作成したキーフロッピーディスクをセットする
- 3 **(Enter)**キーを押す
フロッピーディスクから読み込みが始まり、Windowsが起動します。
設定したパスワードは解除されます。

 ● キーフロッピーディスクを作成していなかった場合は、お近くの保守サービスにご相談ください。パスワードの解除を保守サービスにご依頼される場合は有償になります。また、そのとき、身分証明書（お客様ご自身を確認できる物）の提示が必要となります。

4 スクリーンセーバーのパスワードによる保護


(Fn)+(F1)キーを押すと、「模様なし」のスクリーンセーバーが実行され、画面が暗くなります。

スクリーンセーバーを解除するには、(Shift)キーや(Ctrl)キーを押すか、アクセシビリティの操作を行ってください。

スクリーンセーバーにパスワードを設定すると、スクリーンセーバーを解除するときに、Windows のログオンパスワードの入力が要求されます。

スクリーンセーバーのパスワードは、[画面のプロパティ] の [スクリーンセーバー] タブで設定します。

スクリーンセーバーのパスワード保護

- 1 [コントロールパネル] を開き、[画面] アイコン () をダブルクリックする
または、
デスクトップ上の何も無いところで右クリックし、[プロパティ] をクリックする
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。
- 2 [スクリーンセーバー] タブでスクリーンセーバーを選択する
- 3 [パスワードによる保護] をチェックする



(表示例)


4 [OK] ボタンをクリックする

スクリーンセーバーの解除

スクリーンセーバーの動作中に(Shift)キーや(Ctrl)キーを押すか、アクセシビリティの操作を行うと、[コンピュータのロックの解除] 画面が表示されます。

1 Windows のログオンパスワードを入力し、[OK] ボタンをクリックする

パスワードの大文字、小文字は区別されます。パスワードを設定したときと同じ状態にしてください。

-  ● Windows のログオンパスワードを設定せずに [パスワードによる保護] をチェックした場合も [コンピュータのロックの解除] 画面が表示されます。何も入力しないで [OK] ボタンをクリックしてください。

5

パソコンの使用を中断する ／簡単に電源を切る

1 スタンバイ／休止状態

パソコンの使用を一時的に中断したいとき、スタンバイまたは休止状態にすると、パソコンの使用を中断したときの状態が保存されます。パソコンの使用を中断したときの状態をメモリに保存するのが「スタンバイ」、ハードディスクに保存するのが「休止状態」です。再び処理を行う（電源スイッチを押す、ディスプレイを開くなど）と、パソコンの使用を中断した時の状態が再現されます。



- スタンバイ中や休止状態では、バッテリーや周辺機器（増設メモリなど）の取り付け／取りはずしは行わないでください。データの消失や感電、故障のおそれがあります。
- スタンバイまたは休止状態を利用しない場合は、データを保存し、アプリケーションをすべて終了させてから、電源を切ってください。データが消失するおそれがあります。
- スタンバイまたは休止状態を実行する前にデータを保存することをおすすめします。

スタンバイ

作業を中断したときの状態をメモリに保存する機能です。次に電源スイッチを押すと、状態を再現することができます。スタンバイを実行するとすばやく状態が再現されますが、休止状態にしたときよりバッテリーを消耗します。バッテリーを使い切ってしまうとデータは消失しますので、スタンバイを実行する場合は、ACアダプタを取り付けてお使いになることをおすすめします。

1 [スタート] ① → [シャットダウン] ②をクリックする



2 [スタート] ボタンをクリックし①、[スタンバイ] を選択する②



3 [OK] ボタンをクリックする

メモリへの保存が終わると、画面が真っ暗になります。

4 Power LED がオレンジ点滅しているか確認する

[スタート] メニューから選択する方法のほかに、電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じたときにもスタンバイまたは休止状態にすることができます。その場合は、設定が必要です。

 参照 詳細について

→ 「本節 2 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断するとき」

 お願い

- スタンバイ状態は、表示画面が消えていても電源が入っています。スタンバイ状態でお使いになる場合は、次の「警告」や「注意」の指示を必ずお守りください。

警告

- ・パソコン本体を航空機や病院に持ち込む場合、スタンバイを使用しないで、必ず電源を切ってください。スタンバイ状態のまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器や医療機器に影響を与える場合があります。

注意

- ・スタンバイ中は、増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。スタンバイ中は電源が入っていますので、増設メモリの取り付け／取りはずしを行うと、感電、故障のおそれがあります。

休止状態

パソコンの使用を中断したときの状態をハードディスクに保存します。次に電源を入れると、状態を再現することができます。パソコンをバッテリー駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使用する場合は、休止状態の設定をすることをおすすめします。

ご購入時は、休止状態は有効に設定されています。

1 休止状態を有効に設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[東芝省電力] アイコンをダブルクリックする
- ② [休止状態] タブで [休止状態をサポートする] をチェックする
- ③ [OK] ボタンをクリックする
休止状態が有効になります。

2 [スタート] ①→ [シャットダウン] ②をクリックする



3 ▼ ボタンをクリックし①、[休止状態] を選択する②



4 [OK] ボタンをクリックする

[スタート] メニューから選択する方法のほかに、電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じたときにもスタンバイまたは休止状態にすることができます。その場合は、設定が必要です。



- 休止状態にするときは、メモリの内容をハードディスクに書き込んだ後に、電源が切れます。Disk LED が点灯中は、バッテリーパックをはずしたり、ACアダプタを抜いたりしないでください。



詳細について

➔ 「本節 2 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断するとき」

2 簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断するとき


[スタート] メニューから操作せずに、電源スイッチを押したときやディスプレイを閉じたときに、電源を切る（電源オフ）、またはスタンバイ／休止状態にすることができます。


電源スイッチを押す

休止状態にするには、あらかじめ次の設定が必要です。

ご購入時は、休止状態は有効に設定されています。

- ① [コントロールパネル] を開き、[東芝省電力] アイコンをダブルクリックする
- ② [休止状態] タブで [休止状態をサポートする] をチェックする (☑)
- ③ [OK] ボタンをクリックする
休止状態が有効になります。

 ● (Fn)+(F3)キーを使用して、電源スイッチを押したときの動作を切り換えることができます。

 詳細について ⇨ 「3章 8 キーボード」

1 電源スイッチを押したときの動作を設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[東芝省電力] アイコンをダブルクリックする
- ② [電源設定] タブで設定する省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする
- ③ [動作] タブの [電源ボタンを押したとき] で [スタンバイ] [休止状態] [電源オフ] のいずれかを選択する
- ④ [OK] ボタンをクリックする
- ⑤ [東芝省電力のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

2 電源スイッチを押す

選択した状態で電源を切る、または作業を中断します。

ディスプレイを閉じる

ディスプレイを閉じると電源を切る、またはパソコンの使用を中断することを、パネルスイッチ機能といいます。


休止状態にするには、あらかじめ次の設定が必要です。

ご購入時は、休止状態は有効に設定されています。

- ① [コントロールパネル] を開き、[東芝省電力] アイコンをダブルクリックする
- ② [休止状態] タブで [休止状態をサポートする] をチェックする ()
- ③ [OK] ボタンをクリックする
休止状態が有効になります。

1 ディスプレイを閉じたときの動作を設定する

- ① [コントロールパネル] を開き、[東芝省電力] アイコンをダブルクリックする
- ② [電源設定] タブで設定する省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする
- ③ [動作] タブの [コンピュータを閉じたとき] で [スタンバイ] [休止状態] [電源オフ] のいずれかを選択する
- ④ [OK] ボタンをクリックする
- ⑤ [東芝省電力のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

 ● 手順1の③で [何もしない] を選択すると、パネルスイッチ機能は動きません。

2 ディスプレイを閉じる

選択した状態で電源を切る、または作業を中断します。

手順1の③で [スタンバイ] または [休止状態] を選択したときは、次にディスプレイを開くと、自動的に状態が再現されます。

6

外出先でインターネットをする

外出先でもインターネットや電子メールを利用することができます。
外出先でインターネットに接続するには、次のような方法があります。

■ PHS、携帯電話を使う

PHS、携帯電話を接続してインターネットに接続できます。
LibrettoにPHS、携帯電話を接続する場合は、別途、接続機器（別売り）が必要です。
接続について詳しくは、『PHS、携帯電話に付属の説明書』や『接続機器に付属の説明書』をご覧ください。

■ モジュージャック付きの公衆電話

公衆電話の中には、モジュージャックが用意されているものがあります。
「アナログ」と書いてあるモジュージャックにモジュラーケーブルを接続します。

■ インターネット接続の設備が整っている場所

ホテルのビジネスルームなどでは、モジュラーケーブルを接続するための電話回線が用意されている場合があります。

ここでは、モバイルでインターネットや電子メールを使用する場合に、自宅やオフィスなどで普段利用している設定を変更する方法について説明します。

外出先の環境について、次の点を確認してください。

- ・ 外出先の電話回線のダイヤル方法（トーンまたはパルス）
- ・ 外出先の電話回線の市外局番



- ここでは、普段は自宅やオフィスなどで、インターネットやメールをモデム接続で使用している場合を、「現在の設定」とします。

外出先のダイヤル方法を確認する

最初に、外出先の電話回線のダイヤル方法（トーンまたはパルス）を確認します。

現在の設定と同じ場合は、特に設定を変更する必要はありません。

現在の設定と異なる場合は、「設定の変更」を行います。

外出先の市外局番を確認する


次に、外出先の電話回線の市外局番を確認します。


現在の設定と同じ市外局番の場合は、特に設定を変更する必要はありません。

現在の設定と異なる市外局番の場合は、「設定の変更」を行います。

現在の設定のままでインターネットに接続することもできますが、プロバイダのアクセスポイントまで電話料金がかかりますので、外出先により近いアクセスポイントに変更することをおすすめします。詳しくは、ご契約のプロバイダにお問い合わせください。

設定の変更

- 1 [コントロールパネル] を開き、[電話とモデムのオプション] アイコン () をダブルクリックする
- 2 [ダイヤル情報] タブで [所在地] を選択し、[編集] ボタンをクリックする
[所在地の編集] 画面が表示されます。
外出先の設定を新たに登録したい場合は、[新規] ボタンをクリックしてください。その場合は [新しい所在地] 画面が表示されます。
- 3 [全般] タブで、次の点を確認する
 - 所在地
 - 国 / 地域
 - 発信元の市外局番
 - 外線発信番号
 - ダイヤル方法
- 4 [所在地の編集] 画面で [OK] ボタンをクリックする
- 5 [電話とモデムのオプション] 画面で [OK] ボタンをクリックする

 ● 携帯電話 / PHS を使用して通信する場合は、市外局番に 0000 (実在しない局番) を設定してください。

次に、接続先の電話番号の設定を行います。

- 1 [スタート] → [設定] → [ネットワークとダイヤルアップ接続] → 接続に使用するダイヤルアップ [XX (接続先)] をクリックする
[XX (接続先) へ接続] 画面が表示されます。
- 2 [プロパティ] ボタンをクリックする
[XX (接続先)] 画面が表示されます。

- 3 [全般] タブで [電話番号] 欄に、これから使用したいアクセスポイントの電話番号を市外局番から入力する
- 4 [XX (接続先)] 画面で [OK] ボタンをクリックする
- 5 [XX (接続先) へ接続] 画面で [キャンセル] ボタンをクリックする



- 接続先の電話番号の設定を新たに登録したい場合は、[スタート] → [設定] → [ネットワークとダイヤルアップ接続] → [新しい接続の作成] をクリックしてください。ウィザードが開始されます。

外出先での使用が終了した後は、設定を元に戻しておく必要があります。「普段利用する設定」と「外出先の設定」を、どちらも保存しておき、必要に応じて使い分けると便利です。

5 章 Libretto を拡張する

- 1 周辺機器を接続する前に 106
- 2 PC カードを接続する 110
- 3 USB 対応機器を接続する 114
- 4 マイクロホンに接続する 116
- 5 ヘッドホンに接続する 117
- 6 CRT ディスプレイに接続する 118
- 7 LAN へ接続する 122
- 8 メモリを増設する 125

1

周辺機器を接続する前に

周辺機器とは、パソコンに接続して使う機器のことです。周辺機器を使うと、パソコンの性能を高めたり、機能を広げることができます。周辺機器の例です。周辺機器には、すでにパソコンに内蔵されているものもあります。

- プリンタ
- PC カード
- スキャナ
- マウス
- 増設メモリ
- デジタルカメラ
- ハードディスクドライブ（本製品では内蔵済み）
- モデム（本製品では内蔵済み）
- LAN（本製品では内蔵済み）
- フロッピーディスクドライブ
- CD-ROM ドライブ

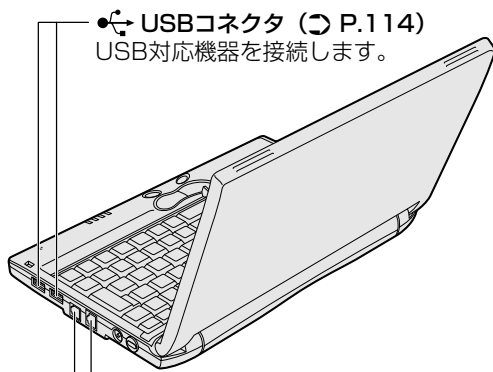
1 本製品に接続できる周辺機器

本製品には次のような周辺機器を接続できます。周辺機器によってインタフェースなどの規格が異なります。本製品に対応しているかご確認のうえ、ご購入ください。



- **インタフェース** ● 機器を接続するときのケーブルやコネクタの形状などの規格のこと。

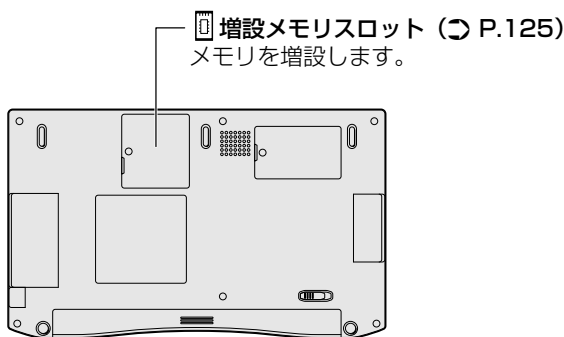




• USBコネクタ (⇒ P.114)
USB対応機器を接続します。

{Ether} LANコネクタ (⇒ P.122)
ネットワークケーブルを接続します。

☎ モジュラージャック (⇒ P.47)
モジュラーケーブルで本体を電話回線に接続し、
モデム機能を使用します。



☑ 増設メモリスロット (⇒ P.125)
メモリを増設します。

2 周辺機器を使う前に

周辺機器を使用する場合は、その機器を使用するための準備や設定が必要です。

ドライバをインストールする

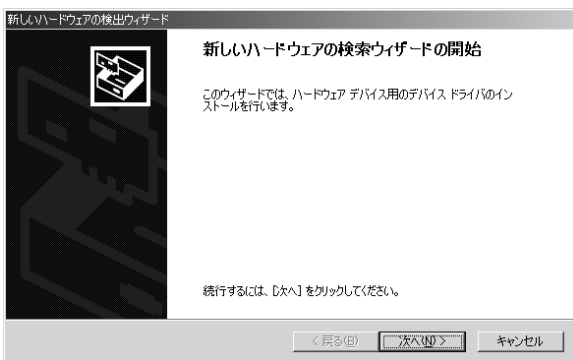
周辺機器を使うには、ドライバや専用のアプリケーションのインストールが必要です。

ドライバはあらかじめパソコンに用意されている場合と、周辺機器に添付のフロッピーディスクやCD-ROMを使う場合があります。

■ プラグアンドプレイに対応している場合

Windows には、あらかじめたくさんのドライバが用意されています。周辺機器を接続すると、Windows がドライバの有無をチェックします。その周辺機器に対応したドライバが見つかった場合は、自動的にインストールを開始します。

[新しいハードウェアの検出ウィザード] 画面が表示された場合は、画面に従って操作してください。



■ プラグアンドプレイに対応していない場合

[ハードウェアの追加と削除ウィザード] を起動するか、機器に付属の説明書をご覧になり、ドライバのインストールや必要な設定を行なってください。



● [ハードウェアの追加と削除ウィザード] の起動方法

[コントロールパネル] を開き、[ハードウェアの追加と削除] をダブルクリック

3 取り付け／取りはずしのご注意

本書で説明していない機器については、それぞれの機器に付属の説明書を参考にしてください。

取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって違います。本章の各節を読んでから作業をしてください。

⚠ 注意

- ・ホットインサージョンに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、電源コードのプラグを抜き、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行なってください。



- **ホットインサージョン** ● 電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うこと。



- 適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
- ホコリが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
- 極端に湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
- 静電気が発生しやすい環境では作業をしないでください。
- 本書で説明している場所のネジ以外は、取りはずさないでください。
- 作業時に使用するドライバは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
- 本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。

■ パソコン本体へケーブルを接続するとき

ケーブルを接続するときは、次の点に注意して、接続してください。

- パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向をあわせてください。
- ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、パソコン本体のコネクタに接続した後、ケーブルがはずれないようにネジを締めてください。

2

PC カードを接続する

目的に合わせた PC カード^{ピーシー}を使うことにより、パソコンの機能が大きく広がります。

PC カードには、次のようなものがあげられます。

- ISDN カード
- スマートメディアアダプタカード
- SCSI カード
- フラッシュメモリカード
- 無線 LAN カード など

PC カードの大部分は電源を入れたままの取り付け／取りはずし（ホットインサージョン）に対応しているので便利です。

お使いの PC カードがホットインサージョンに対応しているか、詳しい使いかたなどについては『PC カードに付属の説明書』をご覧ください。



- PC カード接続のハードディスクドライブや CD-ROM ドライブなどの動作中に、通信またはサウンドの再生を行なった場合、次の現象が発生することがあります。

- ・ 通信回線の速度が遅くなる、通信回線が切断される、ダイヤルに失敗する
- ・ サウンド再生時に音飛びが発生する

使用できる PC カードのタイプ

本製品は、PC Card Standard 準拠の TYPE II 対応のカード（CardBus 対応カードも含む）を使用できます。

取り付け／取りはずしのご注意

⚠ 注意

- ・ホットインサージョンに対応していないPCカードを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け／取りはずしを行なってください。
- ・PCカードには、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。PCカードを取りはずす際に、PCカードが熱い場合は、少し時間をおき、冷めてからPCカードを取りはずしてください。
- ・PCカードの使用停止は必ず行なってください。使用停止せずにPCカードを取りはずすとシステムが致命的影響を受ける場合があります。

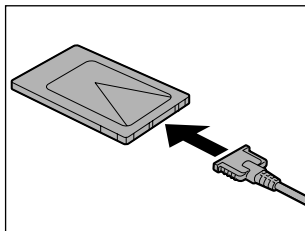


- 取りはずすときは、PCカードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。

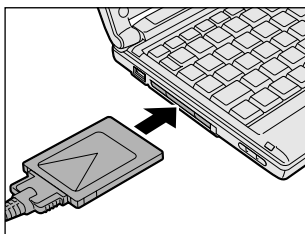
取り付け

1 PCカードにケーブルを付ける

SCSIカードなど、ケーブルの接続が必要なときに行います。



2 上下や方向を確認し、PCカードを挿入する



カードは、無理な力を加えず、静かに奥まで押してください。きちんと奥まで差し込まれていない場合、PCカードを使用できない、またはPCカードが壊れることがあります。


カードを接続した後、カードが使用できるように設定されているか確認してください。



カードの接続および環境の設定方法 ⇨ 『PCカードに付属の説明書』

取りはずし

1 PCカードの使用を停止する

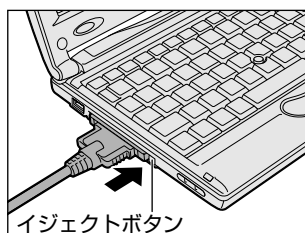
- ① タスクバーの [ハードウェアの取り外しまたは取り出し] アイコン () をダブルクリックする
- ② 表示される画面で、停止する PC カードを選択し、[停止] ボタンをクリックする
- ③ 表示される画面で、停止する PC カードを確認し、[OK] ボタンをクリックする
- ④ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[OK] ボタンをクリックする



- ⑤ [ハードウェアの取りはずし] 画面で [閉じる] ボタンをクリックする

2 PCカードスロットのイジェクトボタンを押す

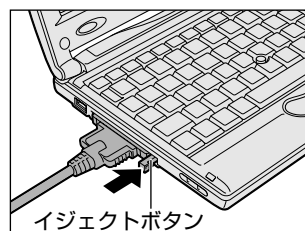
イジェクトボタンが出てきます。



3 もう1度PCカードスロットのイジェクトボタンを押す

「カチッ」と音がするまで押し続けてください。

カードが少し出てきます。



4 カードをしっかりとつかみ、引き抜く



- カードを引き抜くときはケーブルを引っ張らないでください。故障するおそれがあります。

5 イジェクトボタンを押す

イジェクトボタンを収納します。

3

USB 対応機器を接続する

ユーエスピー

USB コネクタに接続します。

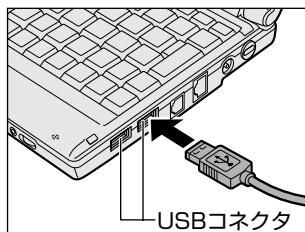
USB 対応機器は、電源を入れたまま、取り付け／取りはずしができ、プラグアンドプレイに対応しています。

USB 対応機器には次のようなものがあげられます。

- USB 対応マウス
- USB 対応プリンタ
- USB 対応スキャナ
- USB 対応ターミナルアダプタ など

取り付け

- 1 USB ケーブルのプラグをパソコン本体の USB コネクタに差し込む
コネクタの向きを確認して差し込んでください。



- 2 USB ケーブルのもう一方のプラグを USB 対応機器に差し込む

この手順が必要ない機器もあります。



USB 対応機器についての詳細 ⇨ 『USB 対応機器に付属の説明書』



- 電源供給を必要とする USB 対応機器を接続する場合は、USB 対応機器の電源を入れてからパソコン本体に接続してください。
- USB 対応機器を使用するには、システム (OS)、および機器用ドライバの対応が必要です。
- USB 対応機器については、動作確認ができていないためすべての機器の動作を保証することはできません。
- USB 対応機器を接続したままスタンバイまたは休止状態にすると、復帰後 USB 対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB 対応機器を接続し直すか、パソコンを再起動してください。



- USB コネクタの数が足りない場合は、市販されている USB ハブを使用してください。ハブを使うと最大で 127 台の周辺機器をつなぐことができます。接続できる最大数はハブによって異なります。

取りはずし

- 1 パソコン本体と USB 対応機器に差し込んである USB ケーブルを抜く

4

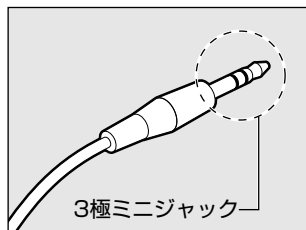
マイクロホンを接続する

マイク入力端子に接続します。

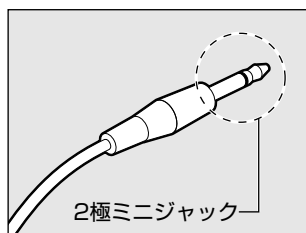
使用できるマイクロホン

本製品でご使用できるマイクロホンは次のとおりです。

- モノラルマイクのみ使用できます。
- プラグは3.5mm φ 3極ミニジャックタイプが使用できます。



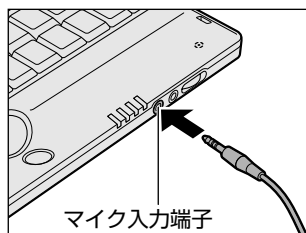
3.5mm φ 2極ミニジャックタイプのマイクロホンでもマイクロホン本体にバッテリーなどを内蔵し、電源供給を必要としないマイクロホンであれば使用できます。



接続

1 マイクロホンのプラグをマイク入力端子に差し込む

取りはずすときは、マイク入力端子からマイクロホンのプラグを引き抜きます。



5

ヘッドホンを接続する


ヘッドホン出力端子に接続します。

ヘッドホンのプラグは、直径 3.5mm φステレオミニジャックタイプをお使いください。

ヘッドホンの音量はボリュームダイヤル、または Windows の「マスタ音量」で調節してください。



● マスタ音量の起動方法

タスクバーの [音量] アイコン () をダブルクリック

⚠ 注意

- ・ヘッドホンを使用するときは、音量を上げすぎないように注意してください。
耳を刺激するような大きな音量を長時間続けて聞くと、聴力に悪影響を与えるおそれがあります。



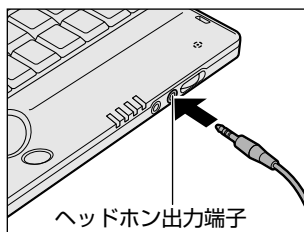
● 次のような場合にはヘッドホンを使用しないでください。雑音が発生する場合があります。

- ・パソコン本体の電源を入れる／切るとき
- ・ヘッドホンの取り付け／取りはずしをするとき

接続

1 ヘッドホンプラグをヘッドホン出力端子に差し込む

取りはずすときは、ヘッドホン出力端子からヘッドホンのプラグを引き抜きます。



6

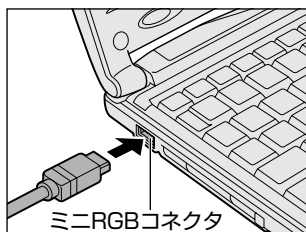
CRT ディスプレイを接続する

同梱のミニRGBケーブルを使い、CRTディスプレイを接続します。CRTディスプレイは、パソコンの電源を切ってから接続してください。

接続

- 1 ミニRGBケーブルのプラグをミニRGBコネクタに差し込む

取りはずすときは、ミニRGBコネクタからケーブルのプラグを引き抜きます。



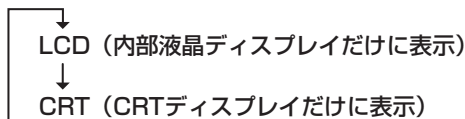
- 2 CRTディスプレイのケーブルのプラグをミニRGBケーブルのRGBコネクタに差し込む

CRTディスプレイを接続してパソコン本体の電源を入れます。

表示装置を切り替える

■ **(Fn) + (F5)** キーを使う

(Fn) キーを押したまま、**(F5)** キーを押すたびに切り替わります。




CRTディスプレイを接続している／していないに関わらず、この状態に切り替わります。CRTディスプレイが接続されていない場合も、内部液晶ディスプレイには何も表示されませんので、ご注意ください。

- メモ**
- CRTディスプレイと内部液晶ディスプレイに同時に表示することはできません。
 - CRTディスプレイに表示した状態でパソコンの電源を切り、再びパソコンの電源を入れた場合、画面は内部液晶ディスプレイに表示されます。
(Fn) + (F5) キーで切り替えてください。

- お願い**
- 次のようなときには、表示方法を切り替えないでください。データが消失するおそれがあります。
 - ・データの読み込みや書き込みをしている間
エラーになります。データのやりとりが完了するまで待ってください。
 - ・通信を行なっている間
エラーになります。通信が完了するまで待ってください。

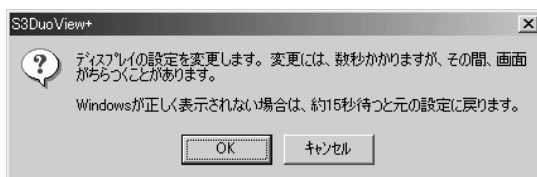
■ 画面のプロパティで設定する

- 1 [コントロールパネル] を開き、[画面] アイコン () をダブルクリックする
または、
デスクトップ上の何もないところで右クリックし、[プロパティ] をクリックする
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。

- 2 [設定] タブで [詳細] ボタンをクリックする
[(マルチモニタ) と S3 Graphics Inc. Savage/IX Display Driver のプロパティ] 画面が表示されます。
- 3 [S3DuoView+] タブの [表示デバイス選択] で [CRT] を選択する

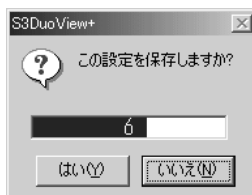


- 4 [OK] ボタンをクリックする
次の画面が表示されます。



- メモ ● 15 秒以内に CRT に画面が表示されない場合は、設定が解除されます。

- 5 [OK] ボタンをクリックする
次の画面が CRT ディスプレイに表示されます。



6 [はい] ボタンをクリックする

7 [OK] ボタンをクリックする

表示について



- CRT ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、CRT ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。



- CRT ディスプレイと内部液晶ディスプレイに同時に表示することはできません。
- 省電力機能により CRT ディスプレイの表示が消えた場合、(Shift) キーや (Ctrl) キーまたはアキュポイント II の操作により表示が復帰します。
このとき、表示が復帰するまで 10 秒前後かかることがあります
すが、故障ではありません。
- 1280 × 600 ドットの解像度で動画ファイル (AVI、MPEG ファイルなど) をフルスクリーン再生した場合、画像の一部が表示されません。
- 1280 × 600 ドットの解像度で CRT 表示した場合、表示画面の上下に黒い帯 (非表示エリア) ができます。
- 本製品の内部液晶ディスプレイの解像度は、1280 × 600 ドットです。CRT ディスプレイに表示する場合は、1280 × 1024 ドット対応の CRT ディスプレイをお使いください。
1280 × 1024 ドットに対応していない CRT ディスプレイをお使いの場合は、CRT ディスプレイの解像度に合わせて、内部液晶ディスプレイの解像度を変更してください。
また、モニタ 2 の色数は、出荷時は「256 色」に設定されています。必要に応じて色数の設定を変更してください。



ビデオモードについて ⇨ 「付録 1-2 サポートしているビデオモード」
画面の設定の変更について ⇨ 《オンラインマニュアル》

7

LAN へ接続する

本製品には、Fast Ethernet (100BASE-TX)、Ethernet (10BASE-T)に対応したLAN インタフェースが内蔵されています。本製品のLAN コネクタにLAN ケーブルを接続すると、Fast Ethernet / Ethernet を自動的に検出して切り替えます。

ここでは、LAN ケーブルの接続、LAN コネクタをご使用になる際の注意事項を説明します。

LAN ケーブルの接続

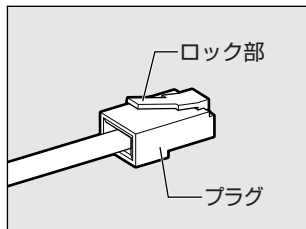
LAN インタフェースを 100BASE-TX 規格 (100Mbps) でご使用になるときは、必ずカテゴリ 5 (CAT5) のケーブルおよびコネクタを使用してください。カテゴリ 3 のケーブルは使用できません。10BASE-T 規格 (10Mbps) でご使用になるときは、カテゴリ 3 または 5 のケーブルが使用できます。



- **カテゴリ** ● ネットワークで使用されるケーブルの種類を分類したもの。カテゴリ 1～5 まであり、数字が高いほど品質が高い。10BASE-T ではカテゴリ 3 以上、100BASE-TX ではカテゴリ 5 のケーブルが使われる。



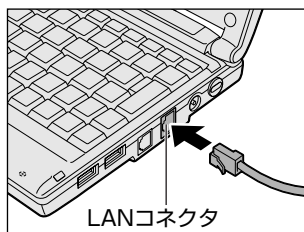
- LAN ケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらかずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。



1 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る

2 LAN ケーブルのプラグをLAN コネクタに差し込む

ロック部を手前にして、パチンと音がするまで差し込んでください。



3 LAN ケーブルのもう一方のプラグを接続先のネットワーク機器のコネクタに差し込む

ネットワーク機器の接続先やネットワークの設定は、『Windows のヘルプ』をご覧ください。また会社や学校でお使いの場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。


Windows のネットワーク設定

ネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワークの設定内容は、ネットワーク環境によって異なります。


⚠ 注意

- ・ご購入時は、ネットワークの設定は既定値になっています。Windows のセットアップ時に LAN ケーブルを接続していると、ネットワークの設定が既定値のままネットワークに接続してしまい、ネットワークに障害をもたらす場合があります。必ず、LAN ケーブルをはずした状態で Windows のセットアップを行なってください。

■ ネットワークの設定

- 1 Administrators グループのアカウントでログオンする
- 2 [コントロールパネル] を開き、[ネットワークとダイヤルアップ接続] アイコン () をダブルクリックする
- 3 [ローカルエリア接続] アイコンにポインタを合わせて右クリックする
- 4 表示されたメニューから [プロパティ] を選択する
- 5 ネットワーク接続の設定を行う
セットアップ時に設定した構成になっています。
本製品の標準設定の場合、次のような設定になっています。
アダプタ : Intel 8255x-based PCI Ethernet Adapter (10/100)
クライアント : Microsoft ネットワーク用クライアント
サービス : Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有
プロトコル : TCP/IP (自動取得)

■ ネットワーク上でのコンピュータ識別

- 1 Administrators グループのアカウントでログオンする
- 2 [コントロールパネル] を開き、[システム] アイコン () をダブルクリックする
[システムのプロパティ] 画面が表示されます。
- 3 [ネットワーク ID] タブで、ネットワーク ID とプロパティの設定をする
コンピュータ名、ドメイン/ワークグループはセットアップ時に設定した構成になっています。
変更する場合はここで再設定してください。

8

メモリを増設する

増設メモリスロットに 128MB までの増設メモリを取り付けることができます。増設メモリは、本製品で動作が保証されているものをご購入ください。それ以外のメモリを増設するとシステムが起動しなくなったり、動作が不安定になることがあります。

取り付け／取りはずしのご注意

⚠ 警告

- ・本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないでください。内部には高電圧部分が多くあり、万一触ると危険です。

⚠ 注意

- ・ステーブル、クリップなどの金属や、コーヒーなどの液体を機器内部に入れないでください。ショート、発煙のおそれがあります。万一、機器内部に入った場合は、バッテリーを取りはずし、電源を入れずに、お買い求めの販売店、またはお近くの保守サービスに点検を依頼してください。
- ・増設メモリの取り付け／取りはずしは、必ず電源を切り、AC アダプターのプラグを抜き、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行なってください。電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- ・次のような場合、増設メモリの取り付け／取りはずしは行わないでください。やけど、感電、故障のおそれがあります。
 - ・スタンバイ中
 - ・電源を切った直後
電源を切った後 30 分以上たってから行うことをおすすめします。
- ・パソコン本体やメモリのコネクタに触らないでください。コネクタにゴミが付着すると、メモリが正常に使用できなくなります。



- 増設メモリを強く押ししたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- スタンバイ／休止状態中に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。スタンバイ／休止状態が無効になります。また、本体内の記憶内容が変化し、消失することがあります。
- ネジをはずす際は、十字ネジ回しビット 1 番のドライバを使用してください。

■ 静電気について

増設メモリは、精密な電子部品のため静電気によって致命的損傷を受けることがあります。人間の体はわずかながら静電気を帯びていますので、増設メモリを取り付ける前に静電気を逃がしてから作業を行なってください。手近にある金属製のものに軽く指を触れるだけで、静電気を防ぐことができます。

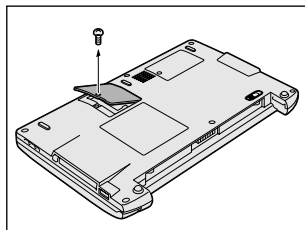
取り付け

- 1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
- 2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす
- 3 パソコン本体を裏返して、バッテリーパックを取りはずす



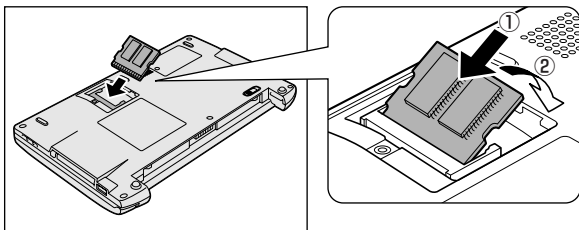
参照 バッテリーパックについて ⇨ 「4 章 2-3 バッテリーパックを交換する」

- 4 増設メモリカバーのネジをはずし、増設メモリカバーをはずす



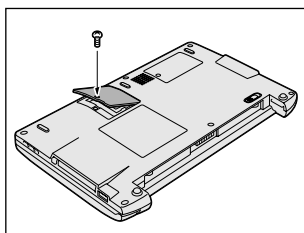
5 増設メモリを増設メモリスロットのコネクタに斜めに挿入し①、固定するまで増設メモリを倒す②

増設メモリの切れ込みを、増設メモリスロットのコネクタのツメに合わせて、しっかり差し込みます。フックがかりにくいときは、ペン先などで広げてください。




6 増設メモリカバーをはめ、手順4ではずしたネジをとめる


増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。



7 バッテリーパックを取り付ける


 バッテリーパックについて ⇨ 「4章 2-3 バッテリーパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

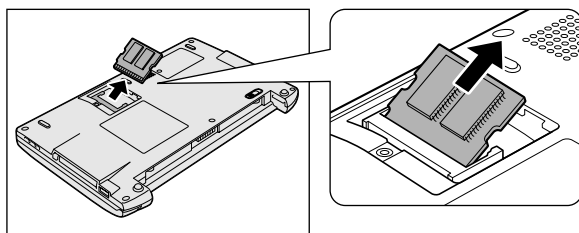
 メモリ容量の確認について ⇨ 「本節 - メモリ容量の確認」

取りはずし


- 1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る
- 2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす
- 3 パソコン本体を裏返して、バッテリーパックを取りはずす

 バッテリーパックについて ⇨ 「4章 2-3 バッテリーパックを交換する」


- 4 増設メモリカバーのネジをはずす
- 5 増設メモリカバーをはずす
- 6 増設メモリを固定している左右のフックをペン先などで開き、増設メモリをパソコン本体から取りはずす
斜めに持ち上がった増設メモリを引き抜きます。




- 7 増設メモリカバーをはめる
増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。
- 8 手順4ではずしたネジでとめる
- 9 バッテリーパックを取り付ける

 バッテリーパックについて ⇨ 「4章 2-3 バッテリーパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。
総メモリ容量が正しいか確認してください。

 メモリ容量の確認について ⇨ 「本節 - メモリ容量の確認」

メモリ容量の確認

-  ● システムがメインメモリ領域の約 16MB 分を使用するため、「PC 診断ツール」や「システムのプロパティ」で表示されるメモリ容量は、実際の容量より少なく表示されます。

■ 「PC 診断ツール」で確認する

- ① [スタート] → [プログラム] → [東芝ユーティリティ] → [PC 診断ツール] をクリックする
- ② [基本情報の表示] ボタンをクリックする
- ③ [メモリ] の数値を確認する

■ 「システムのプロパティ」で確認する

- ① [コントロールパネル] を開き、[システム] をダブルクリックする
- ② [全般] タブの RAM の数値を確認する

6章 困ったときは

1	Q&A 集を見る前に	132
2	Q&A 集	137

1

Q&A 集を見る前に

1 トラブルを解消するまで

パソコンが動かなくなりました！ 今までとは違う動きをする！ なんだか変！ 不安だ！

そんなときには次の順番で解決へのアプローチをたどってください。

Step 1 本書をお読みください

パソコンについてよく問い合わせのあるトラブルの解消方法が、「本章2 Q&A 集」で説明されています。



Step 2 『オンラインマニュアル』やヘルプで調べてください

■ 『オンラインマニュアル』を見る

『オンラインマニュアル』にも、困ったときの解消方法が説明されています。

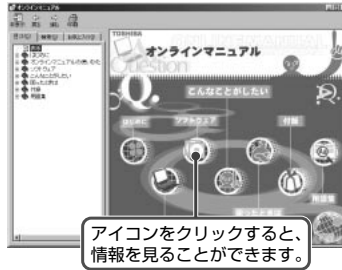
次のようなときは、パソコン上で『オンラインマニュアル』をご覧ください。

- プレインストールされているアプリケーションを知りたい
- 本製品をいろいろなことに活用する方法を知りたい
- パソコンの操作に困ったとき
- 用語を知りたい

1 パソコン本体の電源を入れる

- 2 [スタート] → [オンラインマニュアル] をクリックする
デスクトップ上の [オンラインマニュアル] アイコンをダブルクリックしても起動できます。

『オンラインマニュアル』が起動します。



3 見たい項目のアイコンをクリックする

■ Windows のヘルプを見る

Windows については、『クイックスタートガイド』や『Windows のヘルプ』をご覧ください。

1 パソコン本体の電源を入れる

2 [スタート] → [ヘルプ] をクリックする

■ アプリケーションのヘルプを見る

アプリケーションについては、『各アプリケーションに付属の説明書』や、ヘルプをご覧ください。



Step 3 「dynabook.com」で調べてください

「dynabook.com」では、Librettoの最新情報や技術情報などが掲載されています。

URL <http://dynabook.com/>

■ Librettoのサポート情報について

次のページをご覧ください。

URL http://dynabook.com/assistpc/index_j.htm
(サポート情報)

■ パソコンの操作に困ったら「FAQ」を使おう

次のページをご覧ください。

URL http://www5.toshiba.co.jp/pcss/member/techinfo/dial/index_j.htm

日頃、お客様から寄せていただいている質問について、サポートスタッフが、図や解説をまじえて解決方法を掲載しています。キーワードでも、普通の文章でも入力して、検索できます。

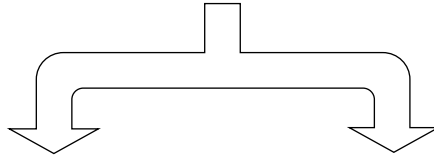
最新情報を掲載するため、内容を変更することがあります。ご了承ください。

この他、アプリケーションの取り扱い元では、ホームページに情報を掲載している場合があります。



参照 ホームページアドレスについて

➡ 「付録 6 アプリケーションのお問い合わせ先」



<パソコン本体のトラブル>

<インストールされている
アプリケーションのトラブル>

Step 4
**「東芝 PC ダイアル」に
問い合わせる**

「付録 7 トラブルチェックシート」で必要事項を確認し、お問い合わせください。

Step 4
**各アプリケーションのサ
ポート先に問い合わせる**

各ソフトウェアのお問い合わせ先については、「付録 6 アプリケーションのお問い合わせ先」をご覧ください。



- Libretto の故障や修理など、サポート情報については、同梱の『東芝 PC サポートのご案内』をご覧ください。

2 トラブル解消に役立つ操作

設定をするときによく使う操作を説明します。

コントロールパネルの開きかた

コントロールパネルは、パソコンの設定をするときによく開くフォルダです。

■ 方法1 - [スタート] メニューから開く

- 1 [スタート] → [設定] → [コントロールパネル] をクリックする

■ 方法2 - [マイコンピュータ] から開く

- 1 デスクトップの [マイコンピュータ] アイコンをダブルクリックする
- 2 [コントロールパネル] アイコンをダブルクリックする

2

Q&A 集

パソコン本体を使ってうまく操作できないとき、動作がおかしいと感じたときの解消法のヒントをご紹介します。

電源を入れるとき／切るとき	141
Q 電源スイッチを押しても反応しない	141
Q 1度電源が入りかけるがすぐに切れる 電源が入らない (Battery LEDがオレンジ色に点滅している場合) ...	141
Q 1度電源が入りかけるがすぐに切れる 電源が入らない (DC IN LEDがオレンジ色に点滅している場合)	141
Q 自動的に電源が入ってしまう	142
Q 使用中に突然電源が切れてしまった	143
Q しばらく操作しないとき、電源が切れる	143
Q Windowsの起動と同時にプログラムが実行される	144
Q パソコンが休止状態にならない	145
Q 休止状態を設定できない	145
画面／表示	146
Q 画面に何も表示されない (Power LEDが消灯、またはオレンジ色に点滅している場合) ...	146
Q 電源は入っているが、画面に何も表示されない (Power LEDが点灯している場合)	146
Q 画面が見にくい	147
Q 画面が暗い	147
Q 画面の外側に黒い枠が表示される	148
Q 画面の色がはっきりしない	148
Q [画面のプロパティ] で [画面の領域] や [画面の色] を変更できない	148
Q CRTディスプレイで画面の色がにじんだように表示される	149


Windows	150
Q 内蔵時計が合っていない	150
Q パソコンの処理速度が遅くなった	151
バッテリー駆動で使用する時	152
Q 警告音が鳴り、Battery LED が点滅した	152
Q 充電したはずのバッテリーパックを使用しても Battery LED がオレンジ色に点滅する	152
Q バッテリー駆動でしばらく操作しないとき、電源が切れる	153
キーボード	154
Q 「\」 (バックスラッシュ) が入力できない	154
Q キーボードで入力モードを切り替えたい	154
Q 記号や特殊文字が入力できない	154
Q キーに印刷された文字と違う文字が入力されてしまう	155
Q どのキーを押しても反応しない 設定は合っているが、希望の文字が入力できない	156
Q キーボードに飲み物をこぼしてしまった	156
サウンド機能	157
Q スピーカから音が聞こえない	157
Q 音楽 CD やゲームの BGM が パソコン本体のスピーカから聞こえない	158
Q サウンドレコーダーで録音したが音質がよくない	158
Q 別売りの外付け CD-ROM ドライブ (型番: PA2673UJ) または外付け CD-R/RW ドライブ (型番: PACDR002) を接続し、音楽 CD を Windows Media Player で 再生しながらサウンドレコーダで録音をすると、 音声に混じって雑音録音される	159
Q WAVE ファイルなどを再生したときに音が鳴らない、 もしくは音の最初の部分が聞こえない	159
Q XG フォーマットの MIDI ファイルを Windows Media Player で再生できない、または Windows Media Player が応答なしになる	159
Q サウンド再生時に音飛びが発生する	159

LAN 機能	160
Q ネットワークに接続できない	160
PC カード	161
Q PC カードが認識されない	161
Q PC カードの挿入は認識されるが デバイスとして認識されない	161
Q PC カードは認識されるが使用できない	161
USB 対応機器	162
Q USB 対応機器が使えない	162
Q 休止状態から復帰後、USB 対応機器が正常に動作しない ...	162
メモリ	163
Q 「PC 診断ツール」や [システムのプロパティ]などで、 メモリ容量が実際とは異なって表示される	163
アプリケーション	164
Q アプリケーションが使えない	164
Q アプリケーションが操作できなくなった	165
Q 購入時に入っていたアプリケーションを 誤って削除してしまった	165
メッセージ	166
Q 「Password=」と表示された	166
Q 「入力されたパスワードが間違っています」と表示された ...	166
Q 「Previous resume from hibernate failed. Would you like to try again [Enter=Y,Esc=N]?」 と表示された	166
Q 使用中突然「このプログラムは不正な処理を行ったので…」 と表示された	167
Q 次のようなメッセージが表示された	167
Q C:¥>_ と表示された	167
Q その他のメッセージが表示された	167

その他	168
Q パソコン本体からカリカリと変な音がする	168
Q 甲高い音がする	168
Q テレビやラジオの音が聞こえてくる	168
Q パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい	169
Q パソコンが応答しない	169
Q コンピュータウイルスに感染した可能性がある	170
Q 異常な臭いや過熱に気づいた！	170
Q 操作できない原因がどうしてもわからない	170

電源を入れるとき / 切るとき


Q 電源スイッチを押しても反応しない

- A 電源スイッチを押す時間が短いと電源が入らないことがあります。
Power  LEDが緑色に点灯するまで、電源スイッチを押し続けてください。


Q 1度電源が入りかけるがすぐに切れる 電源が入らない

(Battery  LEDがオレンジ色に点滅している場合)


- A バッテリーの充電量が少ない可能性があります。
次のいずれかの対処を行なってください。
- 本製品用のACアダプタを接続し、電源を供給する
他製品用のACアダプタは使用できません。
 - 充電済みのバッテリーパックを取り付ける


 バッテリーについて ⇨ 「4章 2 バッテリーを充電する」

Q 1度電源が入りかけるがすぐに切れる 電源が入らない

(DC IN  LEDがオレンジ色に点滅している場合)

- A 電源の接続の接触が悪い可能性があります。
バッテリーパックやACアダプタを接続し直してください。

 バッテリーパックの取り付け／取りはずし
⇨ 「4章 2-3 バッテリーパックを交換する」

 ACアダプタの接続 ⇨ 「1章 1-2 電源コードとACアダプタを接続する」

A 危険防止機能が働いた可能性があります。

次の対処を行なってください。

- パソコンを涼しい場所に移動するなどして、パソコンの内部温度が下がるのを待つ
パソコン内部温度の上昇が一定以上に達すると、危険防止機能が働き、システムが自動停止します。
- 通風孔のまわりには物を置かない
通風孔をふさぐと、パソコンの温度は非常に上昇しやすくなります。

以上の手順でも解決できない場合は、お近くの保守サービスにご連絡ください。

Q 自動的に電源が入ってしまう

A Windows のタスクスケジューラで設定されている可能性があります。タスクスケジューラで [タスクの実行時にスリープを解除する] に設定されていると、スタンバイ中や休止状態のときは自動的に電源が入り、設定したタスクを実行します。

アプリケーションをインストールすると、自動的にタスクに登録される場合があります。

次の手順で設定を変更できます。

- ① [スタート] → [プログラム] → [アクセサリ] → [システムツール] → [タスク] をクリックする
- ② 設定されているタスクをダブルクリックする
電源が入った時間などを参考に選択してください。
- ③ [設定] タブの [電源の管理] で [タスクの実行時にスリープを解除する] のチェックをはずす
- ④ [OK] ボタンをクリックする

A パネルスイッチ機能が設定されている可能性があります。

パネルスイッチ機能とは、ディスプレイを閉じると電源を切り、開けると電源スイッチを押さなくても自動的に電源を入れる機能です。


次の手順で、パネルスイッチ機能の設定を解除できます。

- ① [コントロールパネル] を開き、[東芝省電力] をダブルクリックする
- ② [電源設定] タブで利用する省電力モードを選択して、[詳細] ボタンをクリックする
- ③ [動作] タブの [コンピュータを閉じたとき] で [何もしない] を選択する
- ④ [OK] ボタンをクリックする
- ⑤ [東芝省電力のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする


Q 使用中に突然電源が切れてしまった

- A パソコン内部の温度が一定以上に達すると危険防止機能が働き、システムが自動的に停止します。
パソコン本体が熱くなっている場合は、涼しい場所に移動するなどして、パソコンの内部温度が下がるのを待ってください。
また、通風孔をふさぐと、パソコンの温度は非常に上昇しやすくなります。通風孔のまわりには物を置かないでください。
それでも電源が切れる場合は、お近くの保守サービスにご連絡ください。

Q しばらく操作しないとき、電源が切れる


- A Power  LED が点灯している場合、表示自動停止機能が働いた可能性があります。画面には何も表示されませんが実際には電源が入っていますので、電源スイッチを押さないでください。
次の操作を行なってください。

- (Shift) キーや (Ctrl) キーを押す
- アクュポイント II を操作する

- A Power  LED がオレンジ色に点滅しているか、消灯の場合、自動的にスタンバイまたは休止状態になった可能性があります。
一定時間パソコンを使用しないときに、自動的にスタンバイまたは休止状態にするように設定されています。
電源スイッチを押してください。

また、次の手順で設定を解除できます。

- ① [コントロールパネル] を開き、[東芝省電力] をダブルクリックする
- ② [電源設定] タブで利用する省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする
- ③ [省電力] タブで [システムスタンバイ] および [システム休止状態] の設定を [なし] にする
- ④ [OK] ボタンをクリックする
- ⑤ [東芝省電力のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

 [参照](#) スタンバイ、休止状態について

➔ 「4章 5 パソコンの使用を中断する／簡単に電源を切る」

🔍 Windows の起動と同時にプログラムが実行される

A [スタートアップ] にプログラムが設定されている可能性があります。
[スタートアップ] は、設定されているプログラムを Windows 起動時に自動的に実行します。

アプリケーションをインストールすると、自動的に [スタートアップ] に登録される場合があります。

次の手順でプログラムを削除できます。

- ① [スタート] → [設定] → [タスクバーと [スタート] メニュー] をクリックする
- ② [詳細] タブで [削除] ボタンをクリックする
[ショートカットやフォルダの削除] 画面が表示されます。
- ③ [スタートアップ] をダブルクリックする
- ④ 削除したいプログラムのアイコンをクリックし、[削除] ボタンをクリックする
確認メッセージが表示されます。
- ⑤ [はい] ボタンをクリックする
- ⑥ [ショートカットやフォルダの削除] 画面で [閉じる] ボタンをクリックする
- ⑦ [タスクバーとスタートメニューのプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

A Windows のタスクスケジューラで設定されている可能性があります。
タスクスケジューラで [実行する] に設定されていると、設定したスケジュールに従ってタスクを実行します。

アプリケーションをインストールすると、自動的にタスクが登録される場合があります。

次の手順で設定を変更できます。

- ① [スタート] → [プログラム] → [アクセサリ] → [システムツール] → [タスク] をクリックする
- ② 設定されているタスクをダブルクリックする
プログラムが実行された時間などを参考に選択してください。
- ③ [タスク] タブで [実行する] のチェックをはずす
- ④ [OK] ボタンをクリックする

Q パソコンが休止状態にならない

- A 休止状態に対応していない周辺機器（PC カードなど）を取り付けていると休止状態になりません。
休止状態に対応していない周辺機器を取りはずしてから、休止状態を実行してください。
- A [スタートアップ] に休止状態の妨げになるアプリケーションが設定されている可能性があります。
[スタートアップ] からそのアプリケーションを削除し、Windows を再起動してください。



スタートアップに登録されているアプリケーションの削除方法

➔ 「Q&A 集 本節 - Q.Windows の起動と同時にプログラムが実行される」

Q 休止状態を設定できない

- A 休止状態の設定になっていない可能性があります。
次の手順で設定を変更してください。
- ① [コントロールパネル] を開き、[東芝省電力] をダブルクリックする
 - ② [休止状態] タブで [休止状態をサポートする] をチェックする ()
 - ③ [OK] ボタンをクリックする



休止状態について

➔ 「4章 5 パソコンの使用を中断する／簡単に電源を切る」

画面 / 表示

Q 画面に何も表示されない

(Power LED が消灯、またはオレンジ色に点滅している場合)

- A 電源が入っていない、またはスタンバイ状態になっています。
電源スイッチを押してください。

Q 電源は入っているが、画面に何も表示されない

(Power LED が点灯している場合)

- A 表示自動停止機能が働いた可能性があります。
次の操作を行なってください。

- (Shift)キーや(Ctrl)キーを押す
- アクュポイントⅡを操作する



- CRT ディスプレイを接続している場合、表示が復帰するまでに 10 秒前後かかることがありますが、故障ではありません。

- A インスタントセキュリティ機能が働いた可能性があります。
次の操作を行なってください。

[画面のプロパティ] の [スクリーンセーバー] タブで、[パスワードによる保護] をチェックしていない場合：

(Shift)キーや(Ctrl)キーを押す、またはアクュポイントⅡを操作する

[画面のプロパティ] の [スクリーンセーバー] タブで、[パスワードによる保護] をチェックしている場合：

[パスワードによる保護] は、スクリーンセーバを選択すると有効になります。

- ① (Shift)キーや(Ctrl)キーを押す、またはアクュポイントⅡを操作する
- ② パスワード入力画面に Windows のログオンパスワードを入力し、(Enter)キーを押す



詳細について ⇨ 「3章 8-1- (Fn)キーを使った特殊機能」

- A** 表示装置が適切に設定されていない可能性があります。
次の操作を行なってください。

- **(Fn) + (F5)** キーを押して表示装置を切り替える

 詳細について  「5章 6 CRT ディスプレイを接続する」

Q 画面が見にくい

- A** ディスプレイを見やすい角度に調整してください。

Q 画面が暗い

- A** 画面の輝度が低く設定されている可能性があります。
次の手順で設定を変更してください。

- **(Fn) + (F7)** キーを押して画面の輝度を上げる（明るくする）
(Fn) + (F6) キーを押すと画面の輝度は下がります。

- A** 省電力ユーティリティでモニタの輝度が低く設定されている可能性があります。

次の手順で設定を変更してください。

- ① [コントロールパネル] を開き、[東芝省電力] をダブルクリックする
- ② [電源設定] タブで利用する省電力モードを選択して、[詳細] ボタンをクリックする
- ③ [省電力] タブで [モニタの輝度] を設定する
- ④ [OK] ボタンをクリックする
- ⑤ [東芝省電力のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

設定を変更しても明るくならない場合は、ディスプレイに取り付けられているサイドライト用のFL管（冷陰極管）が消耗している可能性があります。サイドライト用のFL管（冷陰極管）は、ご使用になるにつれて発光量が徐々に減少し、表示画面が暗くなります。その場合は、お使いの機種をご確認後、お近くの保守サービスにご連絡ください。有償にて交換いたします。

Q 画面の外側に黒い枠が表示される

A 低い解像度に設定されています。
次の手順で設定を変更してください。

- ① [コントロールパネル] を開き、[画面] をダブルクリックする
- ② [設定] タブの [画面の領域] で領域サイズを変更する
- ③ [OK] ボタンをクリックする

Q 画面の色がはっきりしない

A 色数が少ない場合に起こります。
色数の種類は「256色」「High Color (16ビット)」「True Color (32ビット)」から選択します。
次の手順で設定を変更してください。

- ① [コントロールパネル] を開き、[画面] をダブルクリックする
- ② [設定] タブで [画面の色] を「High Color (16ビット)」や「True Color (32ビット)」に設定する
- ③ [OK] ボタンをクリックする

Q [画面のプロパティ] で [画面の領域] や [画面の色] を変更できない

A [ディスプレイ] の設定があっていない可能性があります。
次の手順で確認してください。

- ① [コントロールパネル] を開き、[システム] をダブルクリックする
- ② [ハードウェア] タブの [デバイスマネージャ] で [デバイスマネージャ] ボタンをクリックする
- ③ [ディスプレイアダプタ] の [S3 Graphics Inc. Savage/IX Display Driver] が正しく設定されているか確認する
- ④ [OK] または [閉じる] ボタンをクリックする


Q CRTディスプレイで画面の色がにじんだように表示される

A テレビ、オーディオ機器のスピーカなど強力な磁気を発生する電気製品の近くに設置している場合は、遠ざけてください。



- 高圧電線の近くの建物の場合は、パソコン本体を置く位置を変えることによって、画像の乱れが直る場合もあります。

🔍 内蔵時計が合っていない


- A** 次の手順で [日付と時刻] を修正してください。
- ① [コントロールパネル] を開き、[日付と時刻] をダブルクリックする
[日付と時刻のプロパティ] 画面が表示されます。
 - ② [時刻] に表示されている、デジタル時計の数字の部分をクリックする
「時：分：秒」で項目が分かれているので、変更したい部分をクリックしてください。
 - ③ デジタル時計の右端にある上下のボタン () で、時刻の修正を行う
 - ④ [OK] ボタンをクリックする
- A** 長い間パソコンを使用しないと時計用バッテリーの充電が不十分になります。
パソコン本体の電源を入れて、時計用バッテリーを充電してください。
- A** 充電してもしばらくすると内蔵時計が合わなくなる場合は、時計用バッテリーの充電機能が低下している可能性があります。
お近くの保守サービスにご連絡ください。

Q パソコンの処理速度が遅くなった

- A 「東芝省電力ユーティリティ」の設定で、CPUの処理速度が切り替わった可能性があります。また、ご購入時の状態の省電力モードは、ACアダプタを接続しているときは[フルパワー]、バッテリー駆動で使用するときは[ノーマル]に設定されていますので、ACアダプタ接続時に比べてバッテリー駆動時のパソコンの処理速度は遅くなります。

CPUの処理速度は次の手順で変更できます。

- ① [コントロールパネル] を開き、[東芝省電力] をダブルクリックする
[東芝省電力のプロパティ] 画面が表示されます。
- ② 利用したい省電力モードを選択し、[詳細] ボタンをクリックする
- ③ [省電力] タブで次の項目を設定する
 - [Transmeta Crusoe(TM) Processor] に表示されたメニューから処理速度を設定する
- ④ [OK] ボタンをクリックする
- ⑤ [東芝省電力のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

 省電力モードについて ⇨ [4章 3 省電力ユーティリティを使う]

- A パソコンのCPUが高温になり、自動的に処理速度が遅くなった可能性があります。
しばらく作業を中止すると、CPUの温度が下がり処理速度が元に戻ります。
- A ハードディスクの空き容量が少なくなり、処理速度が遅くなった可能性があります。
不要なファイルなどを削除して、ハードディスクの空き容量を増やしてください。

バッテリー駆動で使用するとき

Q 警告音が鳴り、Battery LED が点滅した

A バッテリーの充電量が残り少ない状態です。
ただちに次のいずれかの対処を行なってください。

- パソコン本体に AC アダプタを接続し、電源を供給する
- 電源を切ってから、フル充電のバッテリーパックと取り換える

対処しないと、休止状態が有効に設定されている場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切ります。


休止状態が無効の場合、パソコン本体は何もしないで電源が切れますので、作業中のデータが消失するおそれがあります。休止状態を有効にしておくことをおすすめします。ご購入時は有効に設定されています。また、データはこまめに保存してください。

 [バッテリーの充電方法](#) ⇨ 「4 章 2-2 バッテリーを充電する」

Q 充電したはずのバッテリーパックを使用しても Battery LED がオレンジ色に点滅する

A バッテリーパックは使わずにいても充電量が少しずつ減っていきます。
もう 1 度充電してください。

充電しても状態が変わらない場合は、バッテリーパックの充電機能が低下している可能性があります。別売りのバッテリーパックと交換してください。それでも状態が変わらない場合は、パソコン本体が故障していると考えられます。お近くの保守サービスにご連絡ください。

 [バッテリーの充電量について](#) ⇨ 「4 章 2-1 バッテリー充電量を確認する」


Q バッテリ駆動でしばらく操作しないとき、電源が切れる

A 一定時間パソコンを使用しないときに、自動的にスタンバイまたは休止状態にし、システムの動作をオフにするように設定されています。設定を解除してください。










- ① [コントロールパネル] を開き、[東芝省電力] をダブルクリックする
- ② [電源設定] タブで利用する省電力モードをクリックし、[詳細] ボタンをクリックする
- ③ [省電力] タブで [システムスタンバイ] および [システム休止状態] の設定を [なし] にする
- ④ [OK] ボタンをクリックする
- ⑤ [東芝省電力のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする


キーボード

Q 「\」(バックslash)が入力できない

- A 日本語フォントでは「\」は入力できません。
を押すと¥が表示されますが、同じ機能を持ちます。

Q キーボードで入力モードを切り替えたい

- A ショートカットキーを利用して入力モード(ひらがな入力、ローマ字入力、半角英数入力、大文字ロック状態など)を変更できます。
+英数キーや、+キー、+キー、++キーを使って、文字入力の状態を合わせてから入力してください。

 詳細について [▶](#) 「3章 8 キーボード」

Q 記号や特殊文字が入力できない

- A 次の手順で文字コード表から希望の文字を探してください。
- ① [スタート] → [プログラム] → [アクセサリ] → [システムツール] → [文字コード表] をクリックする
[文字コード表] が表示されます。
 - ② [フォント] を選択し、[文字コード表] の使用したい文字をダブルクリックする
 - ③ [コピー] ボタンをクリックする
 - ④ 文書を開いているアプリケーションのメニューから [編集] → [貼り付け] をクリックする
文書に手順②で指定した文字が挿入されます。挿入された文字には、手順②で選択したフォントを指定してください。

- A MS-IME には [IME パッド] という機能があります。
この一覧から希望の文字を捜すことができます。

 詳細について [▶](#) 『MS-IME のオンラインヘルプ』

Q キーに印刷された文字と違う文字が入力されてしまう

A キーボードドライバの設定が正しくない可能性があります。
次の手順でドライバを再設定してください。

- ① [コントロールパネル] を開き、[システム] をダブルクリックする
[システムのプロパティ] 画面が表示されます。
- ② [ハードウェア] タブで [デバイスマネージャ] ボタンをクリックする
- ③ [キーボード] にある [XXXXX キーボード] をダブルクリックする
- ④ [ドライバ] タブで [ドライバの更新] ボタンをクリックする
[デバイスドライバのアップグレードウィザード] 画面が表示されます。
- ⑤ [次へ] ボタンをクリックする
- ⑥ [このデバイスの既知のドライバを表示して、その一覧から選択する] を選択し、[次へ] ボタンをクリックする
- ⑦ [このデバイスクラスのハードウェアをすべて表示] をクリックする
[製造元] と [モデル] の一覧が表示されます。
- ⑧ [製造元] から [(標準キーボード)]、[モデル] から [日本語 PS/2 キーボード (106/109 キー)] を選択して、[次へ] ボタンをクリックする
[ドライバの更新警告] 画面が表示されます。
- ⑨ [はい] ボタンをクリックする
[デバイスドライバのインストールの開始] 画面が表示されます。
- ⑩ [次へ] ボタンをクリックする
[デバイスのインストールの確認] 画面が表示されます。
- ⑪ [はい] ボタンをクリックする
ドライバがインストールされ、[デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了] 画面が表示されます。
- ⑫ [完了] ボタンをクリックする
- ⑬ [閉じる] ボタンをクリックする
「今コンピュータを再起動しますか？」というメッセージが表示されます。
- ⑭ [はい] ボタンをクリックする
パソコンが再起動します。

Q どのキーを押しても反応しない 設定は合っているが、希望の文字が入力できない

A 次の手順で [Windows のシャットダウン] から再起動してください。

- ① [スタート] → [シャットダウン] をクリックする
- ② [再起動] を選択する
- ③ [OK] ボタンをクリックする

A [Windows のシャットダウン] から再起動できない場合は、(Ctrl)+(Alt)+(Del)キーを押して、再起動してください。この場合、保存していない作成中のデータは消去されます。



(Ctrl)+(Alt)+(Del)キーでの再起動について

▷ 「Q&A 集 その他-Q. パソコンが応答しない」

A (Ctrl)+(Alt)+(Del)キーを押して再起動できない場合は、電源スイッチを5秒以上押してください。電源が切れます。この場合、保存していない作成中のデータは消去されます。
しばらくしてから電源を入れ直してください。

Q キーボードに飲み物をこぼしてしまった

A 飲み物など液体がこぼれて内部に入ると、感電、本体の故障、作成データの消失などのおそれがあります。もし、液体がパソコン内部に入ったときは、電源を切り、ACアダプタとバッテリーパックを取りはずして、ただちにお買い求めの販売店、または保守サービスに点検を依頼してください。

サウンド機能

Q スピーカから音が聞こえない

A ヘッドホン出力端子にヘッドホンを接続したままになっていませんか？
ヘッドホン出力端子からヘッドホンを取りはずしてください。

A パソコン本体のボリュームダイヤルで音量を調節してください。

A システムスピーカが無効になっている可能性があります。
次の手順で設定を変更してください。

- ① [コントロールパネル] を開き、[東芝 HW セットアップ] をダブルクリックする
- ② [アラーム] タブで [システムビープ音を鳴らす] をチェックする ()
- ③ [OK] ボタンをクリックする

A 音量の設定で [ミュート] にチェックが入っていませんか？
次の手順で変更してください。

- ① タスクバーの [音量] アイコンをクリックする
- ② [ミュート] にチェック () がついている場合は、チェックをはずす
- ③ つまみをドラッグして調整する
つまみを上にするとスピーカの音量が上がります。


A 標準の [優先するデバイス] が変更されている可能性があります。
次の手順で設定を変更してください。

- ① [コントロールパネル] を開き、[サウンドとマルチメディア] をダブルクリックする
- ② [オーディオ] タブで [音の再生] の [優先するデバイス] を正しく設定する
- ③ [OK] ボタンをクリックする

A 上記の操作を行っても音量が変わらなければ、標準のサウンド用デバイスドライバが壊れているか、誤って消去された可能性があります。
付属の「アプリケーションCD」からサウンド用デバイスドライバ「ALi サウンドドライバ」を再インストールしてください。

Q 音楽 CD やゲームの BGM がパソコン本体のスピーカから聞こえない

A 次の手順で、CD 再生機器でデジタル音楽 CD を使用する設定をしてください。

- ① パソコン本体に CD-ROM ドライブを接続する
- ② [コントロールパネル] を開き、[システム] をダブルクリックする
- ③ [ハードウェア] タブで [デバイスマネージャ] ボタンをクリックする
- ④ [DVD/CD-ROM ドライブ] の左側の  をクリックする
- ⑤ CD-ROM ドライブを選択してダブルクリックする
- ⑥ [プロパティ] タブで [この CD-ROM デバイスでデジタル音楽 CD を使用可能にする] をチェックし、[OK] ボタンをクリックする

Q サウンドレコーダーで録音したが音質がよくない

A 次の手順で録音時のサンプリング周波数を変更してください。

- ① [スタート] → [プログラム] → [アクセサリ] → [エンターテインメント] → [サウンドレコーダー] をクリックする
- ② [ファイル] → [プロパティ] をクリックする
- ③ [詳細] タブで [形式の変換] の [変換] ボタンをクリックする
[サウンドの選択] 画面が表示されます。
- ④ [属性] 欄で属性を選択する
CD の音質の場合、属性は [44.100kHz、16 ビット、ステレオ] です。これを目安に属性を選択してください。ただし高音質にすると、データ量が増大し、録音できる時間は短くなります。例えば外部マイクを使用して録音するときは属性をモノラルに設定するなど、なるべくデータ容量を少なくしてください。
- ⑤ [名前を付けて保存] ボタンをクリックする
- ⑥ [新しいファイル名] に名前を入力し、[OK] ボタンをクリックする
- ⑦ [サウンドの選択]、[Sound のプロパティ] 画面をそれぞれ [OK] ボタンをクリックして閉じる
[サウンドレコーダー] の画面に戻ったら、実際に録音して再生音を確認してください。



● サウンドレコーダーで新しい録音を開始すると、[サウンド名] は以前の設定に戻ります。もう 1 度設定し直してください。

Q 別売りの外付け CD-ROM ドライブ（型番：PA267 3UJ）または外付け CD-R/RW ドライブ（型番：PACDR002）を接続し、音楽 CD を Windows Media Player で再生しながらサウンドレコーダで録音をすると、音声に混じって雑音録音される

A CD-ROM ドライブまたは CD-R/RW ドライブの PC カードのモードスイッチを「16bit」に設定してお使いの場合は、録音時に雑音が録音されます。モードスイッチを「Cardbus」に設定してお使いください。

Q WAVE ファイルなどを再生したときに音が鳴らない、もしくは音の最初の部分が聞こえない

A [ALi サウンドセットアップ] の設定で、[同時にアンプの電源も切る] にチェックがついていると、アンプの電源を切るので、バッテリー駆動時間が少し延びますが、WAVE ファイルなどを再生したときに、0.5 秒ほど音が鳴らないことがあります。

次の手順で設定を変更してください。

- ① [コントロールパネル] を開き、[ALi サウンドセットアップ] をダブルクリックする
- ② [同時にアンプの電源も切る] のチェックがついている場合は、チェックをはずす

通常は、[同時にアンプの電源を切る] のチェックをはずした状態（ご購入時の状態）でお使いください。

Q XG フォーマットの MIDI ファイルを Windows Media Player で再生できない、または Windows Media Player が応答なしになる

A 本製品は XG フォーマットの MIDI ファイルをサポートしておりません。XG フォーマットの MIDI ファイルを再生する場合は、YAMAHA のソフトシンセサイザアプリケーションをご購入ください。

Q サウンド再生時に音飛びが発生する

A PC カード接続のハードディスクドライブや CD-ROM ドライブなどの動作中にサウンドの再生を行うと、音飛びが発生する場合があります。



LAN 機能

Q ネットワークに接続できない


A ネットワークの設定が正しく無い可能性があります。
次の点を確認してください。

- Windows のネットワーク設定を確認する
- 相手先のネットワーク機器（HUB）などの設定を確認する
- ケーブルの状態を確認する

PC カード

Q PC カードが認識されない

A PC カードが奥までしっかり差し込んであるか確認してください。

 PC カードの接続について ⇨ 「5 章 2 PC カードを接続する」

Q PC カードの挿入は認識されるがデバイスとして認識されない

A PC カードによっては、使用できるシステム（OS）が限られているものがあります。


詳しくは、『PC カードに付属の説明書』をご覧ください。

A 本製品は Windows 専用モデルです。MS-DOS プロンプト上での PC カードの使用はサポートしておりません。

Q PC カードは認識されるが使用できない

A IRQ が不足している可能性があります。

次の手順で使用しないデバイスを [デバイスマネージャ] で使用不可にしてください。

- ① [コントロールパネル] を開き、[システム] をダブルクリックする
- ② [ハードウェア] タブで [デバイスマネージャ] ボタンをクリックする
- ③ [デバイスマネージャ] で使用しないデバイスの左の  をクリックする
- ④ 表示される項目から使用しないデバイスを右クリックし、[無効] をクリックする
確認のメッセージが表示されます。
- ⑤ [はい] ボタンをクリックする
- ⑥ [デバイスマネージャ] 画面を閉じる
- ⑦ [システムのプロパティ] 画面で [OK]、または [閉じる] ボタンをクリックする



USB 対応機器

Q USB 対応機器が使えない

- A 何らかの原因で、システム（OS）が正しく USB 対応機器を認識していない可能性があります。Windows を再起動してください。
- A ドライバが正しくインストールされていない可能性があります。次の手順で「ハードウェアの追加と削除ウィザード」を実行してください。
 - ① [コントロールパネル] を開き、[ハードウェアの追加と削除] をダブルクリックする
 - ② [次へ] ボタンをクリックする
画面の指示に従って操作してください。

Q 休止状態から復帰後、USB 対応機器が正常に動作しない

- A 休止状態に対応していない USB 対応機器を接続している可能性があります。USB 対応機器を USB コネクタから取りはずし、もう 1 度接続してください。



メモリ


Q 「PC 診断ツール」や「システムのプロパティ」などで、メモリ容量が実際とは異なって表示される

A システムがメインメモリ領域の約 16MB 分を使用するため、「PC 診断ツール」や「システムのプロパティ」などで表示されるメモリ容量は、実際の容量より少なく表示されます。

アプリケーション

Q アプリケーションが使えない

- A 正しくインストールされていない可能性があります。
『アプリケーションに付属の説明書』を読んで、正しくインストールしてください。
- A システム（OS）に対応していない可能性があります。
アプリケーションによっては使用できるシステム（OS）が限られているものがあります。
詳しくは、『アプリケーションに付属の説明書』をご覧ください。
- A メモリが足りない可能性があります。
アプリケーションを起動するために必要なメモリ容量がない場合は、そのアプリケーションを使用することはできません。必要なメモリ容量は、『アプリケーションに付属の説明書』をご覧ください。

 メモリの増設について ⇨ 「5章 8 メモリを増設する」

- A アプリケーションによっては、システム構成の変更が必要です。
『アプリケーションに付属の説明書』を読んで、システム構成を変更してください。

Q アプリケーションが操作できなくなった

A アプリケーション使用中に操作できなくなった場合は、次の手順でアプリケーションを強制終了してください。終了後、もう1度アプリケーションを起動してください。この場合、アプリケーションで編集していたデータは保存できません。

- ① (Ctrl)+(Alt)+(Del)キーを押す
[Windowsのセキュリティ] 画面が表示されます。
- ② [タスクマネージャ] ボタンをクリックする
[Windowsタスクマネージャ] 画面が表示される
- ③ [アプリケーション] タブで [応答なし] と表示されているアプリケーションのタスクをクリックする
- ④ [タスクの終了] ボタンをクリックする
アプリケーションが終了します。
- ⑤ [Windowsタスクマネージャ] 画面を閉じる


Q 購入時に入っていたアプリケーションを誤って削除してしまった

A 本製品にあらかじめインストールされている（プレインストールされている）アプリケーションやドライバは「アプリケーションCD」から再インストールできます。

メッセージ

Q 「[Password=] と表示された

- A パスワードが設定されています。
「東芝HWセットアップ」で設定したパスワードを入力し、(Enter)キーを押してください。
パスワードを忘れた場合は、キーフロッピーディスクを使用してください。
キーフロッピーディスクがない場合は、お使いの機種をご確認後、お近くの保守サービスにご連絡ください。有償にてパスワードを解除いたします。その際、身分証明書（お客様ご自身を確認できる物）の提示が必要となります。

 パスワードの入力について ⇨ 「4章 4 パスワードセキュリティ機能を使う」

Q 「入力されたパスワードが間違っています」と表示された

- A 大文字ロック状態でパスワードを入力した可能性があります。
(Shift)+(CapsLock 英数)キーを押して大文字ロック状態を解除し、もう1度入力してください。

Q 「Previous resume from hibernate failed. Would you like to try again [Enter=Y,Esc=N]？」 と表示された

- A 休止状態が無効になったというメッセージです。
電源を切る前の状態は再現できません。(Enter)キーを押してください。
もう1度同じメッセージが表示された場合は、(Esc)キーを押してください。

Q 使用中突然「このプログラムは不正な処理を行ったので…」と表示された

- A ソフトウェアの内部処理がうまくいきませんでした。
画面の指示に従い、[閉じる] ボタンをクリックし、パソコンを再起動してください。
このとき、作成中のデータは保存されない場合があります。

Q 次のようなメッセージが表示された

- [Insert system disk in drive.Press any key when ready]
 - [Non- System disk or disk error Replace and press any key when ready]
 - [Invalid system disk Replace the disk,and then press any key]
 - [Boot:Couldn't Find NTLDR Please Insert another disk]
 - [Disk I/O error Replace the disk,and then press any key]
 - [Cannot load DOS press key to retry]
- A 別売りのフロッピーディスクドライブを取り付けている場合は、フロッピーディスクドライブからフロッピーディスクを取り出し、何かキーを押してください。
- A 巻末の「トラブルチェックシート」で必要事項をご確認のうえ、東芝PCダイヤルにご連絡ください。

Q C:¥>_ と表示された

- A MS-DOS プロンプトが全画面表示されています。
次の操作を行なってください。
- 方法 1 - MS-DOS プロンプト画面をウィンドウ表示に切り替える
 - (Alt)+(Enter)キーを押す
 - 方法 2 - MS-DOS プロンプト画面を終了する
 - ① (E)(X)(I)(T)とキーを押す
 - ② (Enter)キーを押す

Q その他のメッセージが表示された

- A ご使用のシステムやアプリケーションの説明書をご覧ください。

その他


Q パソコン本体からカリカリと変な音がする

- A ハードディスクが自動保存を行なっています。パソコン操作中は、自動的にデータの保存などの内部作業が行われています。ハードディスクが動作する音が聞こえますが、問題はありません。極端に異常な音が聞こえるなど、おかしいと思われる状態が発生したときは、お買い求めの販売店またはお近くの保守サービスまでご連絡ください。

Q 甲高い音がする

- A ハウリングを起こしています。ハウリングとは、スピーカから出た音がマイクに入り再びスピーカに返されることで、音が増幅し発生する高く大きな音のことです。使用するアプリケーションによっては、外部マイクとスピーカとでハウリングを起こすことがあります。次の方法で調整してください。

- 外部マイクをパソコン本体から遠ざける
- パソコン本体のボリュームダイヤルで音量を調整する
- 使用しているソフトウェアの設定を変える
- Windows 上から音量の設定を調整する

 音量の調整について ⇨ 「3章 5 音量の調節」

Q テレビやラジオの音が聞こえてくる

- A モジュラーケーブルがテレビやラジオの音を拾っている可能性があります。モジュラーケーブルを延長して、パソコン本体と電話回線を接続している場合は、標準のモジュラーケーブルのみを使用して確認してください。また、モジュラーケーブルにノイズ除去用部品を取り付けてください。それでも解決できない場合は、電話回線自体がノイズを拾っている可能性があります。ご契約の電話会社に相談してください。


Q パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい

A 次の操作を行なってください。

- テレビ、ラジオの室内アンテナの方向を変える
- テレビ、ラジオに対するパソコン本体の方向を変える
- パソコン本体をテレビ、ラジオから離す
- テレビ、ラジオのコンセントとは別のコンセントを使う
- コンセントと機器の電源プラグとの間に市販のフィルタを入れる
- 受信機に屋外アンテナを使う
- 平衡フィーダを同軸ケーブルに替える

Q パソコンが応答しない

A 応答しないアプリケーションを強制終了してください。

 対処方法について

➔ 「Q&A集 アプリケーション-Q. アプリケーションが操作できなくなった」

アプリケーションを終了しても調子がおかしい場合は、以降の操作を行なってください。

A Windows を強制終了し、再起動してください。

強制終了の方法は、次のとおりです。

システムが操作不能になったとき以外に行わないでください。強制終了を行なうと、スタンバイ機能／休止状態は無効になります。また、保存していないデータは消去されます。

- ① **(Ctrl) + (Alt) + (Del)** キーを押す
[Windows のセキュリティ] 画面が表示されます。
- ② [シャットダウン] ボタンをクリックする
アキュポイントⅡやマウスで操作できない場合は、**(Alt) + (S)** キーを押してください。
- ③ [シャットダウン] を選択し、[OK] ボタンをクリックする
アキュポイントⅡやマウスで操作できない場合は、**(↑)** キーや **(↓)** キーで [シャットダウン] を選択し、**(Enter)** キーを押してください。
プログラムを強制終了し、電源が切れます。
- ④ パソコン本体の電源を入れる

Q コンピュータウイルスに感染した可能性がある

- A ウイルスチェックソフトでウイルスチェックを行い、ウイルスが発見された場合は駆除してください。

Q 異常な臭いや過熱に気づいた！

- A パソコン本体、周辺機器の電源を切り、電源コードのプラグをコンセントから抜いてください。
安全を確認してバッテリーパックをパソコン本体から取りはずしてから販売店または保守サービスにご連絡ください。
なお、ご連絡の際には次のことをお知らせください。
- 使用している機器の名称
 - ご購入年月日
 - 現在の状態（できるだけ詳しくご連絡ください）

Q 操作できない原因がどうしてもわからない

- A 「付録 7 トラブルチェックシート」で、必要事項をご確認のうえ、東芝 PC ダイヤルにご連絡ください。

7章 再セットアップ

- 1 再セットアップとは 172
- 2 リカバリ CD とは 173
- 3 標準システムを復元する 174
- 4 標準システムインストール起動ディスクを使う
..... 178

1

再セットアップとは

同梱されているリカバリ CD を使って、システムやアプリケーションをご購入時の状態にリカバリ（復元）することを再セットアップといいます。

1 再セットアップが必要なとき

次のようなときに、再セットアップしてください。

- C ドライブをフォーマットしてしまった
- ハードディスク内のシステムファイルを削除してしまった
- 電源を入れても、システム（Windows）が起動しない
- プレインストールされていたアプリケーションを削除したが、もう 1 度インストールしたい など

2 再セットアップする前に

「6章 困ったときは」に、いろいろなトラブル解決方法が書かれています。そちらをご覧くださいのうえ、解決できないときに再セットアップしてください。

再セットアップすると、ハードディスク内に保存されていたデータは、すべて消えてしまいます。ご購入後に作成したファイルなど、必要なデータは、あらかじめバックアップをとって保存してください。

また、インターネットやハードウェアなどの設定は、すべてご購入時の状態に戻ります。再セットアップ後も現在と同じ設定でパソコンを使いたい場合は、現在の設定を控えておいてください。




- Outlook Express のデータの保存は Outlook Express のエクスポート機能を使うと便利です。
詳しくは『Outlook Express のヘルプ』をご覧ください。

2

リカバリ CD とは


本製品にはリカバリ CD（「Product Recovery CD-ROM」）が同梱されています。

リカバリ CD は、再セットアップのときに使用します。

 詳細について ⇨ 「本章 3 標準システムを復元する」

本製品には、アプリケーション CD（「Application CD-ROM」）も同梱されています。アプリケーション CD は、本製品で用意されているアプリケーションが入っています。

用意されているアプリケーションなどの一覧および概要、注意事項とインストール方法については、アプリケーション CD をセットし、表示される画面をご覧ください。

-  ● リカバリ CD / アプリケーション CD は絶対になくさないようにしてください。紛失した場合、再発行することはできません。

3


標準システムを復元する

本製品にプレインストールされている Windows やアプリケーションをすべて復元し、ご購入時の状態に戻します。


1 はじめる前に

■ 必要なもの

- Product Recovery CD-ROM
- 取扱説明書（本書）
- 外付け CD-ROM ドライブ（別売り）
 - ・ CD-ROM ドライブ（型番：PA2671UJ、PA2673UJ）
 - ・ CD-R/RW ドライブ（型番：PACDR002）


-  ● 外付け CD-ROM ドライブ「PA2673UJ」または外付け CD-R/RW ドライブ「PACDR002」をお使いの場合は、PC カード側面のモード切替スイッチを [16bit] 側に設定してください。

「標準システムインストール起動ディスク」を使用すると、使用できる CD-ROM ドライブの種類が増えます。

 詳細について ⇨ 「本章 4 標準システムインストール起動ディスクを使う」

■ 準備

- 必要なデータを保存する
システムを復元すると、ハードディスクの内容はすべて削除されます。必要なデータは、あらかじめバックアップをとって保存してください。
- パソコンを購入時の状態に戻す
増設したハードディスクドライブやメモリなど、ご購入後に追加した周辺機器を取りはずしてください。

 周辺機器の取りはずし ⇨ 「5 章 Libretto を拡張する」

2 操作手順

- 1 パソコンの電源を切る
- 2 パソコンを購入時の状態に戻す
周辺機器は取りはずしてください。
- 3 ACアダプタと電源コードを接続する
- 4 パソコンにCD-ROMドライブを接続する
パソコンのPCカードスロットにCD-ROMドライブのPCカードを接続します。
「標準システムインストール起動ディスク」を使用すると、使用できるCD-ROMドライブの種類が増えます。



詳細について → 「本章 4 標準システムインストール起動ディスクを使う」

- 5 「Product Recovery CD-ROM Disk1」をセットする
- 6 キーボードの(C)キーを押しながら、パソコンの電源を入れる
「復元を開始します！よろしいですか？」というメッセージが表示されます。
- 7 復元を行う場合は(Y)キーを、行わない場合は(N)キーを押す
(Y)キーを押すと、「ハードディスクの内容は、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。
- 8 復元を続行する場合は(Y)キーを、復元を中止する場合は(N)キーを押す

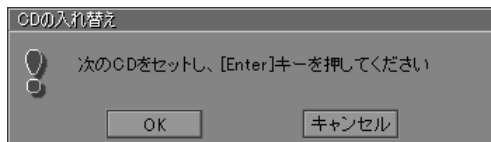
復元中は、次の画面が表示されます。
復元の進行状況を示すグラフ表示が、100%のところに達し、もう1度グラフ表示が100%に達すると完了です。



(表示例)

9 表示されるメッセージに従って復元を行う


復元中に次のメッセージが表示された場合、CDを入れ替え、**(Enter)**キーを押してください。処理が続きます。



復元が完了すると、終了画面が表示されます。


- 10 CDを取り出し、パソコンからCD-ROMドライブを取りはずしてから、何かキーを押す
システムが再起動します。

11 Windowsのセットアップを行う

 参照 Windowsのセットアップ ➡ 「1章 1 Windowsのセットアップ」

ご購入後に変更した設定がある場合は、Windowsのセットアップ後に、もう

1 度設定をやり直してください。また、周辺機器の接続、お客様ご自身で追加されたアプリケーションのインストールも、Windows のセットアップ後に行なってください。

 周辺機器の接続 ➔ 「5 章 Libretto を拡張する」

4

標準システムインストール起動ディスクを使う

標準システム（ご購入時のシステム）の復元を行うには、使用する CD-ROM ドライブによって方法が異なります。

■ 次の外付け CD-ROM ドライブ（別売り）を使用する場合

- CD-ROM ドライブ（型番：PA2671UJ、PA2673UJ）
- CD-R/RW ドライブ（型番：PACDR002）

CD-ROM から起動して標準システムの復元を行なうことができます。



標準システムの復元について ⇨ 「本章 3 標準システムを復元する」

■ 上記以外の PC カード接続 CD-ROM ドライブを使用する場合

次の手順に従って「標準システムインストール起動ディスク」を作成することで、標準システムの復元を行うことができます。

「標準システムインストール起動ディスク」を作成するには、USB 接続フロッピーディスクドライブ（別売り）が必要です。

なお、フロッピーディスクはあらかじめフォーマットして、ラベル（「標準システムインストール起動ディスク」）を付けておいてください。

作成方法

- 1 フォーマット済みのフロッピーディスクを 1 枚用意し、ラベル（「標準システムインストール起動ディスク」）を付ける
- 2 パソコンにフロッピーディスクドライブを接続し、フロッピーディスクを入れる
- 3 [スタート] → [プログラム] → [東芝ユーティリティ] → [標準システムインストール起動ディスクの作成] をクリックする

4 使用する CD-ROM ドライブのメーカー、および機種名を選択する

メニュー一覧にお持ちの CD-ROM ドライブが表示されていない場合は、[手動インストール] を選択して、手動で設定を行なってください。

使用方法

1 Windows を終了してパソコンの電源を切り、フロッピーディスクドライブを接続する

増設したハードディスクドライブや PC カードなどの周辺機器などは取りはずしてください。

2 AC アダプタと電源コードを接続する

3 「標準システムインストール起動ディスク」をセットする

4 パソコンに CD-ROM ドライブを接続し、「Product Recovery CD-ROM Disk1」をセットする

5 キーボードの(F)キーを押しながら、パソコンの電源を入れる

6 (Y)キーを押す

「ハードディスクの内容は、すべて削除されます！」のメッセージが表示されます。

7 (Y)キーを押す

処理を中止する場合は、(N)キーを押してください。

CD-ROM ドライブを自動認識し、システムのインストールが始まります。

8 表示されるメッセージに従って、システムのインストールを行う

付録

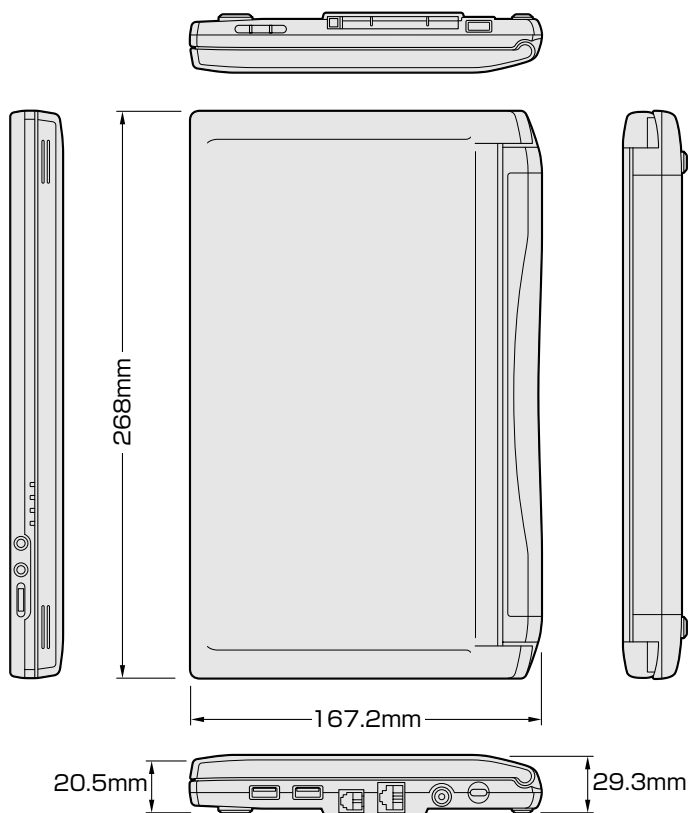
1	本製品の仕様	182
2	各インターフェースの仕様.....	189
3	技術基準適合について	192
4	アフターケアについて	205
5	廃棄について	206
6	アプリケーションのお問い合わせ先	207
7	トラブルチェックシート.....	209

1

本製品の仕様

1 外形寸法図

*数値は突起部を含みません。



2 サポートしているビデオモード

ディスプレイコントローラによって制御される画面の解像度と表示可能な最大色数を定めた規格をビデオモードと呼びます。

本製品でサポートしている英語モード時のすべてのビデオモードを次に示します。

モードナンバは一般に、プログラマがそれぞれのモードを識別するのに用いられます。アプリケーションソフトがモードナンバによってモードを指定してくる場合、そのナンバが図のナンバと一致していないことがあります。この場合は解像度とフォントサイズと色の数をもとに選択し直してください。

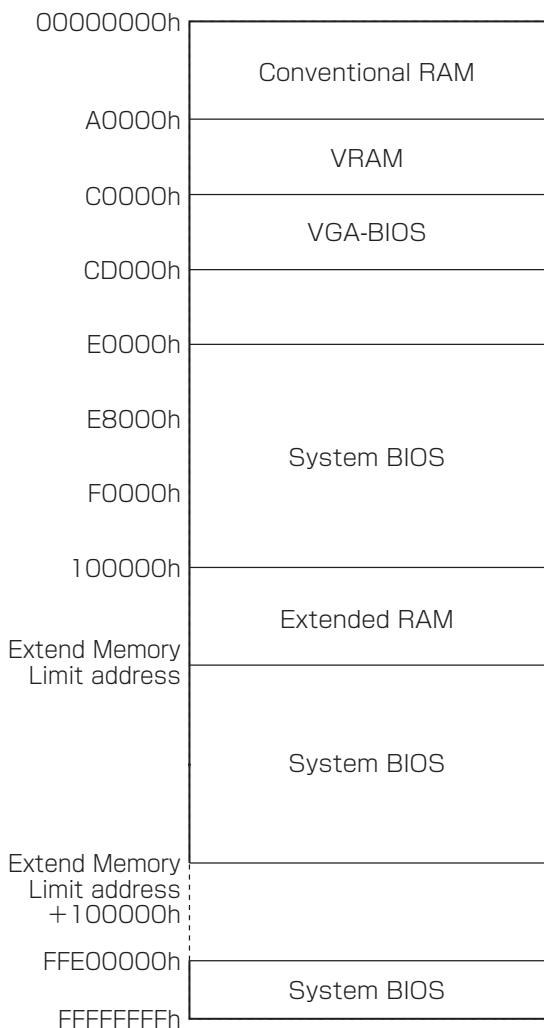
ビデオモード	形式	解像度	フォントサイズ	色数	CRTリフレッシュレート(Hz)
0.1	VGA テキスト	40×25字	8×8	16/256K	70
2,3		80×25字	8×8	16/256K	
0*,1*		40×25字	8×14	16/256K	
2*,3*		80×25字	8×14	16/256K	
0+,1+		40×25字	8(9)×16	16/256K	
2+,3+		80×25字	8(9)×16	16/256K	
4,5	VGA グラフィックス	320×200ドット	8×8	4/256K	70
6		640×200ドット	8×8	2/256K	
7	VGA テキスト	80×25字	8(9)×14	モノクロ	60
7+		80×25字	8(9)×16	モノクロ	
D	VGA グラフィックス	320×200ドット	8×8	16/256K	70
E		640×200ドット	8×8	16/256K	
F		640×350ドット	8×14	モノクロ	
10		640×350ドット	8×14	16/256K	
11		640×480ドット	8×16	2/256K	
12		640×480ドット	8×16	16/256K	
13		320×200ドット	8×8	256/256K	70

ビデオモード	形式	解像度	フォントサイズ	色数	CRTリフレッシュレート(Hz)
—	SVGA グラフィックス	640×480ドット	—	256/256K	60/75/85
—		800×600ドット	—	256/256K	
—		1024×768ドット*1	—	256/256K	
—		1280×600ドット	—	256/256K	
—		1280×1024ドット*1	—	256/256K	
—		1600×1200ドット*1	—	256/256K	60/75
—		640×480ドット	—	64K/64K	60/75/85
—		800×600ドット	—	64K/64K	
—		1024×768ドット*1	—	64K/64K	
—		1280×600ドット	—	64K/64K	
—		1280×1024ドット*1	—	64K/64K	
—		1600×1200ドット*1	—	64K/64K	60/75
—		640×480ドット	—	16M/16M	60/75/85
—		800×600ドット	—	16M/16M	
—		1024×768ドット*1	—	16M/16M	60/75
—		1280×600ドット	—	16M/16M	60
—		1280×1024ドット*1	—	16M/16M	

*1：LCDで表示する場合、実際の画面（1280×600）内に、仮想スクリーン表示します。

3 メモリマップ

本製品では、メモリを次のように使用しています。



4 I/Oポートマップ

本製品を、標準のハードウェア構成で使用した場合のマップです。

000h	DMAコントローラ #1
020h	IRQコントローラ #1
040h	タイマ
060h	KBC
070h	NMIマスキレジスタ

	RTC
080h	DMAページレジスタ
0A0h	IRQコントローラ #2
0C0h	DMAコントローラ #2
0F0h	NDP
100h	モデム
110h	なし
178h	
1F0h	
1F8h	HDC
200h	なし
220h	
240h	
260h	
278h	なし
280h	
2A0h	
2E8h	
2F0h	
2F8h	
300h	
376h	
378h	
380h	
3B0h	VGA
3BCh	
3C0h	VGA
3E0h	東芝PCカードインタフェースコントローラ
3E8h	
3F0h	
3F6h	HDC
400h	
480h	DMA Hiページレジスタ
4A0h	
530h	
538h	
604h	
60Ch	
E80h	
E88h	
F40h	
F48h	

5 DMA 使用リソース

DMA		DMAC
0	なし	1
1	なし	
2	なし	
3	なし	
4	Cascade for CTRL1	2
5	なし	
6	なし	
7	なし	

6 IRQ使用リソース

IRQ		PIC
0	タイマ (PIT)	#1
1	キーボード (KBC)	
2	IRQ8~15 PIC #2入力	
3	PCカード、USB、サウンド、モデム、LAN共用	
4	PCカード、USB、サウンド、モデム、LAN共用	
5	PCカード、USB、サウンド、モデム、LAN共用	
6	PCカード、USB、サウンド、モデム、LAN共用	
7	PCカード、USB、サウンド、モデム、LAN共用	
8	RTC	#2
9	ACPI	
10	PCカード、USB、サウンド、モデム、LAN共用	
11	VGAコントローラ	
12	マウス	
13	NDP	
14	HDC	
15	空き	

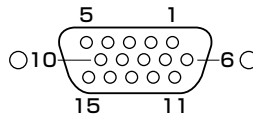
2

各インタフェースの仕様

1 RGB インタフェース (ミニ RGB ケーブル)

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	CRV	赤色ビデオ信号	0
2	CGV	緑色ビデオ信号	0
3	CBV	青色ビデオ信号	0
4	Reserved	予約	
5	GND	信号グランド	
6	GND	信号グランド	
7	GND	信号グランド	
8	GND	信号グランド	
9	Reserved	予約	
10	GND	信号グランド	
11	Reserved	予約	
12	SDA	SDA通信信号	I/O
13	-CHSYNC	水平同期信号	0
14	-CVSYNC	垂直同期信号	0
15	SCL	SCLデータクロック信号	I/O

コネクタ図



高密度D-SUB 3列15ピンメス

信号名：-がついているのは、負論理値の信号です

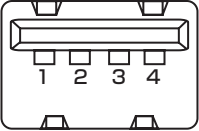
信号方向 (I)：パソコン本体への入力

信号方向 (O)：パソコン本体からの出力

2 USBインタフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	VCC	+5V	
2	-Data	マイナスデータ	I/O
3	+Data	プラスデータ	I/O
4	GND	信号グラウンド	

コネクタ図

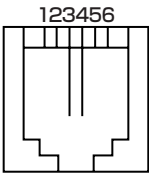


信号名：-がついているのは、負論理値の信号です
信号方向 (I)：パソコン本体への入力
信号方向 (O)：パソコン本体からの出力

3 モデムインタフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	-	ノーコンタクト	
2	-	ノーコンタクト	
3	TIP	電話回線	I/O
4	RING	電話回線	I/O
5	-	ノーコンタクト	
6	-	ノーコンタクト	

コネクタ図

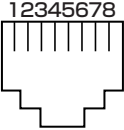


信号方向 (I)：パソコン本体への入力
信号方向 (O)：パソコン本体からの出力

4 LANインタフェース

ピン番号	信号名	意味	信号方向
1	TX	送信データ (+)	0
2	-TX	送信データ (-)	0
3	RX	受信データ (+)	1
4	Unused	未使用	
5	Unused	未使用	
6	-RX	受信データ (-)	1
7	Unused	未使用	
8	Unused	未使用	

コネクタ図



信号名：-がついているのは、負論理値の信号です
信号方向 (1)：パソコン本体への入力
信号方向 (0)：パソコン本体からの出力

3

技術基準適合について

漏洩電流自主規制について

この装置は、社団法人 電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータ業界基準（PC-11-1988）に適合しております。

瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人 電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

高調波対策について

本装置は、「高調波ガイドライン適合品」です。

国際エネルギースタープログラムについて

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。



参照 省電力設定について ⇨ 「4章 3 省電力ユーティリティを使う」

FCC information

Product name : Libretto L3/060TN

Model number : PAL3060TN

FCC notice "Declaration of Conformity Information"

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, it may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

WARNING: *Only peripherals complying with the FCC rules class B limits may be attached to this equipment. Operation with non-compliant peripherals or peripherals not recommended by TOSHIBA is likely to result in interference to radio and TV reception. Shielded cables must be used between the external devices and the computer's or external monitor port, USB port and microphone jack. Changes or modifications made to this equipment, not expressly approved by TOSHIBA or parties authorized by TOSHIBA could void the user's authority to operate the equipment.*

FCC conditions

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

1. This device may not cause harmful interference.
2. This device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

Contact

Address : TOSHIBA America Information Systems, Inc.
9740 Irvine Boulevard
Irvine, California 92618-1697

Telephone : (949) 583-3000

TOSHIBA

EU Declaration of Conformity



TOSHIBA declares, that the product:PAL3060TN** conforms to the following Standards:

Supplementary Information: “The product complies with the requirements of the Low Voltage Directive 73/23/EEC, the EMC Directive 89/336/EEC and /or the R & TTE Directive 1999/05/EEC.”

This product is carrying the CE-Mark in accordance with the related European Directives. Responsible for CE-Marking is TOSHIBA Europe, Hammfelddamm 8, 41460 Neuss, Germany.

モデム使用時の注意事項

本製品の内蔵モデムをご使用になる場合は、次の注意事項をお守りください。

内蔵モデムは、財団法人 電気通信端末機器審査協会により電気通信事業法第50条1項に基づき、技術基準適合認定を受けたものです。



●使用地域

内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

(2001年11月現在)

なお、その他の地域での許認可は受けていないため、その他の地域ではご使用になれません。ご注意ください。

内蔵モデムが使用できない地域では、その地域で許認可を受けているモデムをご購入ください。

内蔵モデムに接続する回線がPBX等を経由する場合は使用できない場合があります。

上記の注意事項を超えてのご使用における危害や損害などについては、当社では責任を負えませんのであらかじめご了承ください。

●自動再発信の制限

内蔵モデムは2回を超える再発信（リダイヤル）は、発信を行わず『BLACK LISTED』を返します（『BLACK LISTED』の応答コードが問題になる場合は、再発信を2回以下または再発信間隔を1分以上にしてください）。

* 内蔵モデムの自動再発信機能は、電気通信事業法の技術基準（アナログ電話端末）「自動再発信機能は2回以内（但し、最初の発信から3分以内）」に従っています。



- 雷雲が近づいてきたときは、モジュラープラグを電話回線用モジュラージャックから抜いてください。電話回線に落雷した場合、内蔵モデムやパソコン本体が破壊されるおそれがあります。
- 内蔵モデムを使用する場合は、ご使用になる地域にあわせて設定が必要です。



詳細について ⇨ 《オンラインマニュアル》

Conformity Statement

The equipment has been approved to [Commission Decision "CTR21"] for pan-European single terminal connection to the Public Switched Telephone Network (PSTN).

However, due to differences between the individual PSTNs provided in different countries/regions the approval does not, of itself, give an unconditional assurance of successful operation on every PSTN network termination point.

In the event of problems, you should contact your equipment supplier in the first instance.

Network Compatibility Statement

This product is designed to work with, and is compatible with the following networks. It has been tested to and found to conform with the additional requirements conditional in EG 201 121.

Germany	- ATAAB AN005,AN006,AN007,AN009,AN010 and DE03,04,05,08,09,12,14,17
Greece	- ATAAB AN005,AN006 and GR01,02,03,04
Portugal	- ATAAB AN001,005,006,007,011 and P03,04,08,10
Spain	- ATAAB AN005,007,012, and ES01
Switzerland	- ATAAB AN002
All other countries/regions	- ATAAB AN003,004

Specific switch settings or software setup are required for each network, please refer to the relevant sections of the user guide for more details.

The hookflash (timed break register recall) function is subject to separate national type approvals. If has not been tested for conformity to national type regulations, and no guarantee of successful operation of that specific function on specific national networks can be given.

Pursuant to FCC CFR 47, Part 68:

When you are ready to install or use the modem, call your local telephone company and give them the following information:

- The telephone number of the line to which you will connect the modem
- The registration number that is located on the device

The FCC registration number of the modem will be found on either the device which is to be installed, or, if already installed, on the bottom of the computer outside of the main system label.

- The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.
For the REN of your modem, refer to your modem's label.

The modem connects to the telephone line by means of a standard jack called the USOC RJ11C.

Type of service

Your modem is designed to be used on standard-device telephone lines.

Connection to telephone company-provided coin service (central office implemented systems) is prohibited. Connection to party lines service is subject to state tariffs. If you have any questions about your telephone line, such as how many pieces of equipment you can connect to it, the telephone company will provide this information upon request.

Telephone company procedures

The goal of the telephone company is to provide you with the best service it can. In order to do this, it may occasionally be necessary for them to make changes in their equipment, operations, or procedures. If these changes might affect your service or the operation of your equipment, the telephone company will give you notice in writing to allow you to make any changes necessary to maintain uninterrupted service.

If problems arise

If any of your telephone equipment is not operating properly, you should immediately remove it from your telephone line, as it may cause harm to the telephone network. If the telephone company notes a problem, they may temporarily discontinue service. When practical, they will notify you in advance of this disconnection. If advance notice is not feasible, you will be notified as soon as possible. When you are notified, you will be given the opportunity to correct the problem and informed of your right to file a complaint with the FCC.

In the event repairs are ever needed on your modem, they should be performed by TOSHIBA Corporation or an authorized representative of TOSHIBA Corporation.

Disconnection

If you should ever decide to permanently disconnect your modem from its present line, please call the telephone company and let them know of this change.

Fax branding

The Telephone Consumer Protection Act of 1991 makes it unlawful for any person to use a computer or other electronic device to send any message via a telephone fax machine unless such message clearly contains in a margin at the top or bottom of each transmitted page or on the first page of the transmission, the date and time it is sent and an identification of the business, other entity or individual sending the message and the telephone number of the sending machine or such business, other entity or individual.

In order to program this information into your fax modem, you should complete the setup of your fax software before sending messages.

Instructions for IC CS-03 certified equipment

- 1** NOTICE: The Industry Canada label identifies certified equipment. This certification means that the equipment meets certain telecommunications network protective, operational and safety requirements as prescribed in the appropriate Terminal Equipment Technical Requirements document(s). The Department does not guarantee the equipment will operate to the user's satisfaction.
- Before installing this equipment, users should ensure that it is permissible to be connected to the facilities of the local telecommunications company. The equipment must also be installed using an acceptable method of connection.

The customer should be aware that compliance with the above conditions may not prevent degradation of service in some situations.

Repairs to certified equipment should be coordinated by a representative designated by the supplier. Any repairs or alterations made by the user to this equipment, or equipment malfunctions, may give the telecommunications company cause to request the user to disconnect the equipment.

Users should ensure for their own protection that the electrical ground connections of the power utility, telephone lines and internal metallic water pipe system, if present, are connected together. This precaution may be particularly important in rural areas.

Caution: Users should not attempt to make such connections themselves, but should contact the appropriate electric inspection authority, or electrician, as appropriate.

- 2** The user manual of analog equipment must contain the equipment's Ringer Equivalence Number (REN) and an explanation notice similar to the following:

The Ringer Equivalence Number (REN) of the modem, which can vary.
For the REN of your modem, refer to your modem's label.

NOTICE: The Ringer Equivalence Number (REN) assigned to each terminal device provides an indication of the maximum number of terminals allowed to be connected to a telephone interface. The termination on an interface may consist of any combination of devices subject only to the requirement that the sum of the Ringer Equivalence Numbers of all the devices does not exceed 5.

- 3** The standard connecting arrangement (telephone jack type) for this equipment is jack type(s): USOC RJ11C.

The IC registration number of the modem is shown below.

CANADA: 1353 11026A

Notes for Users in Australia and New Zealand

Modem warning notice for Australia

Modems connected to the Australian telecoms network must have a valid Austel permit. This modem has been designed to specifically configure to ensure compliance with Austel standards when the region selection is set to Australia.

The use of other region setting while the modem is attached to the Australian PSTN would result in you modem being operated in a non-compliant manner.

To verify that the region is correctly set, enter the command ATI which displays the currently active setting.

To set the region permanently to Australia, enter the following command sequence:

```
AT%TE=1
ATS133=1
AT&F
AT&W
AT%TE=0
ATZ
```

Failure to set the modem to the Australia region setting as shown above will result in the modem being operated in a non-compliant manner. Consequently, there would be no permit in force for this equipment and the Telecoms Act 1991 prescribes a penalty of \$12,000 for the connection of non-permitted equipment.

Notes for use of this device in New Zealand

- The grant of a Telepermit for a device in no way indicates Telecom acceptance of responsibility for the correct operation of that device under all operating conditions. In particular the higher speeds at which this modem is capable of operating depend on a specific network implementation which is only one of many ways of delivering high quality voice telephony to customers. Failure to operate should not be reported as a fault to Telecom.
- In addition to satisfactory line conditions a modem can only work properly if:
 - a/ it is compatible with the modem at the other end of the call and
 - b/ the application using the modem is compatible with the application at the other end of the call - e.g., accessing the Internet requires suitable software in addition to a modem.

- This equipment shall not be used in any manner which could constitute a nuisance to other Telecom customers.
- Some parameters required for compliance with Telecom's PTC Specifications are dependent on the equipment (PC) associated with this modem. The associated equipment shall be set to operate within the following limits for compliance with Telecom Specifications:
 - a/ There shall be no more than 10 call attempts to the same number within any 30 minute period for any single manual call initiation, and
 - b/ The equipment shall go on-hook for a period of not less than 30 seconds between the end of one attempt and the beginning of the next.
 - c/ Automatic calls to different numbers shall be not less than 5 seconds apart.
- Immediately disconnect this equipment should it become physically damaged, and arrange for its disposal or repair.
- The correct settings for use with this modem in New Zealand are as follows:
 - ATB0 (CCITT operation)
 - AT&G2 (1800 Hz guard tone)
 - AT&P1 (Decadic dialing make-break ratio =33%/67%)
 - ATS0=0 (not auto answer)
 - ATS6=4 (Blind dial delay)
 - ATS7=less than 90 (Time to wait to carrier after dialing)
 - ATS10=less than 150 (loss of carrier to hangup delay, factory default of 15 recommended)
 - ATS11=90 (DTMF dialing on/off duration=90 ms)
 - ATX2 (Dial tone detect, but not (U.S.A.) call progress detect)
- When used in the Auto Answer mode, the S0 register must be set with a value 3 or 4. This ensures:
 - (a) a person calling your modem will hear a short burst of ringing before the modem answers. This confirms that the call has been successfully switched through the network.
 - (b) caller identification information (which occurs between the first and second ring cadences) is not destroyed.

- The preferred method of dialing is to use DTMF tones (ATDT...) as this is faster and more reliable than pulse (decadic) dialing. If for some reason you must use decadic dialing, your communications program must be set up to record numbers using the following translation table as this modem does not implement the New Zealand "Reverse Dialing" standard.

Number to be dialed: 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9

Number to program into computer: 0 9 8 7 6 5 4 3 2 1

Note that where DTMF dialing is used, the numbers should be entered normally.

- The transmit level from this device is set at a fixed level and because of this there may be circumstances where the performance is less than optimal. Before reporting such occurrences as faults, please check the line with a standard Telepermitted telephone, and only report a fault if the phone performance is impaired.
- It is recommended that this equipment be disconnected from the Telecom line during electrical storms.
- When relocating the equipment, always disconnect the Telecom line connection before the power connection, and reconnect the power first.
- This equipment may not be compatible with Telecom Distinctive Alert cadences and services such as FaxAbility.

NOTE THAT FAULT CALLOUTS CAUSED BY ANY OF THE ABOVE CAUSES MAY INCUR A CHARGE FROM TELECOM

General conditions

As required by PTC 100, please ensure that this office is advised of any changes to the specifications of these products which might affect compliance with the relevant PTC Specifications.

The grant of this Telepermit is specific to the above products with the marketing description as stated on the Telepermit label artwork. The Telepermit may not be assigned to other parties or other products without Telecom approval.

A Telepermit artwork for each device is included from which you may prepare any number of Telepermit labels subject to the general instructions on format, size and colour on the attached sheet.

The Telepermit label must be displayed on the product at all times as proof to purchasers and service personnel that the product is able to be legitimately connected to the Telecom network.

The Telepermit label may also be shown on the packaging of the product and in the sales literature, as required in PTC 100.

The charge for a Telepermit assessment is \$337.50. An additional charge of \$337.50 is payable where an assessment is based on reports against non-Telecom New Zealand Specifications. \$112.50 is charged for each variation when submitted at the same time as the original.

An invoice for \$NZ1237.50 will be sent under separate cover.

4

アフターケアについて

保守サービスについて

保守サービスへのご相談は、『東芝 PC サポートのご案内』をご覧ください。

保守・修理後はパソコン内のデータはすべて消去されます。

保守・修理に出す前に、ご自分で作成したデータの他に次のデータのバックアップをとってください。

消耗品について

次の部品は消耗品です。

- バッテリーパック（充電式リチウムイオン電池）
長時間の使用により消耗し、充電機能が低下します。
充電機能が低下した場合は、別売りのバッテリーパック（PBAS009）と交換してください。
- 時計用バッテリー（交換は有償です）
- アクュポイントキャップ（交換は同梱されているものを使用してください）

消耗した場合は、お使いの機種をご確認後、お買い求めの販売店、または保守サービスにご連絡ください。

補修用性能部品について

本製品の補修用性能部品（本製品の機能を維持するために必要な部品）の最低保有期間は、製造終了後6年間です。

5

廃棄について

バッテリーパックについて

不要になったバッテリーパックは、貴重な資源を守るために廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。その場合、ショート防止のため電極にセロハンテープなどの絶縁テープを貼ってください。



Li-ion

■ バッテリーパック（充電式電池）の回収、リサイクルおよびリサイクル協力店に関するお問い合わせ先

社団法人 電池工業会
TEL / 03-3434-0261
ホームページ / <http://www.baj.or.jp>

パソコン本体について

本製品を廃棄するときは、地方自治体の条例または規則に従って処理してください。詳しくは、各地方自治体にお問い合わせください。（本製品は、プリント基板の製造に使用するのはんだには鉛が、LCD表示部に使用している蛍光灯には水銀が含まれています。）

■ パソコン内のデータの消去について

パソコン内のデータは、「削除」や「フォーマット」を行なっただけでは、特殊なソフトウェアなどの使用により、消したはずのデータが再生されることがあります。

パソコンの廃棄の際に、ハードディスクに保存されたデータの完全消去を行う場合には専門業者に依頼もしくは市販のソフトウェアなどをお使いになることをおすすめいたします（有償）。

本件に関するお問い合わせは、東芝PCダイヤル（巻末参照）にご連絡ください。

■ お客様登録の削除について

お客様登録されている製品を廃棄される場合は、「パソコンお客様ご登録係」までご連絡のうえ、登録の削除の手続きをお願いいたします。

パソコンお客様ご登録係

TEL / 043-278-5997

受付時間 / 9:00 ~ 17:00（土・日、祝日、特別休日を除く）

6

アプリケーションの お問い合わせ先

* 2001年11月現在の内容です。

本製品に用意されているアプリケーションのお問い合わせ先は、次のとおりです。各アプリケーションのユーザ登録については、それぞれのお問い合わせ先までお問い合わせください。

アプリケーション名：

Acrobat Reader／Fn-esse／Internet Explorer／Outlook Express／
PC診断ツール／内蔵モデム用地域選択ユーティリティ

お問い合わせ先：

東芝（東芝PCダイヤル）

ナビダイヤル 0570-00-3100

受付時間：9:00～19:00（祝日、12/31～1/3を除く）

電話番号はおまちがえのないよう、お確かめのうえ、おかけいただきますようお願いいたします。お客様からの電話は全国6箇所（千葉市、大阪市、名古屋市、福岡市、仙台市、札幌市）の最寄りの拠点に自動的に接続されます。拠点までの電話料金は有料となります。また海外からの電話、携帯電話などで上記電話番号に接続できないお客様は、043-298-8780でお受けしています。

ご注意

- ・ナビダイヤルでは、ダイヤル後に通話区間料金のアナウンスが流れます。これはお客様から全国6箇所の最寄りの拠点までの通常電話料金で、サポート料金ではありません（サポート料金は無料です）。
- ・ナビダイヤルでは、NTT以外とマイラインプラスをご契約の場合でも、自動的にNTT回線を使用することになりますので、あらかじめご了承ください。

アプリケーション名：

駅すばあと

お問い合わせ先：

株式会社ヴァル研究所 ユーザーサポートセンター

TEL：03-5373-3522

受付時間：10:00～12:00、13:00～18:00（土・日・祝日を除く）

FAX：03-5373-3523

E-mail：support@val.co.jp

* ユーザー登録されたお客様が対象となります。

ホームページ：http://www.ekiworld.net/

アプリケーション名： Norton AntiVirus 2002
お問い合わせ先： ＜技術的なお問い合わせ＞ シマンテックテクニカルサポートセンター 上記サポートセンターをご利用いただくためには、以下のシマンテックホームページにてカスタマーIDの取得が必要です。 http://www.shop.symantec.co.jp/oem/toshiba/2002/ TEL : 03-3476-1118 受付時間 : 10:00～12:00、13:00～17:00 (土・日・祝日・年末年始を除く) FAX : 03-3477-1118 ※本製品でNorton AntiVirus 2002をご使用の場合、電話によるサポートは製品のご使用を開始されてから90日間となります。それ以降は、有償サポートをご購入いただくことでサポートを受けていただくことが可能となります。 ＜カスタマーID取得、およびご購入前の一般的なご質問に関するお問い合わせ＞ コンシューマ・カスタマーサービスセンター TEL : 03-3476-1156 受付時間 : 平日10:00～12:00、13:00～17:00 (土・日・祝日・年末年始を除く) FAX : 03-3476-1159

7

トラブルチェックシート

パソコンの操作について、困ったときは、東芝PCダイヤルに連絡してください。

記述的なご質問、お問い合わせにお答えします。

東芝PCダイヤル

技術的なご質問、お問い合わせに電話でお答えします。

※受付時間／9：00～19：00

(祝日、12/31～1/3を除く)

ナビダイヤル

全国共通電話番号

0570-00-3100

【電話番号はおまちがえのないよう、お確かめのうえ、おかけいただけますようお願いいたします】

付録

お客様からの電話は全国6箇所（千葉市、大阪市、名古屋市、福岡市、仙台市、札幌市）の最寄りの拠点に自動的に接続されます。

ナビダイヤルでは、ダイヤル後に通話区間料金のアナウンスが流れます。これはお客様から全国6箇所の最寄りの拠点までの通常電話料金で、サポート料金ではありません（サポート料金は無料です）。

ナビダイヤルでは、NTT以外とマイラインプラスをご契約の場合でも、自動的にNTT回線を使用することになりますので、あらかじめご了承ください。

次のようなお電話は、上記の電話ではお受けできません。

該当されるお客様は、043-298-8780（直通）をご利用ください。

- 海外からのお電話
- 携帯電話、PHS
- NTT以外の電話事業者を経由しての接続（0088、0077など）
- 企業で一部使用されている契約回線
- 企業のPBXで「0570」が使用できない設定になっているもの



- α -LCR / Super-LCR などの設定でご使用のお電話は、設定を解除することで「0570-00-3100」をご利用いただけます（解除方法はお手持ちの『電話機に付属の説明書』をご覧ください）。
- 「東芝 PC FAX 情報サービス」からも、商品情報、Q&A などの情報を FAX（G3 規格）で入手することができます。
- 「東芝 PC テクノセンタ」（東京 / 大阪）では対面相談を受け付けております（技術相談 / 作業は有償）





詳細について ⇨ 『東芝 PC サポートのご案内』

トラブルチェックシート

円滑に対応させていただくために、お問い合わせの前に下記の内容をご確認のうえ、お問い合わせください。

次の内容の他に、オペレーティングシステムのバージョンやCPUの種類について東芝PCダイヤルから聞かれた場合は、[PC診断ツール]の[基本情報の表示]ボタンをクリックしてご確認ください。

 参照 PC診断ツール  《オンラインマニュアル》

【ご使用の環境について（使用中のパソコン環境）】

Q.1 ご使用になっているパソコン名（型名）は？
（本体や取扱説明書をご覧ください）

機種名： _____

下記の情報をお尋ねすることがございます。

（製造番号： _____、購入店： _____、購入日： _____ など）

Q.2 ご使用になっているソフトウェア環境は？

Windows®2000など、お使いのシステムとアプリケーションをお知らせください

OS（システム名）： _____

その他： _____

Q.3 どのような症状が起きましたか？

症状： _____

Q.4 その症状はどのような操作をした後、発生するようになりましたか？

操作内容： _____

Q.5 エラーメッセージなどは表示されましたか？

表示内容：

Q.6 その症状はどれくらいの頻度で発生しますか？

- 一度発生したが、その後発生しない
- 電源を切らないと発生するが、電源を切って再起動すれば発生しない
- 電源を切ってから再起動しても必ず発生する
- その他：

Q.7 その症状が発生するのは決まった操作の後ですか？

- ある一定の操作をすると発生する
- どんな操作をしても発生する
- その他：

Q.8 インターネットや通信に関するご相談の場合

プロバイダ名：

使用モデム名：

使用回線： 内線発信アリ 内線発信ナシ 携帯 PHS
 ダイヤル回線 プッシュホン回線 ISDN


Q.9 お問い合わせの内容が周辺機器の場合、ご使用になっている周辺機器名は何ですか？

機器名（製品名）：

メーカー名：

さくいん

(記号)

 キーを使ったショートカットキー 61

(A)

AC アダプタ 34
AC アダプタの接続 11
Alt キー 56
Application CD-ROM 173

(B)

BackSpace キー 57
Battery LED 37
Break キー 57

(C)

CapsLock 英数キー 56
CRT ディスプレイの接続 118
Ctrl キー 56

(D)

DC IN LED 37
Del キー 57
Disk LED 37

(E)

Enter キー 57
Esc キー 56

(F)

Fn キー 57
Fn キーを使った特殊機能キー 59

(I)

Ins キー 57

(L)

LAN ケーブルの接続 122
LAN コネクタ 35, 107

(P)

Pause キー 57
PC カードスロット 35, 106
PC カードの取り付け 111
PC カードの取りはずし 112
Power LED 37
Product Recovery CD-ROM 173
PrtSc キー 57

(S)

Shift キー 56, 57
Space キー 56
SysRq キー 57

(T)

Tab キー 56

(U)

USB コネクタ 35, 107
USB 対応機器の取り付け 114
USB 対応機器の取りはずし 115

(W)

Windows のセットアップ 10
Win キー 56

(ア)

- アキュポイントII 32, 52
- アキュポイントIIの取り扱い 65
- アプリケーションキー 57

(エ)

- 液晶ディスプレイの取り扱い 64

(オ)

- オーバレイキー 57
- 音楽の録音レベルを調節する 45
- 音声の録音レベルを調節する 45
- [音量] アイコン 42

(カ)

- 海外でインターネットに接続する
..... 49
- カタカナ／ひらがなキー 57

(キ)

- キーフロッピーディスクの作成 ... 91
- キーボード 32, 56
- キーボードの取り扱い 64
- 休止状態 97

(ク)

- クリック 53

(コ)

- コントロールボタン 32, 52

(サ)

- 再起動する 30
- 再セットアップ 172

(シ)

- システムインジケータ 32
- システムスピーカ 46
- 省電力モードの詳細設定 84
- 省電力ユーティリティ 80
- 省電力ユーティリティのヘルプ ... 86

(ス)

- スクリーンセーバーの解除 94
- スクリーンセーバーのパスワード保護
..... 93
- スクロールボタン 32
- スタンバイ 95
- スピーカの音量を調節する 42

(セ)

- セキュリティロック・スロット ... 33

(ソ)

- 増設メモリスロット 36, 107

(タ)

- ダブルクリック 54

(ツ)

- 通風孔 32

(テ)

- データのバックアップ 66
- ディスプレイ 32, 38
- 電源コード 34
- 電源コードの接続 11
- 電源コードの取り扱い 64
- 電源コネクタ 33
- 電源スイッチ 32

電源を入れる	12
電源を入れる (2 回目以降)	26

(ト)

特殊機能キー	61
時計用バッテリー	76
ドライバをインストールする	108
ドラッグアンドドロップ	55

(ナ)

内蔵マイク	32
内蔵モデム	47

(ニ)

日本語入力システム	62
-----------------	----

(ハ)

ハードディスクドライブ	40
パスワードセキュリティ機能	87
パソコン本体の取り扱い	63
バッテリー駆動での使用できる時間	78
バッテリー充電量が減少したとき ...	75
バッテリー充電量を確認する	74
バッテリーの充電方法	77
バッテリーの充電保持時間	78
バッテリーの取り付け	79
バッテリーの取りはずし	79
バッテリーバック	33
バッテリーを充電する	72
パネルスイッチ機能	100
半/全キー	56

(フ)

ファンクションキー	56
プラグアンドプレイ	108

(ヘ)

ヘッドホン出力端子	35, 106, 117
ヘッドホンの接続	117
変換キー	57

(ホ)

ポインタ	53
ポインティング装置の取り扱い ...	65
ボリュームダイヤル	42

(マ)

マイク入力端子	35, 106, 116
マイクロホンの接続	116
マスタ音量	43

(ミ)

右クリック	54
ミニ RGB ケーブル	34
ミニ RGB コネクタ	35, 106

(ム)

無変換キー	56
-------------	----

(メ)

メモリの取り付け	126
メモリの取りはずし	128
メモリ容量の確認	129

(モ)

文字キー	58
モジュラーケーブル	34
モジュラーケーブルの取り付け ...	48
モジュラーケーブルの取りはずし	48

モジュージャック	33, 107
持ち運ぶとき	66

(ヤ)

矢印キー	57
------------	----

(ユ)

ユーザ登録	23
ユーザパスワード	88
ユーザパスワードとして 使用できる文字	88
ユーザパスワードの削除	90
ユーザパスワードの登録	89
ユーザパスワードの入力	92
ユーザパスワードを 忘れてしまった場合	92

(リ)

リカバリ CD	173
---------------	-----